

は し が き

本報告書は、2012年度に社会計画論専門演習において実施した福島県湯川村中台集落での調査研究結果をまとめたものです。

本演習では、地方小都市や農山漁村での地域再生の実践に焦点を当て、人と人、人と自然がつながる地域コミュニティの可能性と課題について考えてみることをテーマとしました。こうした地域には、“少子高齢化”“過疎化”“耕作放棄”“限界集落”“シャッター通り”といった言葉に連想されるような「暗さ」がつきまとってはいますが、その一方で、集落、自治体、大学、NPO、協同組合、あるいは都市地域住民とのネットワークを構築しながら、地域住民が自らの暮らしの価値観を構築し地域再生を模索するような試みが各地に生まれています。演習ではとくに、地域住民が主体となり、外部者の視点や助言を得ながら地域を調べ、地元の固有性や豊かさへの視点を開発して地域づくりに生かしていこうとする「地元学」の取り組みに着目して、文献学習およびフィールドワークを行うこととしました。フィールドワーク地としては、福島県事業「大学生の力を活用した集落復興支援事業」を申請して、湯川村中台集落で実施させていただくことになりました。

この1年を振り返ると、まず6月29日に予備調査として湯川村役場を訪問し、大塚村長からお話を伺いました。その後、中台集落で片桐区長さんをはじめ役員の方にご挨拶をし、岩澤マツさんのお宅を訪問して蔵の中を見せていただきました。

予備調査後、学生たちは、夏休みに実施する本調査に向けて調査票の設計に取り組みました。ここでは、学生が小グループに分かれてお宅を訪問して行う聞き取り調査を主軸としつつも、聞き取り調査の際にお会いできない後継者の方や女性たちのご意見も伺いたいと考え、書面アンケート調査も実施することとしました。2種類の調査票の作成は、学生にとってかなり大変な作業だったようです。

本調査は、8月19～21日に実施しました。大変暑い時期でしたが、コーディネートをしてくださった区長さんのおかげで、集落内の多くの方が聞き取りに対応してくださいました。湯川村のご協力で宿泊場所として「ユースピアゆがわ」を使用することができ、村長からはおいしい湯川米の差し入れをいただきました。また、2日目の夜には、集落の役員の方、役場職員の方々と夕食会を設けていただき、学生たちにとって貴重な交流の機会となりました。

秋以降は報告書作成に向けて、アンケートの集計、聞き取り結果の整理と分析作業が始まりました。学生たちは、ゼミの時間以外にも頻りに集まってサブゼミを実施し、調査結果のまとめに頭を悩ませました。11月3日は、中台集落の収穫祭に参加させていただき、住民の方々と楽しい交流機会をもつことができ、学生たちも少し息抜きができたのではないかと思います。

11月22日は、湯川村、湯川村議会と福島大学地域創造支援センターとの共催により、「地域活性化フォーラム」が開催され、学生たちが中台集落調査結果の報告を行いました。続いて、12月22日には、福島県主催の「地域づくりオープンカフェ」で他大学の学生とともに調査結果のプレゼンテーションを行いました。それが終わるや否や、年明けからは報告書の作成が待っていました。学生たち自身、住民の皆さんにとって少しでも役に立つような成果を還元したいと思い、懸命に調査結果を整理してようやくここに報告書を完成させることができました。この間の取り組みについては、「大変だったがやってよかった」、「どこのゼミよりもまじめに取り組んだ」というような感想が学生たちの間から聞こえてきました。

地域づくりの現場では、「若者、ばか者、よそ者」が必要だとよく指摘されます。大学生は、この3つの要素をすべて兼ね備えた貴重な人材であるといえるでしょう。学生、大学教員も、湯川村に移住しない限りは所詮「よそ者」でしかありません。日帰りの予備調査、わずか2泊の本調査で集落の現状をどれだけ正確につかめたのかは心もとありませんが、「風の人」である若い「よそ者」たちの提案を、「土の人」である中台集落の住民の皆さんがどのように受けとめてくださるか、楽しみでもあります。

最後になりましたが、本調査の実施にあたって多大なるご支援・ご協力をいただいた湯川村、中台集落の皆様、そして福島県地域振興課に心より感謝を申し上げ、今後ともいっそうのご教示をお願い申し上げます。

岩崎 由美子（ゼミ担当教員）

福島県湯川村中台集落調査報告

目次

第1章	湯川村の概況	
第1節	はじめに.....	2
第2節	概況.....	10
第3節	産業.....	14
第4節	第4次湯川村振興計画と道の駅構想.....	18
第2章	中台集落の概況	
第1節	概況.....	24
第2節	農業経営について.....	35
第3章	中台集落の住民意識	
第1節	中台集落における暮らしについて.....	44
第2節	農業経営・経営農地の承継について.....	50
第3節	集落の課題について.....	52
第4章	まとめと考察	
第1節	全体を通じて.....	64
第2節	活性化の方向性について.....	65
第3節	空き家、耕作放棄地について.....	67
第4節	道の駅について.....	70
第5節	おわりに.....	71
第5章	中台集落合宿の感想文.....	72
<付表>	聞き取り調査結果一覧表.....	86
付属資料		
	フォトアルバム.....	105
	プレゼンテーション資料.....	107



大晦日の中台集落 (写真提供：佐藤義弘氏)

第1章 湯川村の概況

第1節 はじめに

大越 麻由

第2節 概況

高信 明宏

第3節 産業

高信 明宏

第4節 第4次湯川村振興計画と道の駅構想

中山 拓大



第1節 はじめに

1. 調査の目的

東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所の事故により、福島県は震災以前の生活と大きく様変わりした。過疎地域にある集落では、高齢化、若者の流出などの以前から抱えていた問題に加え、震災によるコミュニティの分断化が重なり、より大きな課題となっている。私たちは、福島県地域振興課の委託事業「平成24年度大学生の力を活用した集落復興支援事業」に応募することで、このような状況下で学ぶ大学生として、集落を少しでもサポートできないかと調査を行った。調査先は福島県湯川村の中台集落である。中台集落は高齢化、後継者の他出による集落維持問題、空き家、耕作放棄地などの課題を抱えている。私たちは、これらの解決に向け集落住民と共に集落の維持・活性化のための取り組みを行うにあたり、現在の集落での生活や営農状況、集落活性化に対する意識を明らかにするために現地調査を行った。

さらに、ゼミのテーマである地元学の手法を用いて集落の魅力の発見活動を行った。「地元学」とは「ないものねだり」ではなく「あるものさがし」をすることによって、地域の持っている力、人の持っている力を引き出し、地域づくりに役立てていくというものである。集落が抱える課題だけでなく、多くの「お宝」を発掘し、集落の持つ潜在能力を引き出すために地域資源マップを作成した。

2. 調査の概要

調査は、戸別聞き取り調査（21戸中19戸で実施）とアンケート調査（80名中46名）にわけて実施した。戸別聞き取り調査は、一戸あたり3～4名の学生のグループが実際にご自宅に訪問し、一世帯あたり90分で実施する予定で実施した。しかし、多くの世帯で予定時間を大きく上回り調査に協力してくださった。戸別聞き取り調査の調査票概要は図1-1-1を参照していただきたい。

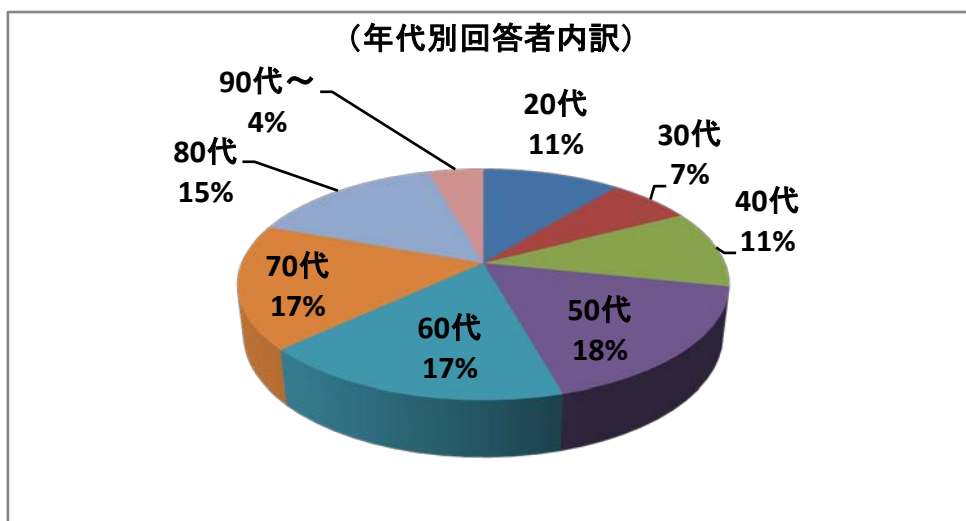
また、アンケート調査は、高校生以上の住民を対象に実施した。戸別聞き取り調査の際に家族の構成員分の調査票と返信用封筒を配布し、回答後に郵送により回収した。なお、アンケート調査のGT表はI-8ページ以降に掲載した。

二種類の調査方法をとった理由は、性別や年齢によらず多くの住民の意見を聞き取るためである。聞き取り調査では住民の生の声を聞くことができるが、世帯主の方の意見が中心になってしまう傾向にある。そのため、集落活性化に必要な若い住民や女性の意見を把握するためにアンケート調査も併せて実施した。なお、アンケート調査では計46名（男女各23名ずつ）の方から回答を頂いた。年代別、職種別の回答者内訳は図1-1-2及び図1-1-3を参照していただきたい。

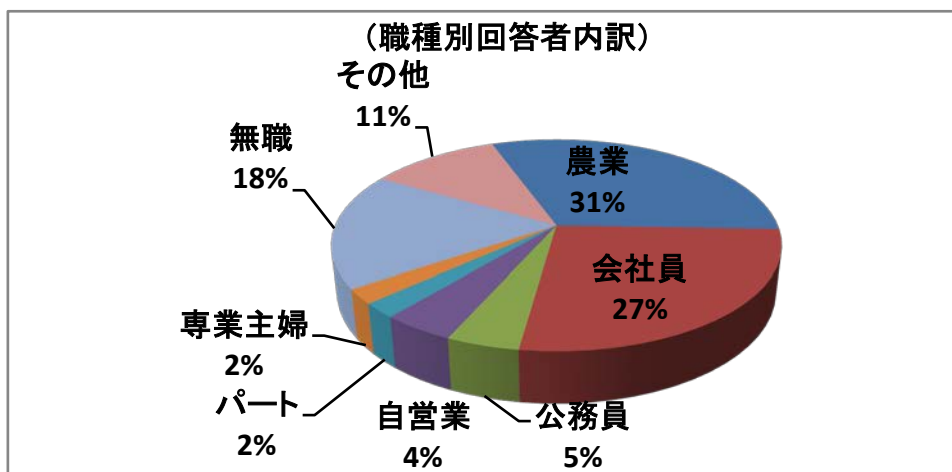
図表 1-1-1 聞き取り調査項目概要

I. 家族構成について (家族構成、就労・就学状況、農作業従事、健康状態、後継者問題、集落での役職等)
II. 農業経営について (現在の経営耕地面積、農業受委託、作付作物、保存品・加工品、震災の影響等)
III. 農業経営・経営農地の承継について (5年後の営農見通し、世代交代時の農地の影響等)
IV. 日頃の中台集落での暮らし (交通手段、生活の不安、近所付き合いの程度、郷土料理、集落の好きなところ等)
V. 集落の役割と課題 (集落共同作業、Iターン、道の駅構想、空き家蔵の活用等)

図表 1-1-2 アンケート調査 年代別回答者内訳



図表 1-1-3 アンケート調査 職種別回答者内訳



参考：アンケート調査 GT 表

湯川村中台集落の地域活性化に関するアンケート調査

2012年8月

.....アンケートご協力をお願い.....

こんにちは！私たちは福島大学行政政策学類の岩崎専門演習に所属する学生です。大学では、過疎地域問題や住民が主体となったまちづくりについて学んでいます。このたび、湯川村中台集落の高校生以上の住民の方を対象に、日常の暮らしや営農、集落の活性化についてのお考えを伺うアンケート調査を企画しました。

アンケートの回答は無記名で、ご回答いただいた内容は数字に置き換えて集計しますので、ご迷惑をおかけすることのないように十分に注意いたします。

回答していただいた調査票は、同封の返信用封筒で、8月末頃を目処に投函いただくと幸いです。

お忙しいところ恐れ入りますが、何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

企画・実施：福島大学行政政策学類 岩崎専門演習
(TEL:024-548-8295)

アンケート結果の概要

問1 性別 (1つだけに○) サンプル数：46

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 男 (50.0%) | 2. 女 (50.0%) |
|--------------|--------------|

問2 年齢 (1つだけに○) サンプル数：46

- | | | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 19歳以下 (-) | 2. 20~29歳 (10.9%) | 3. 30~39歳 (6.5%) |
| 4. 40~49歳 (10.9%) | 5. 50~59歳 (17.4%) | 6. 60~69歳 (17.4%) |
| 7. 70~79歳 (17.4%) | 8. 80~89歳 (15.2%) | |
| 9. 90歳以上 (4.3%) | | |

問3 ご職業 (主なもの1つだけに○) サンプル数：46

- | | | |
|---------------|----------------|----------------|
| 1. 農業 (31.1%) | 2. 会社員 (26.7%) | 3. 公務員 (4.4%) |
| 4. 自営業 (4.4%) | 5. パート (2.2%) | 6. 専業主婦 (2.2%) |
| 7. 無職 (17.8%) | 8. その他 (11.1%) | |

問4 家族構成 (1つだけに○) サンプル数：46

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. ひとり暮らし (2.2%) | 2. 夫婦のみ (8.7%) |
| 3. 二世帯同居 (親と子ども) (39.1%) | |
| 4. 三世帯同居 (親と子どもと孫) (41.3%) | 5. 兄弟姉妹と同居 (-) |
| 6. その他 (8.7%) | |

問5 あなたは、農業に従事していますか。また、従事されている場合、農業にはどのような姿勢で取り組んでいますか。（主なもの1つだけに○） サンプル数：45

1. 主な収入源として農業を行っている (8.9%)
2. 補助的な収入源として農業を行っている (11.1%)
3. 趣味や楽しみとして行っている (15.6%)
4. 家の仕事として行っている (33.3%)
5. その他 (8.9%)
6. 関わっていない、関わるできない (22.2%)

問6 「全く関わっていない・関わるできない」という方にお伺いします。今後農業に関わりたいと思いますか。（主なもの1つだけに○） サンプル数：10

1. 主な収入源として農業を行いたい (-)
2. 補助的な収入源として農業を行いたい (-)
3. 趣味や楽しみとして農業を行いたい (20.0%)
4. 家の仕事として行いたい (20.0%)
5. 農地はないが、興味はある (-)
6. 今後も関わりたくない・関わるできない (60.0%)

日常生活の過ごし方についてお伺いします。

問7 日常生活で、普段最も多く利用する交通手段は何ですか。（主なもの1つだけに○）

サンプル数：46

1. 自家用車 (80.4%)
2. 自転車 (2.2%)
3. バス (-)
4. 電車 (-)
5. 家族・知人の車に乗せてもらう (15.2%)
6. その他 (2.2%)

問8 ご近所の方との交流の度合い(頻度)を教えてください。（主なもの1つだけに○印）

サンプル数：46

1. よく行き来し、親しく付き合っている (28.3%)
2. 日常生活で困ったときなどに助けあいをする (15.2%)
3. 日常会話をする程度 (26.1%)
4. 挨拶する程度 (28.3%)
5. 付き合いはほとんどない (2.2%)

問9 中台集落の好きなところを教えてください。（主なもの2つまでに○）

サンプル数：46 回答数：72

1. 自然・景観 (28.3%)
2. 人が親切 (19.6%)
3. 治安がよい (8.7%)
4. 歴史・文化 (2.2%)
5. 住み慣れていて暮らしやすい (43.5%)
6. 集落の雰囲気がい (30.4%)
7. 農業が盛ん (4.3%)
8. 食べ物がおいしい (15.2%)
9. その他 (-)
10. 特にない (4.3%)

問10 現在の中台集落での暮らしにはどの程度満足されていますか。
(1つだけに○)

サンプル数：45

- | | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 1. かなり満足 (22.2%) | 2. ほぼ満足 (55.6%) | |
| 3. どちらともいえない (17.8%) | 4. やや不満 (2.2%) | 5. かなり不満 (2.2%) |

問11 中台集落に足りないと感じるもの・必要だと思うものは何ですか。
(主なもの2つまでに○)

サンプル数：44 回答数：68

- | | | |
|-------------------------|-------------------------|--------------------|
| 1. 公共交通機関 (38.6%) | 2. 働く場所 (18.2%) | 3. 買い物する場所 (36.4%) |
| 4. 余暇・娯楽(レジャー)施設 (2.3%) | 5. 医療・保健施設 (4.5%) | |
| 6. 子どもの教育環境 (-) | 7. 高齢者の福祉施設やサービス (6.8%) | |
| 8. 集落の活気 (13.6%) | 9. その他 (4.5%) | 10. 特にない (25.0%) |

~~※今後の暮らしに地域の活性化については考えがわかれはり。~~

問12 あなたは、今後も中台集落に住み続けたいですか。(1つだけに○)

サンプル数：45

- | |
|--------------------------|
| 1. このまま住み続けたい (93.5%) |
| 2. 村内で別の集落に住みたい (-) |
| 3. 県内のほかの市町村に住みたい (2.2%) |
| 4. 県外に住みたい (2.2%) |

問13 その理由は何ですか。(1つだけに○)

サンプル数：3

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1. 子どもと同居するため (33.3%) | 2. 親戚と同居するため (-) |
| 3. 進学、就職、仕事の関係のため (-) | 4. 高齢者施設に入所するため (-) |
| 5. 便利なまちなかに暮らしたいため (33.3%) | 6. その他 (33.3%) |

問14 将来、集落に戻ってくる気持ちはありますか。(1つだけに○)

サンプル数：1

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. いずれ戻ってくる (-) | 2. 機会があれば戻るつもりである (-) |
| 3. あまり戻るつもりはない (100.0%) | 4. 戻らない(戻れない) (-) |

問15 将来の中台集落での暮らしに不安なことはありますか。

(主なものを2つまでに○)

サンプル数：46

回答数：90

1. 高齢者だけの世帯が増えている (63.0%)
2. 子どもの数が減っている (32.6%)
3. 近所づきあいが減った (2.2%)
4. 家の跡取りがない (23.9%)
5. 農業の後継者がいない (4.3%)
6. 若者が集落を離れる (17.4%)
7. 集落の行事が維持できない (6.5%)
8. 耕作放棄地が増えている (6.5%)
9. 空き家が増えている (4.3%)
10. 通院、買い物等の交通の便 (23.9%)
11. 風評被害など原発事故の影響 (10.9%)
12. その他 (-)
13. 特に不安はない (-)

問16 中台集落を活性化するために行いたいことはありますか。

(主なものを2つまでに○)

サンプル数：42

回答数：67

1. 農産物を外部にアピールする (23.8%)
2. 蔵の活用(例：レストラン、イベント等に使用) (4.8%)
3. 空き家の活用(例：宿泊、イベント、レストラン等に使用) (14.3%)
4. 外の地域からの移住者受け入れ (21.4%)
5. 農家民泊・農業体験の受け入れ (14.3%)
6. 集落の人々が集まる行事を増やす (7.1%)
7. 集落の若者が主体となったイベント (7.1%)
8. 農産物加工や直売活動 (16.7%)
9. 高齢者の技術の伝承の場をつくる (9.5%)
10. お祭りや伝統行事の復活 (16.7%)
11. 自然エネルギー発電の取り組み (14.3%)
12. その他 (4.8%)
13. 特に何か行う必要はない (4.8%)

問17 あなたは、中台集落が今後どんな集落になればいいと思いますか。

(主なものを2つまでに○)

サンプル数：44

回答数：76

1. 自治活動が盛んな集落 (2.3%)
2. 高齢者が元気で長生きできる集落 (50.0%)
3. 歴史や伝統を大切にする集落 (4.5%)
4. 若者の働く場所が確保されている集落 (20.5%)
5. 自然を大切にする集落 (20.5%)
6. 交通の便がよく、暮らしやすい集落 (43.2%)
7. 農業に一生懸命な集落 (13.6%)
8. 外部の人との交流が盛んな集落 (9.1%)
9. 観光が盛んな集落 (-)
10. その他 (2.3%)
11. 特にない (6.8%)

最後に、中台集落やこのアンケートに関してご意見やご感想がありましたら、お書きください。

質問は以上で終了です。お忙しいなかご回答いただき誠にありがとうございました。アンケート用紙は、お近くの学生調査員にお渡しいただくか、返信用封筒で8月末を目処にご投函ください。

3. 調査の経緯

調査は以下の日程で実施した。

日時	内容
2012年6月29日	集落予備調査・湯川村役場訪問 →片桐区長、村長、役場職員からの聞き取り 空き家見学、所有者（岩沢マツさん）からの聞き取り
2012年8月19日～21日	集落本調査 →戸別聞き取り調査・アンケート調査実施 地域資源マップの作成、耕作放棄地の確認、空き家・蔵の実測
2012年11月3日	中台集落収穫祭への参加 →集会所で行われた集落行事への参加
2012年11月22日	湯川村での中間報告会 (湯川村地域活性化フォーラムへの参加)
2012年12月22日	平成24年度大学生の力を活用した集落復興支援事業に係る活動報告会『地域づくりオープンカフェ』への参加
2013年3月24日	中台集落での調査報告会 百万遍念仏への参加、集落住民との交流会

4. 中台集落側の問題意識

集落活性化調査受け入れ応募申請書（次ページを参照）によると、中台集落は元気な高齢者が多く、農業に励んでいる姿も多くみられる一方で、今後の地区内の農地の維持が課題となっているようだ。集落の共同作業も高齢化や後継者の他出により参加が困難になっている住民もいるようである。集落では、今回の調査において、これらの問題による集落の活力低下の中で、空き家などの活用による集落活性化および増加傾向にある耕作放棄地の活用方を私たちとともに考え、実施していくことを期待している。

(参考)

集落活性化調査受入応募申請書〔集落用〕

フリガナ 集落名 (集落のある市町村名)		なかだい 中台集落 (湯川村)		
代表者	フリガナ 氏名	かたぎり けんいち 片桐 健一	Ⓐ・女	
集落状況	人口	80人(男性39人・女性41人)	世帯数	21世帯
	集落の紹介	当集落は、戸数22戸中農家19戸である。うち専業農家1戸、また60歳以下の基幹的農業従事者は5名となっている。湯川村は会津若松市、喜多方市、会津坂下町に隣接していることから、概ね30分以内の通勤圏内に位置しており、水稻経営を主とした第二種兼業がほとんどである。 集落の行事としては、毎年旧暦の2月15日前の日曜日に「百万遍念仏講」を行っている。これは、1745年に作られ受け継がれてきた長さ12mの数珠を手に念仏を唱える行事である。また、毎年11月3日には集落総出による収穫祭を行い、地域の絆を深めている。		
集落の現状と課題		80歳を過ぎても元気に農業に従事している高齢者が多くみられる一方、近い将来集落内の農地をどう維持していくかが緊急の課題である。また、後継者でも県外等に居住しているものもあり、今後集落の存続自体も懸念される。 例えば、毎年4月と7月の2回、用排水路の清掃を行っているが、高齢者世帯等を始め、不参加者等もみられるようになっている。		
協力できる受入体制		・集落実態調査への協力 ・大学生とともに集落活性化について話し合う場の設置 ・集落の行事や農作業等を介したイベントへの大学生の参加		
応募理由 (大学生に期待すること)		上記のように、地域住民の高齢化、後継者の域外居住などに伴い、集落の活力低下が懸念されることから、集落の空家などを活用し、県外を含めた村外の人々を呼び込むことにより、集落の活性化を図ってまいりたい。 また、遊休農地が増えていることから、その活用方策に図っていききたい。 以上2つの観点等から大学生のアイデア等をもらうこととしたい。		
大学生受入実績		今から7~8年前に2戸で東洋大学の学生を受け入れ、グリーンツーリズムのような取り組みを実施した。		
市町村記入欄 市町村の推薦理由等		〔市町村担当課：地域振興課 担当職員名：渡邊賢一〕 ○集落の高齢化率36.3% ○推薦理由 湯川村は、「第四次湯川村振興計画」において「人口規模3,800人を目指したむらづくり」を掲げている。このことから、今回の中台集落の取り組みは村の政策にも合致するため推薦したい。		

第2節 概況

1. 湯川村の位置と気候

湯川村は福島県河沼郡、会津盆地の中心に位置している（図表 1-2-1）。周囲は西に会津坂下町、北に喜多方市、南に会津若松市と接している。公共交通機関としては JR 磐越西線笈川駅また会津乗合自動車株式会社が会津若松市と湯川村間での路線バスを運行している。村内に高速道路 IC はないが、磐越自動車道会津若松 IC から国道 121 号線を通って 10 分程度で湯川村に行くことができる。町の面積は 16.36k m²であり、次に小さな市町村が中島村の 18.91k m²で、湯川村が福島県内で最も小さな自治体となっている。標高は約 180m であり、村内には一切山がなく平坦である。東に秀峰・会津磐梯山を望むことができ、北端に日橋川、西端に阿賀川（大川）が流れている。

図表 1-2-1 湯川村の位置



福島県湯川村公式 WEB サイト <http://www.vill.yugawa.fukushima.jp/soumu/access.html>
より

気候は内陸性気候で、冬は早くから雪が降り、寒気が厳しいが、盆地の影響を受け、夏は気温が上昇して昼夜の気温差がかなり大きくなる。

2. 人口

平成 22 年度 10 月 1 日の国勢調査によると、湯川村の人口は 3,364 人、世帯数は 915 世帯となっている。昭和 22 年の 5,917 人をピークとしてその人口は年々減少の傾向を辿っている。1985 年（昭和 60）年の人口（3,811 人）と比較すると、2010（平成 22）年には 1 割程度減少しており、高齢化率も 1985（昭和 60）年から 11.1 ポイント上昇し、県高齢化率よりも 3.7 ポイント高い結果となっている（図表 1-2-2）。

図表 1-2-2 湯川村の状況

区分	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
人口（人）	3,811	3,683	3,642	3,601	3,570	3,364
世帯数	829	823	835	875	904	915
村高齢化率	17.6	20.7	25.4	27.2	28.4	28.7
県高齢化率	11.9	14.3	17.4	17.1	22.7	25.0
国高齢化率	10.3	12.1	14.5	17.3	20.1	23.1

人口及び高齢化率等は各年 10 月 1 日現在「国勢調査」

3. 文化

湯川村の文化の象徴として東北を代表する古刹の勝常寺がある。勝常寺には国宝及び国重要文化財 12 軀を含めて三十余軀の仏像がある。807 年に法相宗の碩学徳一上人によって開かれ、これだけ多くの平安初期の仏像が一ヶ所に保存されているのは日本国内でも珍しく、県内外から多くの参拝客が訪れる。

勝常寺において毎年 4 月 28 日薬師如来の祭礼が開かれ、先祖の供養と五穀豊穰を祈願し、「勝常念佛踊り」が奉納される。戦後一時期は中断されていたが 1983（昭和 58）年に有志によって復活し、県の重要無形民俗文化財に指定されている。

村内には中世鎌倉時代初期の古城址である北田城跡、中世から近世にかけて会津盆地の中央から会津北部を抑える拠点であったと考えられる浜崎城跡が残っている。ともに村指定文化財となっている。

地域活性化施設「湯川たから館」では、映画「男はつらいよ」などの撮影監督を務めた高羽哲夫さんと、彫刻家の佐野文夫さんの名誉村民 2 人の遺品や資料を展示している。入場は無料となっており、他には北田城跡出土品なども展示されている。

湯川米の PR を目的として 10 月上旬に役場周辺で「新米まつり」が開催される。内容は昔ながらの鎌を使った稲刈体験や新米の試食、旬の野菜や特産品の販売がされる。平成 24 年には、平成 26 年度オープン予定されている道の駅の PR イベント「道の駅ふれあいフェスタ」と同時開催された。

4. 湯川村の自治体合併について

湯川村は、1957（昭和 32）年に笈川村と勝常村が合併して誕生した。平成の大合併では会津若松市、河東町との合併を模索していたが、村内で合併に対する消極的な意見や時期尚早とする意見が出たことを理由として2004（平成 16）年 11 月 8 日に離脱している。湯川村が離脱後、河東町が会津若松市へ編入合併している。合併からの離脱の経緯は図表 1-2-3 の通りである。湯川村は議員定数を 14 から 10 にするなどして経費削減し、自立への努力を行っている。

図表 1-2-3 合併離脱の経緯

平成 14 年 12 月 12 日	「湯川村市町村合併等調査職員研究会」設置 収入役（会長）、各課等の長の構成 計 4 回開催
平成 15 年 2 月 12 日	「湯川村市町村合併等調査職員研究会」、村長へ報告書 を提出し、同日解散
平成 15 年 2 月 16 日 ～2 月 17 日	「湯川村集落座談会」開催（村内 30 ヶ所 485 名参加） ・市町村合併の取り組みと今後について 「市町村合併に関するアンケート」を実施 全世帯（885 世帯）対象（回収率 81.7%-723 世帯） 合併賛成 65.6%、反対 16.7%、 わからない 15.2%、無回答 2.5%。 合併先としては、 会津若松市（61.5%）、会津坂下町（12.3%）、 塩川町（3.9%）、河東町（2.9%）の順
平成 15 年 2 月 18 日	「会津若松市・河東町・湯川村合併調査会」設置 各市町村担当職員 2 名程度の構成
平成 15 年 5 月 26 日 ～5 月 29 日	「会津若松市・河東町・湯川村合併調査会」調査報告書 を各首長へ報告
平成 15 年 6 月 22 日 ～7 月 26 日	「湯川村集落座談会」開催（町内 53 ヶ所 861 名） ・「会津若松市・河東町・湯川村合併調査会」調査結果 について
平成 15 年 7 月 2 日	湯川村議会「市町村合併等調査特別委員会」設置 議会議員 14 名（当時の定数の全員）が参加
平成 15 年 8 月 21 日	第 1 回会津若松市・河東町・湯川村合併検討協議会 以後、法定協議会となるまで計 6 回開催
平成 15 年 12 月 1 日	「湯川村合併問題調査会」設置

平成 16 年 1 月 15 日 ～1 月 31 日	「新市合併ビジョン（合併版）」の会津若松市・河東町・湯川村全戸配布
平成 16 年 1 月 16 日 ～1 月 24 日	「湯川村集落座談会」の開催（村内 30 ヶ所 443 名参加） ・「新市合併ビジョン」について 法定合併協議会の設置について ・「市町村合併に関するアンケート」を実施 高校生以上 3,127 名対象（回収率 89.2%-2,788 名） 会津若松市・河東町・湯川村の枠組みでの合併についての賛否 賛成 46.7%、反対 24.2%、 わからない 26.6%、無回答 2.5%
平成 16 年 2 月 6 日	湯川村議会市町村合併調査特別委員会 ・集落座談会及びアンケートの結果について
平成 16 年 2 月 26 日 ～3 月 26 日	2 月市議会定例会、3 月町村議会定例会 ・法廷合併協議会の設置議案、予算を可決
平成 16 年 4 月 1 日	「会津若松市・河東町・湯川村合併協議会」設置 同日、合併重点支援地域の指定申請
平成 16 年 10 月 12 日 ～10 月 18 日	市町村合併についての集落説明会（村主催） ・合併に関する意見書の回収
平成 16 年 10 月 17 日	湯川村各種団体との懇親会の開催
平成 16 年 10 月 19 日	湯川村村議会議員全員協議会 湯川村合併問題調査会
平成 16 年 10 月 21 日	正副会長会議において、離脱について協議
平成 16 年 10 月 25 日	湯川村議会臨時会の開催（離脱申し入れ議決） 会長へ離脱の正式な申し入れ
平成 16 年 11 月 8 日	第 8 回法定協議会での離脱承認
平成 17 年 11 月 1 日	河東町が会津若松市へ編入合併

第 1 回会津若松市・河東町・湯川村協議会協議資料 1、合併協議会だより第 7 号²より作成

¹第 1 回会津若松市・河東町・湯川村協議会協議資料
[http://www.gappei-archive.soumu.go.jp/db/07huku/0707kawatou/kaigi1/siryu.pdf#search=%E6%B9%AF%E5%B7%9D%E6%9D%91+%E5%90%88%E4%BD%B5'](http://www.gappei-archive.soumu.go.jp/db/07huku/0707kawatou/kaigi1/siryu.pdf#search=%E6%B9%AF%E5%B7%9D%E6%9D%91+%E5%90%88%E4%BD%B5)

²合併協議会だより第 7 号
[http://www.gappei-archive.soumu.go.jp/db/07huku/0707kawatou/kyougikaidayori/07.pdf#search=%E6%B9%AF%E5%B7%9D%E6%9D%91+%E5%90%88%E4%BD%B5+%E7%B5%8C%E7%B7%AF'](http://www.gappei-archive.soumu.go.jp/db/07huku/0707kawatou/kyougikaidayori/07.pdf#search=%E6%B9%AF%E5%B7%9D%E6%9D%91+%E5%90%88%E4%BD%B5+%E7%B5%8C%E7%B7%AF)

第3節 産業

1. 産業の特徴

村の産業別就業人口（2010年国勢調査）は、第一次産業が22.9%、第二次産業が24.3%、第三次産業が52.7%であり、福島県平均（第一次産業7.6%、第二次産業29.2%、第三次産業60.0%）と比較すると、第一次産業が県平均よりも非常に高くなっているのが特徴的である。基幹産業の農業は稲作を中心に、野菜、畜産、花卉などを組み合わせた複合経営によって営まれている。米が村の特産品にもなっており、水田が村の総面積の60%を占めている。また野菜は夏秋のトマト、キュウリ、グリーンアスパラガスなどが市場に出回っている。他に特産品としては100%湯川村産の大豆で作る純国産手造りみそや無添加・無着色のいちごジャム、いなごの佃煮などがある。村の全世帯の63%を農家が占め、村内の商業は規模が小さく、大半が兼業である。

2. 農業

以下では主に2010年世界農林業センサスにおける湯川村の数値から、同村の農業の特徴を述べていきたい。

まず湯川村で農業を行う経営体は397となっている。すべてが家族経営となっており、農業と林業を併せて行う経営体が16あるものの第1次産業のすべてが農業をおこなっている。農家の年齢について福島県の平均年齢が66.8歳となっていて、湯川村は県平均よりも1.2歳高い68.0歳となっている（図表1-3-1）。年齢階層別でも、県と大きな違いはない。

図表 1-3-1 年齢別農業就業人口（販売農家）

	計	30歳未満	30歳～ 49歳以下	50歳～ 64歳以下	65歳以上	うち75歳以上	平均年齢 (歳)
湯川村 (人)	555	12	19	153	371	165	68.0
(%)	100.0%	2.2%	3.4%	27.6%	66.8%	29.7%	
福島県 (人)	109,048	3,062	6,992	29,290	69,704	35,128	66.8
(%)	100.0%	2.8%	6.4%	26.9%	63.9%	32.2%	

2010年農林業センサス

経営耕地面積別にみると、福島県の平均経営耕地面積（1.71ha）よりも、0.96ha 多い 2.67ha となっており、0.3ha 未満の経営耕地面積も存在しない（図表 1-3-2）。農産物販売金額別経営体数（図表 1-3-3）によると、販売なし・50 万円未満層合わせて福島県では 39.6% 占めているのに対して湯川村は 11.9% となっており、零細規模の農家の割合が相対的に低いことがわかる。

また、100 万円～500 万の金額層は福島県が 31.9% なのに対して、湯川村は 56.4% となっていて、村の経営体の半数を占めている。販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付（図表 1-3-4）によると稲以外の作物でもっと作付されているのが「いも類」の 71 経営体なのに対して「稲」を作付しているのは 389 経営体となっている。また平成 24 年水稻市町村別収穫量³によると、一反あたりの収穫量は 615kg となっており、福島県内で最も多い。以上のことから湯川村は福島県内でも有数の米どころであり、湯川村にとって産業の柱となっていることがわかる。

図表 1-3-2 経営耕地面積別農家数

	計	0.3ha 未満	0.3～ 0.5	0.5～ 1.0	1.0～ 1.5	1.5～ 2.0	2.0～ 3.0	3.0～ 5.0	5.0～ 10.0	10.0 ～	1 経営体 当 たり経営 耕地面積 (ha)
湯川村 (経営体) (%)	397	- 0.0%	19 4.8%	49 12.3%	61 15.4%	54 13.6%	101 25.4%	71 17.9%	33 8.3%	9 2.3%	2.67
福島県 (経営体) (%)	71,654	996 1.4%	10,010 14.0%	21,312 29.7%	13,583 19.0%	8,421 11.8%	8,727 12.2%	5,399 7.5%	2,417 3.4%	789 1.1%	1.71

2010 年世界農林業センサス

³東北農政局 平成 24 年水稻市町村別収穫量（各県）
<http://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/toukei/kekka24/index.html>

図表 1-3-3 農産物販売金額別経営体数

単位：経営体

	計	販売 なし	50万円 未満	50 ～100	100 ～200	200 ～300	300 ～500	500 ～700	700～ 1,000	1,000 ～
湯川村 (戸)	397	13	34	59	85	74	65	31	14	22
(%)	100%	3.3%	8.6%	14.9%	21.4%	18.6%	16.4%	7.8%	3.5%	5.5%
福島県 (戸)	71,654	7,276	21,088	13,453	12,120	5,964	4,800	2,310	2,034	2,609
(%)	100%	10.2%	29.4%	18.8%	16.9%	8.3%	6.7%	3.2%	2.8%	3.6%

2010年世界農林業センサス

図表 1-3-4 販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）

単位：経営体

	作付（栽培）実経営体数	類別作付（栽培）経営体数								
		稲	麦類	雑穀	いも類	豆類	工芸農作物	野菜類	花き類・花木	その他の作物
湯川村	391	389	3	32	71	56	2	60	10	10

2010年世界農林業センサス

3. 米の放射物質検査

東京電力福島第一原子力発電事故に伴い、福島県では県産米の安全性の確保と消費者への的確な情報提供を行うため、平成 23 年産米の放射性物質調査を全県で実施した。湯川村公式WEBサイト⁴にて結果が公表されている。同村においては旧笈川村と旧勝常村それぞれ 5 地点の計 10 地点で生産された玄米を採取して検査が行われ、その結果、放射性セシウムは 10 地点すべてにおいて不検出であり、平成 23 年産米の出荷・販売・譲渡・贈答などが可能となった（図表 1-3-5）。

また、湯川村でも独自に安全な農産物を確保するために刈取前の 100 点のは場より稲を提供してもらい、粃の状態での簡易分析調査を平成 23 年に行った。結果、放射性セシウム（セシウム 134 とセシウム 137 の合算値）は 100 点全て検出限界以下（検出限界値：50Bq/kg）となった。

図表 1-3-5 平成 23 年産米の放射性物質調査

場 所	採取日	公表日	ヨウ素 131 (Bq/kg)	セシウム 134 (Bq/kg)	セシウム 137 (Bq/kg)
旧笈川村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧笈川村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧笈川村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧笈川村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧笈川村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧勝常村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧勝常村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧勝常村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧勝常村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND
旧勝常村	H23. 9. 19	H23. 9. 21	ND	ND	ND

湯川村公式サイトより

⁴福島県湯川村公式 WEB サイト 湯川村における米の放射性物質調査の結果について
http://www.vill.yugawa.fukushima.jp/sangyosinikou/kone_kekka.html

第4節 第4次湯川村振興計画と道の駅構想

1. 人口 3,800 人構想

1957（昭和 32）年 3 月に、旧笈川・勝常の二つの村が合併してできた湯川村は、平成の合併では、合併をしない道を選択した。合併について、湯川村は会津若松市と何回も協議を重ね、村民や議会の意見を聞くことで最終的な結論を出すに至った。その時の村民や議会の意見が、「合併をせず、自立してやっぴいこう」というものであったため、合併を離脱することになった。その後、平成 18 年度から平成 27 年度までの今後 10 年間のむらづくりの方向性を示した第四次湯川村振興計画が平成 17 年 12 月 22 日に議決され、決定した。計画の中ではさまざまな政策が考えられ、現在もこの計画の下、村づくりが進められている。

第 4 次振興計画の中で、まず考えられているのが、湯川村の人口を 3,800 人にするということである。人口 3,800 人というのは目標数値を設定した理由には、昭和から平成に変わったときの湯川村の人口が 3,800 人だったということがある。1957（昭和 32）年に合併した当時の人口は約 5,500 人であったが、現在は約 3,400 人にまで減少してしまっている。そこで、まずは平成になったときと同じ人口を目標としている。また、人口が 3,800 人であった当時 800 戸あった世帯数を、1,000 戸にまで増やすことも目標としている。一戸当たり 3.8 人の計算で、人口と戸数の増加を目指しているという状況である。計画が策定されてからこの目標を達成するために、村内では住宅団地もつくられている。これにより、現在 976 戸まで戸数を増やすことができたが、他出してしまう子どももいることにより、住宅団地には親だけが暮らしていたり、まだ空いている家もあつたりするため、人口はなかなか増えないというのが現状である。

2. 若者定住に向けて

人口 3,800 人を目指す中、現在、村内では住宅団地の他に工業団地もつくられている。農業の村として米づくりに力を入れている湯川村であるが、昭和時代の後半から米余りが発生してしまったり、米の価格が上がらなくなってしまうと、農業だけでやっぴいには大変になってきたため、メインは米であるが、工業団地についても考える必要があるということになったのである。そして、若者流出の理由の一つとして職場が無いということがあり、若者流出抑制のためにも工業団地がつけられたのだ。工業団地では湯川村民を積極的に採用するような仕組みになっているが、実際に工業団地で働く湯川村民が大幅に増えているとは言えないのが現状である。

若者定住促進については第 4 次振興計画の一つの目的であり、工業団地の他にも若者定住を目的とした取り組みがある。例えば、取り組みの一つとして子育て支援があるが、これは中学生までは医療費を無料にするというものである。湯川村で生活をする人の経済的

な負担を減らすことが目的である。また、村内に 2 か所あった幼稚園を 1 か所に統合するという取り組みがなされている。この幼稚園には 3 歳児から入園することができ、希望者全員が入園することができるようになっている。そのため、小さい子どもがいても、幼稚園に入園させ、親は仕事をすることもできるというように、子育て支援も充実している。他にも光ファイバー網施設整備や、上下水道の整備が既に完了しているなど、住民サービスが充実するように、多くの取り組みがなされている。

3. 道の駅構想

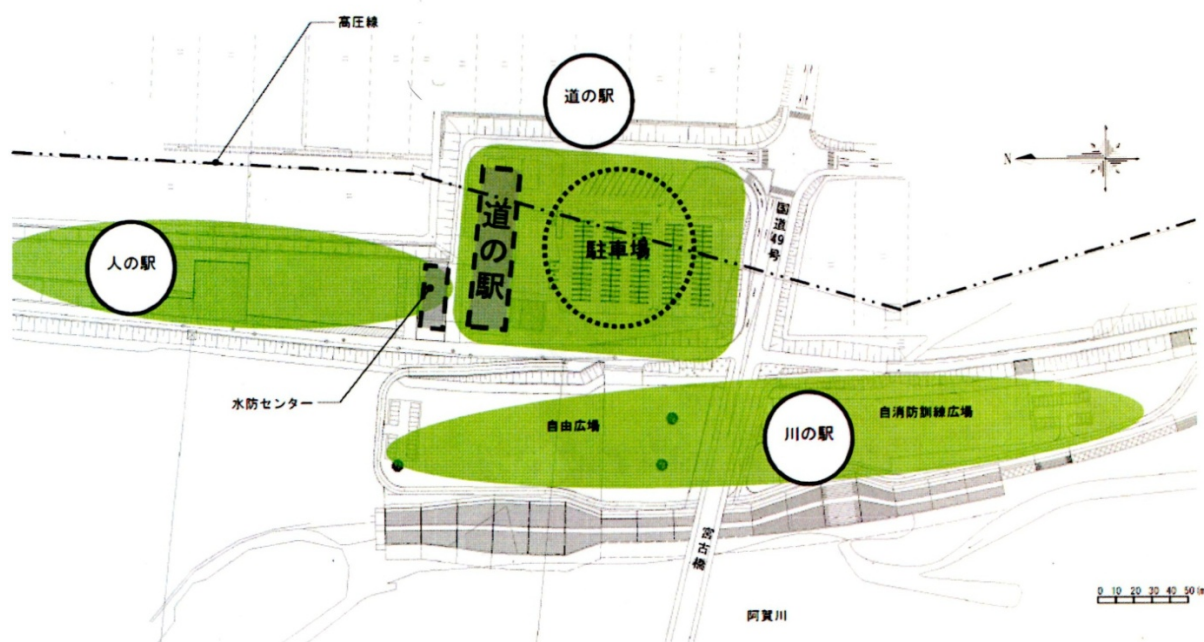
現在、湯川村には会津坂下町との協働による道の駅構想がある。この道の駅は平成 26 年の夏に完成予定であるが、一般的な道の駅ではなく、地域の自然や歴史などを活用した道の駅にすることが考えられている。

その一つとして、道の駅から勝常寺までの道にアジサイを植え、アジサイロードをつくるということが考えられている。これは道の駅を訪れる人が、国宝である木造薬師如来坐像、日光・月光菩薩立像がある勝常寺にも足を運ぶことができるようにするためである。会津の中心に位置しているということもあり、道の駅には湯川村周辺から多くの人を訪れるということも期待できる。そこで道の駅を訪れる人のために、レストランを併設することも予定されている。また、熱塩加納と芦ノ牧をつなぐサイクリングロードがあるが、道の駅はその中継地点として立ち寄ることができる場所にもなる。

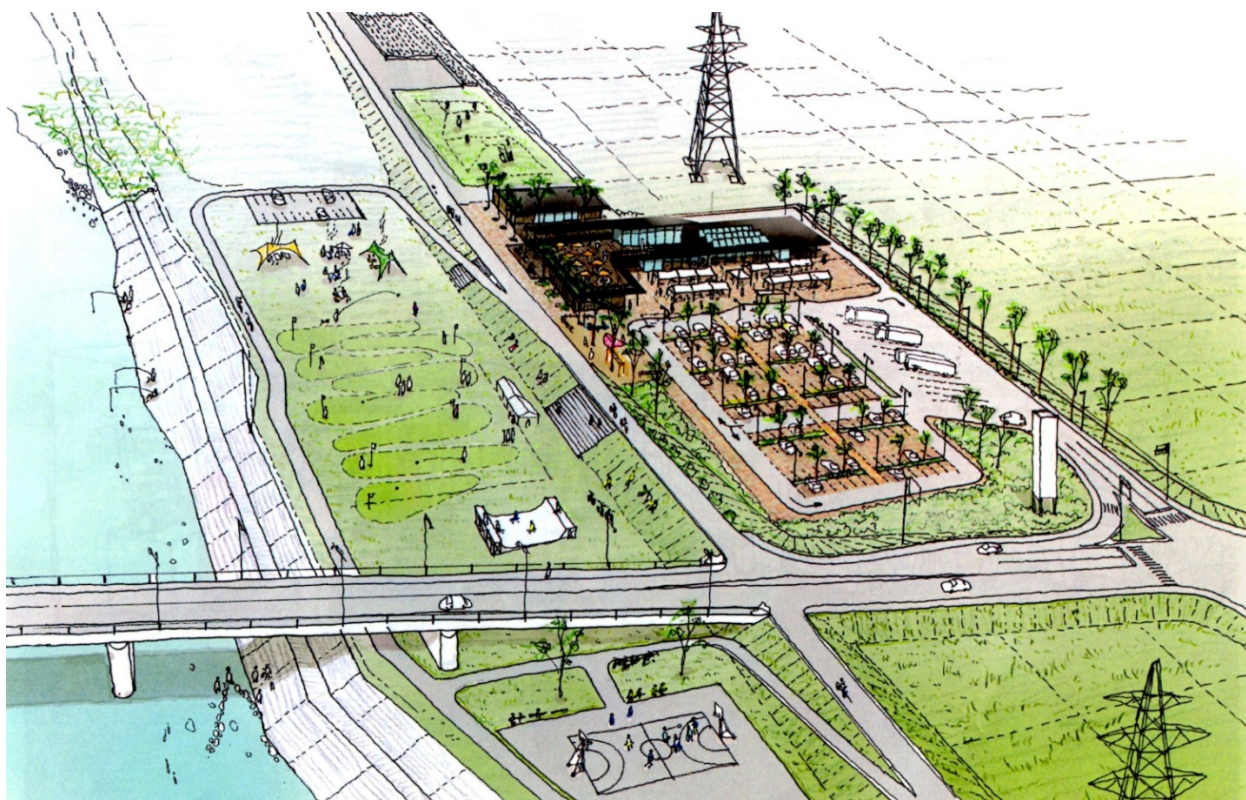
こうした道の駅だけではなく、「川の駅」、「人の駅」の計画も立てられている。「川の駅」とは近くを流れている阿賀川を利用するものであり、川に親しむことを目的とした親水公園、河川敷を利用した運動公園をつくることが構想されている。また、「人の駅」とは、災害が発生した時に対応するための施設として考えられている。これは洪水や堤防が決壊した時に使用する資材をストックしておくことや、洪水の時に水を汲み出すためのポンプ車を常に置いておくというものである。防災センターとしても活用し、防災グッズをストックする場として活用しようと考えられている。以下の資料が道の駅、川の駅、人の駅の完成予想図である（図表 1-4-1、1-4-2、1-4-3、1-4-4）。

第 4 次振興計画と道の駅構想は、以上のような内容であるが、東日本大震災の影響を受けて、太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーの活用も予定されている。このような新たな取り組みも導入しつつ、地域の歴史や米などの地域資源を活用した村づくりが進められている。

図表 1-4-1 「人の駅・川の駅・道の駅」レイアウト



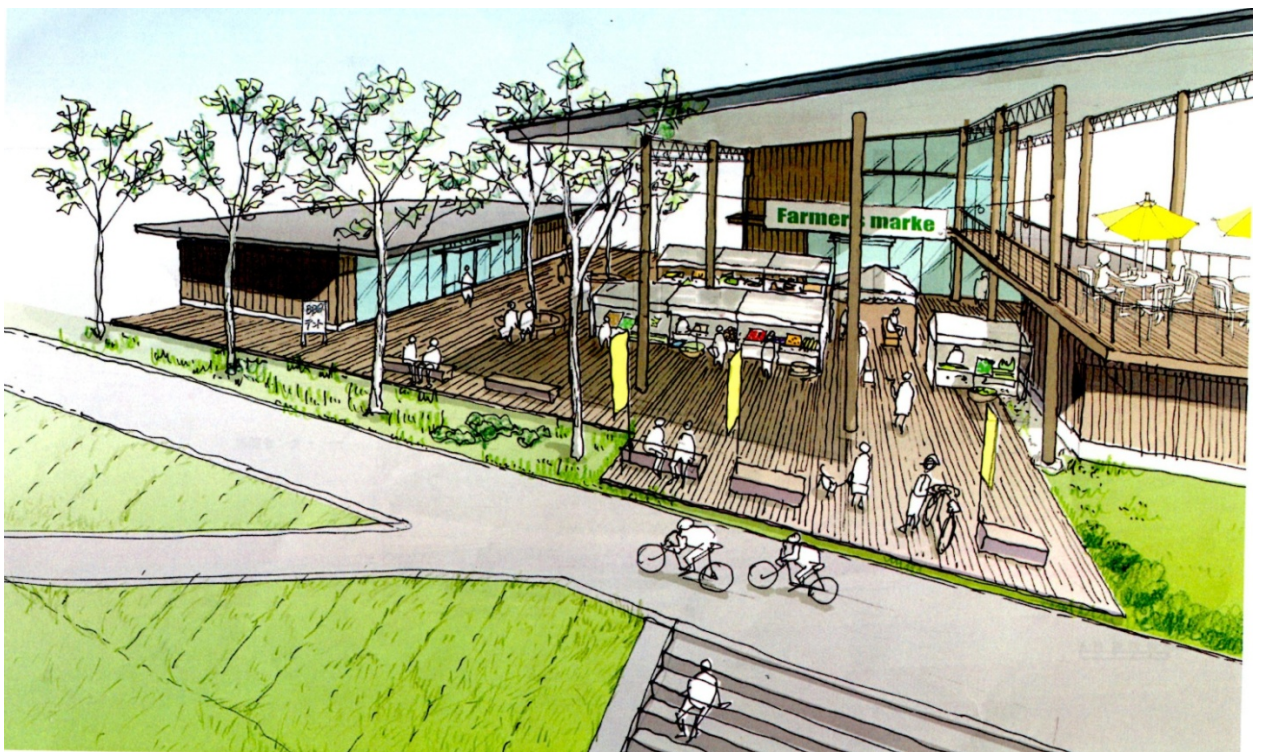
図表 1-4-2 道の駅鳥瞰図パース



図表 1-4-3 道の駅内観イメージパース



図表 1-4-4 道の駅外観イメージパース



(出典：役場資料)

4. 湯川村地域活性化フォーラム（平成 24 年 11 月 22 日）

平成 24 年 11 月 22 日、湯川村、湯川村議会と福島大学地域創造支援センターとの共催による、地域活性化フォーラムが開催された。このフォーラムは、中長期的な視点から湯川村の未来像を描き、そのための湯川村独自の地域資源を生かした地域の振興方策やその担い手の育成について、産官学のそれぞれの立場から意見を交わし、方向性を見出すという趣旨で開催されたものである。この場では湯川村の活性化について多くの意見を聞くことができた。

まず、湯川村はやはり米を中心とした農業が盛んであるため、これを活用するというものである。たとえば、「農業は定年後でもできるものであり、その点で農業ができる村として湯川村の環境は適しているため、それをアピールすることができれば村外からも人を呼び込むことができるのではないか。」という意見が出された。また、「湯川村の知名度をあげれば、湯川米も魚沼産コシヒカリのような米に十分対抗することができ、ブランド化も考えられるのではないか。」というような意見も聞くことができた。

この他には、「田んぼアートも良いのではないか。」という意見もあった。田んぼアートとは種類の違う苗を使って、田んぼに大きな絵を描くものであるが、これは青森県田舎館村で実際に行われているものであり、湯川村でも取り組むことで、観光資源にすることができるというものである。田んぼアートができれば多くの集客を期待できる。

また、「道の駅を訪れる多くの人に対して、湯川米を使ったおにぎりを販売したり、湯川でとれた農産物を使い、BUFFETとして湯川村の農産物を提供したりできる。食をメインとした道の駅も可能性としてあるのではないか。」という意見も出された。このように、米や農産物を道の駅でアピールできるという意見を聞くことができた。

農産物に関するもの以外に、若者の定住についての意見もあった。それは、「再生可能エネルギーにより電気代などを安く提供したり、農業に興味がある若者に、畑を提供したりすることが若者の定住に繋がるのではないか。」という意見である。つまり、快適に住むことができる条件を組むことで、若者が湯川村に定住する可能性を広げるという指摘である。

以上のように、湯川村地域活性化フォーラムでは多くのアイデアが出され、地域資源を活かした新たな展開に向けて、フォーラムに参加した皆で考える場となった。

第2章 中台集落の概況

第1節 概況

千島 かなえ

第2節 農業経営について

中山 拓大・阿部 夏希
齋藤 佑樹



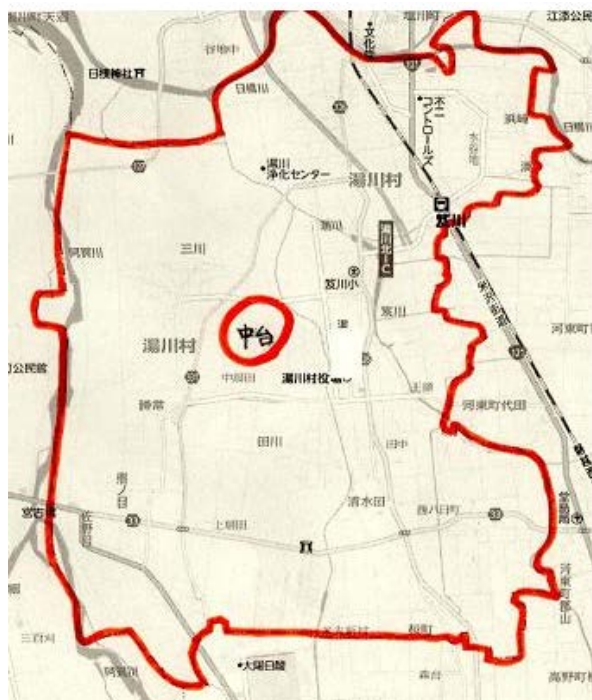
第1節 概況

1. 中台集落の位置

下の「図 2-1 湯川村地図」を見て分かるように、中台集落は湯川村のほぼ中央に位置する集落で、住宅地の周りは田畑で囲まれている。集落からは雄大な磐梯山を望むことができ、集落を流れる水路には蛍の幼虫のエサとなるカワニナが生息している、自然の豊かな集落である。全 21 戸中 19 戸が農家である。

図 2-1-1 湯川村地図 引用：yahoo ロコ

<http://maps.loco.yahoo.co.jp/maps?lat=37.56581274&lon=139.88687163&z=13>



2. 人口

中台集落の人口は 80 人で、男性 39 人女性 41 人となっている。高齢化率 36.3%で世帯数は 21 世帯である。46 人から回答をいただいたアンケート調査 (回答率：58%) では、「3 世代同居」が 19 人 (41%)、「2 世代同居」が 18 人 (39%)、「夫婦のみ」が 4 人 (9%)、「一人暮らし」が 1 人 (2%) で「その他」が 4 人 (9%)、「兄弟姉妹と同居」は 0 人だった。

なお後継者層の同居/他出の状況についてまとめたのが下の「図 2-2 後継者層の同居/他出の状況まとめ」である。これによると、同居/他出している後継者層の数は 53 人おり、同

居が 8 人（男：4 人 女：4 人）、他出が 23 人（男：11 人 女：11 人 不明：1 人）という結果となった（同居/他出の別が不明な方が 22 人）。

他出先としては、男性の場合、近いところでは会津若松市、福島市、宇都宮市、仙台市で、遠いところとしては東京が 4 人いた。女性の他出先としては、近いところで会津若松市、会津坂下町、福島市、郡山市、仙台市で、遠いところでは東京、横須賀、静岡、アメリカという結果となった。

図 2-1-2 後継者層の同居/他出の状況まとめ（2012 年 8 月聞き取り調査より集計）

	男性	女性	性別不明	人数計
後継者層の人数計	23 人 (43.3%)	22 人 (41.5%)	8 人 (15.0%)	53 (100%)
うち他出者数	11 人 (20.7%)	11 人 (20.7%)	1 人 (1.8%)	23(43.3%)
主な他出先	会津若松市、福島市 2 人、仙台市、宇都宮市、東京 4 人	会津若松市、会津坂下町、福島市 2 人、郡山市、仙台市、東京 2 人、静岡、横須賀市、アメリカ		

3. 文化

集落には書道家の片桐正伸さんや写真家の岩澤正平さん、ほうき作り名人の片桐利栄さん、高橋春一さんがいる。書道家の正伸さんは書道の先生でもあった。集落には正伸さんの教え子さん達が感謝の印として、建立した筆塚がある。写真家の岩澤さんは磐梯山などの自然を写真に撮っており、「尾瀬」という山歩きガイドを出版している。ほうき作り名人の利永さんは、第 10 回全国編み組工芸品展」で奨励賞を受賞するほどの腕前の持ち主であり、他にはわらで草履やみのも作れるそうだ。

また区長の片桐健一さんによると、中台集落の農家の方はみんなそば打ちができるそうで、各家庭にはそば打ちの道具が 1 つはあるとのことである。



中台出身の芸術家・渡部天随氏の水墨画集



【左：正伸さんの教え子さん達が建立した筆塚、右：利栄さんのわら作品。収穫祭にて】



【左：岩澤正平さん。手には山歩きガイド「尾瀬」、右：そば打ちの様子。収穫祭にて】

また、こうした方々のほかにも中台にはたくさんのお宝がある。私たちは調査と並行して「中台のお宝マップ」作りも進め、その中でたくさんのお宝に出会った。下の写真【中台のお宝マップ】はその際に作成したマップである。ここに載っているものは、片桐区長さんのお宅の倉庫にあった古い木製の農具や、岩沢秀一さん宅で拝見した、会津若松城で官軍から持ち出したと言われている歴史ある漆器などである。

これらは集落の方々にとっては今まで「お宝」と思われていたものではなかったかもしれない。しかしこのマップは、地元学の手法と外部からきた学生の視点で選ばれた結果であり、私たちはお宝であると考えている。



【中台のお宝マップ】



【左：岩沢秀一さん宅の歴史ある漆器、右：片桐健一さん宅の古い木製の農具】

4. 中台集落にある役職

「中台区規約」によると、中台集落にある役職は以下となる。また役員および手当ては総内割り（そううちわり）において決定する。

- ・ 区長
- ・ 区長代理（会計担当）
- ・ 委員（農事組合長兼務）
- ・ 委員（社会体育協力員兼務）
- ・ 委員（公民館長兼務）
- ・ 保健委員
- ・ 監事（2名）
- ・ 廃棄物減量推進委員（区長兼務、無手当て）
- ・ 墓地管理者（区長兼務、無手当て）
- ・ 宮当番（無手当て）

※保健委員は順番により2年間担当する。

5. クラブ・サークル

中台集落の方が参加しているクラブ、サークルは聞き取り調査の結果、以下のようなものが挙げられた。

- ・ ヨガクラブ（月2回で活動。メンバーは現在4人）
- ・ 子供会（ラジオ体操、七夕、クリスマス、親子遠足会）

- ・老人クラブ（体力測定、フロアカーリング、グラウンドゴルフ、交通安全教室）
 - ・短歌の会
 - ・お観音講クラブ（会津 33 観音を巡る観音講⁵をするクラブのこと）
 - ・読み聞かせボランティア（公民館経由で幼稚園、小学校、月に 1.2 回ユースピアで読み聞かせ）
 - ・ゲートボール（比較的若い男性も参加している）
- 他にはよさこい、生け花、お茶などが挙げられた。

こうした活動に参加するきっかけとしては「やっている人の話を聞いて自分も参加するようになった。」という声が挙がっていた。一方、「これまでは積極的に参加してきたが、今は歩くのが不自由になったため、参加していない」、「老人クラブでは行事がたくさんあるが、忙しいからいけない」という声が挙がっていた。

他には「部落主催の行事は参加しているが、老人クラブには名前が嫌なため参加していない」、「昔は公民館主催でいろいろな活動をしていた。花火、カラオケ、花見、盆踊りなど。年配になり、徐々にやらなくなった。昔は行事を通して地域の子供たちを知った」、「サークルに奥様が参加している。おしゃべりでもいい」という声が挙がっていた。またこうした活動とは別に「同じ年代のグループで年 1 回旅行している」という声もあり、近所付き合いが密なのだという印象を受けた。

6. 共同作業・行事

平成 24 年度に中台集落で行われた事業は、以下の「図 2-3 平成 24 年度中台集落事業報告」（平成 24 年度中台区事業報告より引用）の通りである。

また、図 2-1-3 にある事業のうち、水路清掃と村一斉清掃作業については参加が義務付け

⁵ 「日本統一された江戸初期、会津領内でも伊勢参りや西国三十三札所巡りが流行っていた。

会津の領主となった保科正之公が、遠路を行けない人のために、寛永年間(1643～頃)に勧請したと伝えられている。

古来より会津は仏都として栄えており、特定の寺院の力を削ぐ目的もあったようである。

信仰とともに農閑期の娯楽でもあった。

特に女性たちの楽しみとして発展し、「観音講」として親しまれていた。

ほとんどの観音堂は、村々の中に、ひっそりと佇んでいる。

建物の多くは素朴すぎるほど小さいが、いにしえに思い巡らせる場所でもある。

車なら、2泊3日の巡礼コース。」

以上「会津への夢街道」より <http://www.aizue.net/jyunrei/aizu33kannon.html>

られており、高齢者のみ世帯など、参加できない場合には参加者に1時間750円の出不足金を払い、代わりの人に参加してもらう仕組みである。ちなみに中台集落では100%の参加率である。

出不足金に関しては「共同でやることに意味があると考える人もおり、お金で済む問題ではない」という声も挙がっていた。

参加の義務に関しては「共同作業は時間にして1~2時間なので負担ではない。みんな時間通りに来る」という方や、「農家をやっていないのに農家の仕事をみんなでやるのは面倒。農家でない人は平日働いていて、土日には家の仕事があるのに土日にこうした作業があるのは厳しい」、「役員の仕事を負担に感じる。自分の田んぼは地区の外にあるのに、役員だから地区の水路掃除に参加しなければならない」、「できる範囲でやる。休みを取らなければならないので、急な集まりには参加できない」など、様々な意見があった。「水路、側溝の清掃には高齢者が出られなくなっている」という現状もあり、今後共同作業を継続するのは難しいのではと考える人もいる。

図 2-1-3 平成 24 年度中台集落事業報告

平成 24 年度中台事業報告	
日付	事業
1月8日	春会議
3月4日	百万遍
4月13日	平成 24 年度用排水路調整会議（土地改良区北部管理センター）
4月22日	土地改良区江払い 午前6時から8時 夕方5時より慰労会開催（用水路などの清掃作業）
4月23日	湯川村廃棄物減量推進委員会議（高齢者コミュニティセンター）
5月6日	土地改良区施設調査および豊作祈願祭、馬越頭首工北部管理センターまでの水路現地調査
6月3日	村一斉清掃作業 午前6時から7時
6月23日	湯川堤防草刈 午前5時から7時半、8時40分から11時10分
7月6日	アメシロ ⁶ 防除 午前9時から12時
7月8日	土地改良区江払い 午前6時から8時半 夕方5時より慰労会開催（用水路などの清掃作業）
7月11日	湯川村主催村政座談会
7月29日	道路愛護作業（県道・村道）6時から8時（集落周辺の道路清掃作業）

⁶ 「アメリカシロヒトリ」という毛虫の駆除のこと

8月19日～21日	福島大学生による集落調査協力
8月30日	二百十日のおこもり（豊作祈願祭）
9月7日	児童遊び場整備事業補助金補助金申請（春日神社遊具）
9月9日	第36回村民運動会（公民館主催）
9月16日	湯川村敬老会（湯川中体育館）、※区長および代理にて出席者送迎
10月9日	児童遊び場整備事業補助金実績報告書提出（春日神社遊具）
11月3日	第27回中台区収穫祭（公民館主催）
11月22日	会津中央土地改良区へ水路改修要望書提出
11月25日	平成24年度維持管理費など精算会議（土地改良区北部管理センター）
12月5日	湯川村役場へ水路改修要望書提出
12月5日	湯川村区長会（湯川村役場）
12月6日	区会（付き合わせなど）
12月8日	監査・内割精算業務（終了後懇親会）
12月16日	内割総会
12月23日	新旧役員事務引継ぎ（終了後懇親会）

●事業報告書にある行事の説明

・百万遍：毎年旧暦の2月15日前の日曜日に集会所において行っている。（お釈迦様の命日にちなんで行われる。）これは延享2年（1745年）に作られ大切に受け継いできた長さ約12メートルの数珠（108個連なっている）を、念仏を唱えながら回し、一年間の厄払いをし、家内安全、五穀豊穡などを願うという湯川村の伝統行事である（「湯川村中台集落の現状と課題」「わたしたちの郷土湯川村」より）。

勝常寺近くの集落では、子どもも参加する。当日は集会所に酒類、重箱を持ち込むのが決まりで、子どもにはお菓子が400円分ずつ提供される（中台区規約による）。天気のいい時は外でブルーシートをしいてみんなで食事する。食事の準備ができるとスピーカーで放送が流れる。



【百万遍参考写真】

・水路清掃：大江払いともいう。地区内を流れる用排水路の清掃を毎年4月と7月の年2回行っている。大きな水路は参加者みんなで、個人の水路は個人で行う。

・村一斉清掃作業：ゴミ拾い、道普請、草むしり・農道の砂利敷きをする。春先3回行われる。

・二百十日のおこもり：8月30日に行う。収穫が無事にできるようにとお祈りする。

・収穫祭：十数年前より集落総出により行い地域のきずなを深めている（「湯川村中台集落の現状と課題 2012年5月」より）。毎年11月3日に行われる。



【収穫祭の際の集会所の様子】

●上記以外の集落行事

・ソフトボール大会：子供たちは小学校ごとに参加している。

・歳の神：1月15日ごろに行われる。田んぼや畑に木を組み合わせ、わらやしめ縄、古いお札などを燃やす。この火で焼いたもちやすめめを食べると脳病みしないと言われる。



【歳之神参考写真】

※百万遍参考写真、歳之神記述、参考写真は以下 URL から引用

「わたしたちの郷土湯川村」

<http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/txt/10061.001/html/00096.html>

集落行事に関しては「みんなとお話できるいい機会なので参加している。出ないときは連絡する。そうしないとみんなに心配される」という声が聞かれ、ここでも集落内の人々のつながりの強さを感じた。

参考文献リスト

●資料

中台区規約

平成 24 年度中台区事業報告

湯川村中台集落の現状と課題 2012 年 5 月

●Web ページ

Yahoo ロコ

<http://maps.loco.yahoo.co.jp/maps?lat=37.56581274&lon=139.88687163&z=13>

会津への夢街道

<http://www.aizue.net/jyunrei/aizu33kannon.html>

アメリカシロヒトリの防除について

www.city.yonezawa.yamagata.jp/secure/2263/ameshiro.pdf

わたしたちの郷土湯川村

<http://is2.sss.fukushima-u.ac.jp/fks-db/txt/10061.001/html/00096.html>

第2節 農業経営について

1. 収穫される農産物について

中台集落の各世帯で作っている農産物はこのようにまとめられる（図表 2-2-1）。

図表 2-2-1 収穫される農産物（世帯別）

世帯番号	作っている農産物（季節ごと）				備考
	春	夏	秋	冬	
①	ジャガイモ	ナス、トマト、 トウモロコシ	米		
②		ナス			
③		枝豆	みそ豆、小豆、 里芋		家庭の事情により、 この年は数種類の野菜しか作れなかった
④					自家消費する分のみ 収穫
⑥	小松菜 ジャガイモ タマネギ	ナス、オクラ、 ピーマン、枝豆、 トウモロコシ、 キュウリ、 スイカ、セロリ、 トマト、瓜、 ししとう、イン ゲン、カボチャ、 ゴーヤ、 ブルーベリー	大根、キャベツ、 白菜、 ブロッコリー、 カリフラワー	ホウレンソウ	
⑦	アスパラガス おかひじき	キュウリ、ナス、 メロン、カボチャ、 スイカ	米、白菜、大根、 里芋	青菜、ホウレンソウ	
⑧	タマネギ	ナス、トマト、 キュウリ、豆類、 ジャガイモ、 オクラ	米	キクイモ	

⑨	タマネギ、カブ、春菊、エンドウ、イチゴ	スイカ、キュウリ、ナス、メロン、モロヘイヤ、ジャガイモ、長ネギ	米、白菜、大根、里芋、ゴボウ、長芋、柿、オータムポエム、ブロッコリー、カリフラワー	ホウレンソウ、キャベツ	
⑩		ズッキーニ、青しそ、トウモロコシ、枝豆、ナス、トマト、ピーマン、カボチャ、おくら、ゴーヤ、シシトウ、モロヘイヤ、メロン、スイカ、キュウリ	白菜、ブロッコリー、キャベツ		
⑪		枝豆、トマト、ナス、カボチャ、スイカ、トウモロコシ、タマネギ、パレイショ、キャベツ、インゲン			すべて無農薬
⑫		トマト	米		トマトは主に夏だが、冬季以外は年中作っている
⑬	春菊	トマト、ナス、カボチャ、キュウリ		ネギ、大根、白菜	
⑭	タマネギ、白菜	キュウリ、インゲン、ナス、トマト、ネギ	米		この年の米は少し少ない。薬物野菜は全て作っている。
⑮	薬物野菜	トマト、ジャガイモ、キュウリ、	米、大根、白菜、里芋		

		ゴーヤ、スイカ、メロン、ナス			
⑩	小松菜、インゲン、大根、白菜	ナス、トマト、大豆、カボチャ、キュウリ	秋野菜全般	冬野菜全般	
⑪	キャベツ、ニンジン、ネギ、菜っ葉	ナス、トマト、キュウリ、スイカ、メロン、トウモロコシ	米		無農薬で少しずつ作っている
⑫		ナス、ぶどう	米、里芋		
⑬	いちご	ナス、トマト、黒豆、キュウリ、枝豆、菊、トウモロコシ	キャベツ、ジャガイモ		

中台集落でも収穫している農産物は米が中心となっているが、野菜も様々な種類のものが作られている。中には、無農薬で農産物を作っているという世帯もいくつか見ることができた。

また、収穫した農産物はどうしているか、保存食や加工品は何を作っているのかという問いに対しては、以下のような回答が寄せられた（図表 2-2-2）。

図表 2-2-2 収穫された農産物について

世帯番号	収穫した農産物	保存食・加工品	世帯番号	収穫した農産物	保存食・加工品
①	米は出荷 野菜は自家消費		⑪	自家消費 親戚に譲る	凍みもち、漬物、 しそジュース、 味噌
②	一膳亭の料理と 自家消費	ナス漬	⑫	農協で出荷 直接販売	
③	農家でない若松 などの人に配っ ている	味噌（店に豆を 持ちより作って もらう）	⑬	自家消費（昔は出 荷用のアスパラガ スを作っていた）	ナス漬、 たくあん
④	自家消費		⑭	米は自家消費と出 荷野菜は自家消費	たくあん、ナスや キュウリの一夜漬
⑥	自家消費 知り合いに配る	ブルーベリーを 使用したパウン ドケーキ	⑮	米は農協や卸売業 者に出荷 野菜は自家消費	味噌 （米を渡して加工 してもらう）
⑦	米とキュウリ は出荷 他は自家消費		⑯	農協で出荷 （小松菜とインゲ ンは親戚に少し分 け、直売所にも出し ている）	委託味噌、 梅漬、 さごはち
⑧	米は出荷 野菜は自家消費		⑰	自家消費 米のみ農協で出荷 農作物は息子や親 戚、友達にあげてい る。	味噌 農作物の冷凍
⑨	農協で出荷 友人・知人に あげる ネット販売	味噌	⑱	米は農協で出荷	
⑩		ミートソース	⑲	自家消費	切干大根、イモの 茎を乾燥させ酒粕 で味付けしたもの

米は出荷している世帯が多いが、野菜などの農産物は出荷せず、個人で消費したり、親戚や友人にわけたりすることが圧倒的に多いことが分かる。保存食・加工品についても、どの世帯も自家消費をしている。このように、米以外の農産物については、出荷を目的として作っている世帯はかなり少ないという状況である。

2. 農作業受委託の状況

本調査でうかがった中台集落の農作業受委託の状況については、以下のようになっている。受け手農家（農地の受託をしている）は3戸、出し手農家（農地の管理を全て、または一部委託をしている）は6戸であった（図表2-2-3、2-2-4）。

図表 2-2-3 水田の受委託の状況

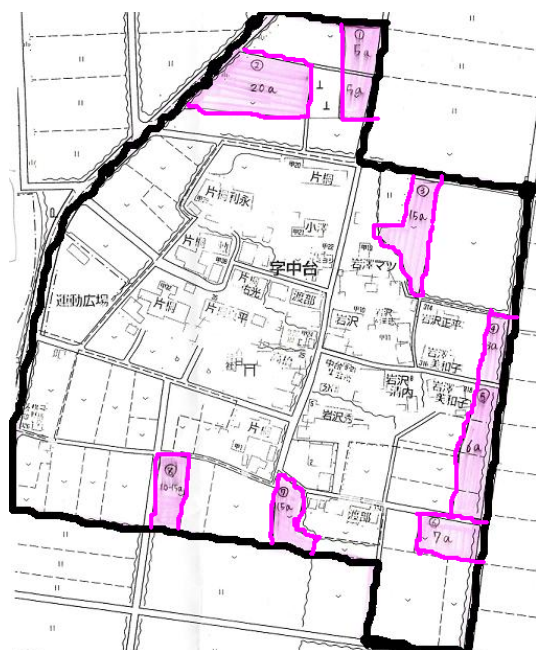
委託者	受託者	作業内容	委託にした理由
①	個人	苗	自分ではできないため。
	カントリーエレベータ、JA	乾燥、出荷	
⑥	⑨	全ての作業を委託。料金は農業委員会で決められている。	高齢で自分や親戚では管理ができなくなったから。委託したいが相手がいない状況を行政は何とかしてほしい。
⑧	集落内の方	管理作業以外すべて委託。作業料金は湯川村農業委員会が定めたとおり。	
⑭	集落内の方	機械を入れる作業（田植え、稲刈りなど）。料金は役場で決められている。	貸付と比べると制度的に楽。制度が定められていて、交渉する必要がない。
⑮	勝常農業センター	稲の育苗 …27万円(1パレット750円)	
	集落内の方	収穫、乾燥、調整 …61万円（うち12～13万円はJAに委託）	

図表 2-2-4 畑の受委託の状況

委託側	受託側	作業内容	委託にした理由
④	⑫	畑の雑草の処理 …年に6,7回、1回8000円 (年5万円)	伸びたままにしてしまうと雑草の種が広まって迷惑をかけるから。

3. 遊休農地（耕作放棄地）がある場合の理由について

2012年8月21日に片桐区長と耕作放棄地調査を実施したところ、86～91アールの耕作放棄地を確認した（図表2-2-5）。



図表 2-2-5 耕作放棄地の分布

聞き取り調査において、遊休農地化の現状と理由について回答が得られたのは8戸であり、以下の通りである。

- ・「畑は採算が合わないため、ただでも借りてくれる人はいない。雑草地にしたくないが今は仕方ないという気持ち」
- ・「田んぼは借り手がいるが、畑は手間がかかるため借りている人がいない」

- ・「自分たちでは、手がまわらなかったから」
- ・「ビニールハウスが古い」
- ・「使っているが、手が回りきっていない」
- ・「(普通畑 10 アール) 手入れはしている」
- ・「(20 アール) うなっているのみ。作物は育てられる状態にある」

畑は手間がかかるため、やむを得ず遊休農地となっている場合が多いようである。畑に作物を植えなくとも、雑草地になるのを防ぐために手入れをする手間も発生している。

4. 貸付地について

貸付地がある方で回答が得られたのは 4 戸であった。相手方の傾向としては集落内の方に貸しているようである。集落の内外で賃料に差があり、集落外では一般的な価格に沿って貸付がされているが、集落内では借りている方が年金暮らしである地主の方のことを考え、高めの小作料を支払っている事例もあった(図表 2-2-5)。

図表 2-2-5 貸付地の状況

番号	誰に貸しているか	面積、金額など
③	集落内の方(本家、分家) 集落外の方	水田 300a を集落内の方々の場合(本家、分家に貸す)、年金生活なので、小作料 3 万円をお願いしている。また、集落外の方々の場合、約 2 万円程度の小作料(農業委員会の定めた最低額)で貸している。
④	集落外の方	水田 77a
⑤	集落内の方	「誠実にやってくれる人」だから頼んだ。賃料は 10 アール当たり 3 万円 農業委員会を通じて貸付。昔は親族の方に貸していたが、高齢化によってできなくなってきたため。
⑮	集落内の方(2名)	基盤整備除外地を無償で貸している

5. 震災による農業への影響について

東日本大震災と原発事故によって福島県は甚大な被害をうけている。原発事故が農業に対しどのような影響を与えたのかについて聞き取りを行った。

聞き取りの結果、福島原発の事故によって実際に売上額の低下が発生している状況が明

らかになった。

- ・「村の外から人がこなくなったのでお店にも集落外の人が来なくなってしまった」
- ・「ネット販売での売れ行きが下がった」
- ・「個人販売については子どもへの影響の心配から、去年（2011年）の秋頃は断られることもあった。関西方面の買い取りは厳しい。東電からの補償金があるならもっと安くならないかという意見があった。」
- ・「値段は変わらなかった。供給量が少なくなり、他が値下がりしたため、相対的に値下がりした。」
- ・「小松菜は出荷停止。最盛期だったため大きな損害。過去の生産量の記録から、補償金をもらえた」

なお、震災の影響を受けつつも、全体としての売上が増加し、売上が増加することによって補償がされないことに対する不満の声もあった。

- ・「郡山への花の出荷量は減ったが、全体的には出荷が増えた。全体的に見てプラスだからって、補償しないのは理不尽じゃないか」

これに対し、震災以前は近所や親族に作った野菜を配っていたのだが、震災後は放射性物質による人体への影響についての不安から配りにくくなったり、拒否されるケースが生じたりしていることが分かる。

- ・「今まで米や野菜を（息子に）送っていたが、原発事故後拒否された」
- ・「子どものいる家では自分の家で作った野菜などを配りにくくなった」
- ・「風評被害。特にタケノコ。人に遠慮しながら野菜をあげるようになった」
- ・「子どもがいる親戚は野菜をもらってくれなくなった」
- ・「(放射性物質について) お年寄りが多く、子供が少ないためあまり気にしていないが近所の方が気にしているらしい」
- ・「親戚に要らないといわれる。風評被害」

なお、農産物の検査体制に対する不満の声もあった。

- ・「販売に関しては特になし。全袋検査をすることになった」
- ・「稲の栽培が厳しくなったので行政の基準にのっとってやっている」
- ・「スポット検査でいいのに全部しなければいけないのが納得できない」

第3章 中台集落の住民意識

第1節 中台集落における暮らしについて

星 浩太

第2節 農業経営・経営農地の承継について

開山 貴史

第3節 集落の課題について

阿部 夏希



ここでは2012年8月19～21日に実施した、中台集落戸別聞き取り調査結果及びアンケート調査結果を通して、集落に対して住民の方々がどのような考えを持っているか、明らかになったことをまとめていく。

第1節 中台集落における暮らしについて

1. 住民の健康状態、通院状況について

高齢者の方々を対象に「健康状態、通院等の状況」を質問したところ、聞き取り調査に協力していただいた19戸のうち、15戸から「世帯主もしくは家族が定期的に通院している」との回答があった。そのほとんどが「自家用車を利用しての通院」であり、「通院にタクシーを利用する」世帯が2戸であった。その他には「デイサービスなどの介護サービスを利用する」という世帯が1戸あった。いずれも通院先の病院等は村外にあるため、通院の際には自動車の使用を強いられることになる。

2. 日頃の交通手段について

戸別聞き取り調査の「日頃の交通手段（買い物、通院など）は何を利用していますか」の質問に対しては、半数以上の14戸から「自家用車を利用している」との回答を得られた。また、「世帯主は運転せずに家族の運転で自動車を利用している」は、3戸から回答を得られ、中台集落の住民のほとんどは自家用車を利用している事がここから読み取れる。その他少数意見としては「自転車の利用」が1戸、「バイクの利用」が1戸であった。以下の図表はアンケート調査における同様の質問の集計結果であるが、こちらでもほぼ同様の結果が示された（図表3-1-1）。

図表3-1-1 問7 日常生活で、普段最も多く利用する交通手段は何ですか。（あてはまるもの一つだけに○）

カテゴリ	件数	(全体)%
自家用車	37	80.4
自転車	1	2.2
家族・知人の車	7	15.2
その他	1	2.2
サンプル数	46	100.0

（アンケート調査より）

以上のように中台集落の住民は自家用車をよく利用しているが、その理由には「タクシーも利用するが、4000～5000円ほどかかってしまう」といった意見が挙げられている。

3. 生活で不便なこと、困っていることについて

中台集落の住民が日常的に自家用車を利用することが上記の質問より判明したが、「生活で不便なこと、困っていることはどんなことですか」の質問に対しては、9戸が「交通の便の悪さ」を挙げている。その理由として、買い物や通院など「日常的なことで車を利用しなければならないことが大きな負担である」という声が聞かれた。主な意見は以下のとおりである。

- ・「大根1本を買うのに車が必要なのは不便」
- ・「車がないと動けない。医者が(近くに)いない」
- ・「病院だけでも行きつけが違うため、目的地がばらばらである」
- ・「近くのスーパーまで3キロ」
- ・「国道に出るまでが時間がかかる」

また「集落にバスや鉄道といった公共交通機関が不足している」という意見も多く聞かれ、中台集落における自家用車の利用率が高い理由は、自家用車に取って代わる交通手段に乏しいことが原因であると考えられる。加えて近い将来、身体的な理由で自家用車の運転ができなくなるという懸念が、不安に拍車をかけている。以下がそれらに関する意見である。

- ・「今後が心配。タクシーで買い物に行く。バスは利用者が少ないために走っていない」
- ・「自分が区長を務めていた時にバスを通してもらった。20年くらいは続いていたが、今はそれもなくなってしまった。国道が村の端のほうを通っているため、バスの本数は少ない。交通費の負担が大きい」
- ・「バス停、駅が遠い」
- ・「バスの利用状況もあまり良くない。マイクロバスや集合タクシーなどを予約して利用すればよいのではないかという提案があった」

その他の「不便なこと、困っていること」としては、「娯楽施設」と「除雪」を挙げた世帯がそれぞれ2戸、「働く場所」を挙げた世帯が1戸であった。娯楽施設については、「昔、村内へのイオン進出が頓挫。映画を見に行くには米沢までいかなければならない」といった意見がある。その他少数意見としては「農業の行事に非農業の者が参加しなければならない雰囲気」のように、集落自体の雰囲気についての回答が1戸あった。

これらを総合的に見ると、交通の便の悪さとそれに関連する、または交通の便の悪さから引き起こされる諸問題が、不便なこと、不安なこととして、中台集落の問題点となっている。

アンケート調査における「中台集落に足りないと感じるもの、必要だと思うものは何ですか。」という質問に対しても、ほぼ同様の傾向の回答が示された（図表 3-1-2）。

図表 3-1-2 問 11 中台集落に足りないと感じるもの、必要だと思うものは何ですか。(複数回答)

カテゴリ	件数	(全体)%
公共交通機関	17	37.0
働く場所	8	17.4
買い物する場所	16	34.8
余暇・娯楽（レジャー）施設	1	2.2
医療・保健施設	2	4.3
高齢者の福祉施設やサービス	3	6.5
集落の活気	6	13.0
その他	2	4.3
特にない	11	23.9
不明	2	4.3
サンプル数	46	100.0

(アンケート調査より)

4. 今後の不安

先程の「生活で不便なこと、困っていること」の回答結果に示されている通り、多くの方々が交通の便に不安を抱えており、「今後の生活への不安」の質問では7戸が将来的に自家用車を運転できなくなった場合の交通手段を不安要素として挙げている。

「高齢化と老人介護の問題」についても5戸が不安であると回答し、その理由としては「介護施設も余裕がなく入ることができない」ことが挙げられた。これは親を自宅介護することによる家族の負担の増加のみならず、集落の全体的な高齢化によって介護者自らも被介護者となる恐れがあり、さらに集落の「後継者問題」も、この問題をより深刻なものにしていると考えられる。

その「後継者問題」については4戸から回答があり、主な理由としては後継者不足の問題から発生する人口減少が、農地や土地の管理、さらには除雪の人手不足に繋がることとであった。さらに「昔に比べ最近の若者は結婚を真剣に考えていない」といった、若者にも責任があるという意見も見られた。アンケート調査における同様の質問の結果については、次ページに掲載する（図表 3-1-3）。

図表 3-1-3 問 15 将来の中台集落での暮らしに不安なことはありますか。(複数回答)

カテゴリ	件数	(全体)%
高齢者だけの世帯が増えている	29	63.0
子供の数が減っている	15	32.6
近所付き合いが減っている	1	2.2
家の跡取りがない	11	23.9
農業の後継者がいない	2	4.3
若者が集落を離れる	8	17.4
集落の行事が維持できない	3	6.5
耕作放棄地が増えている	3	6.5
空き家が増えている	2	4.3
通院、買い物などの交通の便	11	23.9
風評被害など原発事故の影響	5	10.9
その他	0	-
特に不安は無い	0	-
サンプル数	46	100.0

(アンケート調査より)

こちらでは「高齢者だけの世帯が増えている」が最も多く回答され、次点で「子供の数が減っている」、さらに聞き取り調査では多くの回答を集めていた「家の跡取りがない」と「通院、買い物などの交通の便」が続いた。しかしその一方で「農業の後継者がいない」を不安として挙げた方は 2 名しかおらず、聞き取り調査の方でも「(農地管理について)将来できなくなればやらなくなるだけ」と、農地管理についてはそこまで不安要素と捉えていないようである。

以上のように各世帯で様々な不安を抱えてはいるものの、一部では「なるようにしかならない」といった声のように、不安を抱えつつも自発的な解決には消極的な意見もあった。

5. 近所の付き合いの頻度について

「近所の人とは具体的にどの程度のお付き合いをしていますか」という質問に対しては各戸で付き合いの程度に差があり、「野菜や食品のお裾分け」をしたり、「しばらく見ない時は声をかけに行く」など、密な関係を維持する方々が見られた一方、「会った時に挨拶する程度」であったり、「行事で交流する程度」であったりと、さほど交流をしない方々もほぼ同様の割合で存在した。近所の人との付き合いについては次項のような意見が挙げられた。

- ・「農業を専門にやっているわけではないから、畑仕事のアドバイスをもらうことがある」
- ・「職業や年齢が違うからお茶飲みに行ったりはしない。話題が合わない」
- ・「ヨガサークルでの交流」
- ・「親戚との付き合いの方が密」
- ・「一人暮らしの家などは特に気に掛ける」
- ・「仕事をしているため会う回数は年 2～3 回程度」

付き合いの程度の差はあれども、いずれの世帯も近所との交流が皆無という事は無く、集落内の住民同士の付き合いに関しては、大きな問題は見られなかった。

アンケート調査の結果においても同様に個人によって交流の頻度にばらつきが見られるが、交流が皆無という方はおらず、集落内での一定のつきあい関係が保たれている（図表 3-1-4）。

図表 3-1-4 問 8 近所の方との交流の度合い（頻度）を教えてください。（あてはまるもの一つにだけ○）

カテゴリ	件数	(全体)%
よく行き来し、親しく付き合っている	13	28.3
困ったときなどに助け合いをする	7	15.2
日常会話をする程度	12	26.1
あいさつする程度	13	28.3
付き合いはほとんどない	1	2.2
不明	0	-
サンプル数	46	100.0

（アンケート調査より）

6. 中台集落の好きなところについて

「中台集落の好きなところはどんなところですか」の質問に対しては、実に多様な回答をいただくことができた。その中で回答を集めたものの1つが、「集落の恵まれた自然環境について」で、10 戸から支持を集めた。特に磐梯山について、複数の方々から「その美しい外観を見渡せる事が大きな魅力である」との回答をいただいた。その他に「自然が豊かな場所で無ければ生息しない蛍やカッコウが見られることも大きな魅力である」とも語っていただいた。

同様に多くの支持を集めたものは「集落の静かな雰囲気について」、そして「住民の強い結びつきや温かさ、人柄」などであった。以下はその他にいただいた意見である。

- ・「どんなによそで雨が降っていても、集落に帰ってくるといつも青空」

- ・「花火も見える。この家の近くに人が集まる」
- ・「年に7, 8回開催している飲み会は、住民同士のコミュニケーションの場」
- ・「規約があるため、部落がまとまっている」

アンケート調査においても同様に、「自然・景観」と「集落の雰囲気」が多数を占めているが、それら以上に「住み慣れていて暮らしやすい」が半数近くを占め（図表 3-1-5）、上記の聞き取り調査の結果も含めると、住民の多くの方は集落全体の「雰囲気」が中台集落の魅力であると感じているようだ。

図表 3-1-5 問9 中台集落の好きなところを教えてください。（複数回答）

カテゴリ	件数	(全体)%
自然・景観	13	28.3
人が親切	9	19.6
治安がよい	4	8.7
歴史・文化	1	2.2
住み慣れていて暮らしやすい	20	43.5
集落の雰囲気がよい	14	30.4
農業が盛ん	2	4.3
食べ物がおいしい	7	15.2
特にない	2	4.3
サンプル数	46	100.0

（アンケート調査より）

7. 中台集落の伝統行事と郷土料理について

「中台集落の伝統芸能について教えてください」という質問に対して、中台集落の伝統行事として最も多く挙げられたものは「百万遍」である。百万遍とは一年の厄払いを目的とした湯川村の伝統行事であり、中台集落では集落内の集会所に集まって行われるそう。また、秋の収穫祭ではそば打ちの出来る人が集落の人に作り方を教え、その蕎麦が振る舞われるなど、住民が全員集まって食事や話をする事ができ、住民の交流に重要な役割を果たしている。その他にも収穫の無事を祈る「二百十日のおこもり」などが挙げられた。

「郷土料理は何かありますか」という質問に対しては、結婚式等のめでたい時やお彼岸や法事のような、特別な時に必ず作られるという「こづゆ」が最も多く挙げられた。こづゆは家庭ごとに様々な味や具材があり、里芋や貝柱、家庭によっては魚を具材に使用している。他に「ニシンの山椒漬け」や「コイのうま煮」、「ぼうだら」といった、魚を利用した郷土料理が目立った。さらには「饅頭の天ぷら」、「するめの天ぷら」のような一風変わ

った郷土料理も挙げられた。

第2節 農業経営・経営農地の承継について

中台集落の高齢化率は、36.3 パーセントと高い比率を示している。したがって、農業経営・経営農地の承継の問題は中台集落の今後を考えるにあたって切り離すことはできないものである。本調査におけるアンケート調査でも以下のような結果が得られた(図表3-2-1)。

図表 3-2-1

問5 あなたは、農業に従事していますか。また、従事されている場合、農業にはどのような姿勢で取り組んでいますか。(主なもの1つだけに○)

カテゴリ	件数	(全体)%
主な収入源として	4	8.7
補助的な収入源として	5	10.9
趣味や楽しみとして	7	15.2
家の仕事として	15	32.6
その他	4	8.7
関わっていない、 関わるできない	10	21.7
不明	1	2.2
サンプル数	46	100.0

図表のように、農業に取り組む姿勢について32.6パーセントの人が「家の仕事として」と回答している。この結果から農業に従事している人は、当たり前のように生活の一部として農業を行っているという現状がわかる。

さらに、本調査で行った戸別聞き取り調査では、「農業を何歳まで続けたいか」「5年後の営農の見通し」「世代交代した時の農地の状況」の3つの質問を行った。

まずは、「農業を何歳まで続けたいか」という質問についてである。主な回答としては、「可能な限り続けたい」という人が最も多く13件。「続けない」という人は2件。「不安である」という人は1件であった。

「続けたい」と回答した人の多くは、「代々続いてきたので」、「昔からやっているの」と当たり前のごとくして農業を行ってきているようである。中には「畑や農具があるからやる」、「畑を荒らすわけにはいかないからやる」と、やらざるを得ないからするという理由の人もいるが、「実がなって収穫するのが楽しいから」、「自分で作ったものを食べたいか

ら」というポジティブな理由が多かった。また、「65歳くらいまで続け、その後はセカンドライフを楽しみたい」という回答もあった。その他の意見としては、以下のようなものが挙げられた。

- ・「来年も作りたいが、高齢ということもあり不安である」
- ・「動けるまでやりたい。少しでも社会に貢献したい」
- ・「体が動くうちはやりたい。作る喜びがある。作ることが当たり前のように感じているから」

次に、「5年後の営農の見通し」という質問についてである。これについては、「現在のままである」という回答が最も多く10件。「拡大する」という人が1件。「未定である」という人が3件であった。この回答は、高齢の方であってもまだまだ自分が農業をやっていくのだという強い意識を感じるものであった。

一方で、未定と回答してはいるが、5年後の営農が難しいと考え、全面委託や貸し付けを考えてはいるという人もいるのであるが、その中には、「周りも70歳から80歳で農業をしているから、借りてくれる人がいるかどうかわからない」という回答もあった。この結果から、規模拡大は難しく、今後は現状維持も難しくなるのではないかという不安が感じとれる。また、「昔から集落内で持ちつ持たれつ、損得勘定はなくやってきた。その助けあいは世代を越えて回るものだから。しかし、今はどうしても自分本位になってしまっている。」という回答があった。この回答からは、集落内での助け合いだけでは営農の維持が難しくなっているという現状が感じとれる。その他の意見としては、以下のようなものが挙げられた。

- ・「現在のままやれていればいい。やれなくなったら息子へ、あとは息子の判断」
- ・「現在のままである。体を無理してまで拡大はしない」
- ・「砂地の特性を生かした農業をやりたい」
- ・「現在のままである。しかし後継者がいなければ貸すことも考える」

最後に、「世代交代した時の農地の状況」という質問についてである。主な回答としては、「委託や貸し付けをするだろう」という回答が最も多く9件。「後継者がやるだろう」という人が4件。「わからない」という人が3件。「放っておく」という人が1件であった。

委託や貸付の方法としては、「農業委員会を通してお願いするだろう」、「条件などはすべて役場に任せる」というものであった。しかし、「もし貸すのなら集落内の人がいいが、もう精一杯。どこも深刻な後継者不足」という回答もあり、本当は信頼できる集落内の人をお願いしたいが、負担が大きすぎるため、行政に頼らざるを得ないという現状が感じ取れる。また、「やりたいという人がやってくれるのが一番だが、交通の便も悪く、日帰りで通って農作業をやる人はいないだろうし、機械を置くところ、トイレ、休憩所などがいないため環境が悪い。こうしたところを改善すれば、借りる人は出てくるのかもしれない。結局

は、行政側でやっていくべきことだ。」という回答があり、外部からの人に委託、貸し付けをするための環境改善を行政に行ってほしいと考えている人もいるようである。また、「わからない」と回答した人も多く、「息子はいるが、後を継いでくれるかははっきりしていない」という人もいた。その他の意見としては、以下のようなものが挙げられた。

- ・「農地を貸し付けたり、農作業委託をするだろう。理由は、若者の負担になる、土地はあるが使えない、税金だけ払うことになるから。」
- ・「農地を貸し付けて、そのまま継続するだろう。」
- ・「後継者が後をついで農業をやる。(息子が定年退職するから)」
- ・「農地貸付や作業委託するだろう。それでもだめなら農地は売却。」
- ・「放っておく。男手がないから。」

第3節 集落の課題について

1. 今後の定住意向

アンケート調査で今後の定住意向についてうかがい、その結果を集計したところ以下のようなになった。

図表 3-3-1 問 12 あなたは、今後も中台集落に住み続けたいですか。

カテゴリ	件数	(全体)%
このまま住み続けたい	43	93.5
村内で別の集落に住みたい	0	—
県内の他の市町村に住みたい	1	2.2
県外に住みたい	1	2.2
不明	1	2.2
サンプル数	46	100.0

「このまま住み続けたい」と回答した人が43人と圧倒的であった。聞き取り調査でも今後も中台に住み続けたいと回答した世帯は19戸中11戸であった。そのなかでも「死ぬまで出る気はない」、「ここが一番である。息子、娘のところにいと実感した」という前向きな意見も聞かれた。しかしその反面で積極的な様子ではない方もいらっしやった。「片方が動けなくなったりしたら、家の管理も大変だし、近所にも迷惑がかかるので施設に入るために引っ越すかもしれない」といった意見も見られた。

2. 中台集落の問題点、今後取り組むべきこと

上記の結果からわかるように、中台集落への定住意向や今後の定住の見通しは高いと言える。この結果をふまえ、集落の住民が今後の中台集落に期待することは何か、調査の結果をまとめてみた。

聞き取り調査で「中台集落の問題点、今後取り組むべきこと」についての質問に対して、回答の得られた戸数ごとに分けると以下のようなようになった。

- ・交通の便に関する意見…5戸
- ・後継者や若者の減少とそれと関連して雇用の問題について…5戸
- ・高齢化に関する意見…5戸
- ・農業に関しての意見…4戸
- ・除雪に関する意見…3戸
- ・人手不足により集落機能の維持について懸念する意見…2戸
- ・財政や商業施設の誘致など村の政策に関する意見…1戸

また具体的に、以下のような意見があげられた。

- ・「県立病院（河東町）完成時に巡回バスが欲しい。」
- ・「食品の移動販売車が来てくれれば良い。独居老人の日常安否確認システムが必要。」
- ・「近所の子どもの注意できなくなった。集落の問題というよりは時代のせい」
- ・「どう発展させていくかがトップ層にあるか、コメだけではやっていけない」
- ・「どんな政策を行ってくれるのか明らかにしてほしい」
- ・「他の人からみれば問題だと思うことでも自分には問題に思えないことがある。難しいと思う」
- ・「年をとった人が集まっても、決まりきった答えしか出てこない」
- ・「空き家は危険！」
- ・「娘の子（孫、5～6歳）は田舎暮らしをしてみたいという。小学校に入ったら夏休みを利用して集落の生活を体験させたい」

3. 集落活性化のために行いたいこと・今後への期待

またアンケート調査の「集落活性化のために行いたいこと」「今後どんな集落になればいいと思うか」という項目に対しての回答を表にまとめると以下のようなようになった。

図表 3-3-2 問 16 中台集落を活性化するために行いたいことはありますか。

カテゴリ	回答数	(全体)%
農産物を外部にアピールする	10	21.7
外の地域からの移住者の受け入れ	9	19.6
農産物加工や直売活動	7	15.2
お祭りや伝統行事の復活	7	15.2
空き家の活用	6	13.0
農家民泊、農業体験の受け入れ	6	13.0
自然エネルギー発電の取り組み	6	13.0
高齢者の技術の伝承の場をつくる	4	8.7
集落の人々が集まる行事を増やす	3	6.5
若者が主体となったイベント	3	6.5
蔵の活用	2	4.3
その他	2	4.3
特に何か行う必要はない	2	4.3
不明	4	8.7
サンプル数	46	100.0

図表 3-3-3 問 17 あなたは、中台集落が今後どんな集落になればいいと思いますか。

カテゴリ	回答数	(全体)%
高齢者が元気で長生きでいる集落	22	47.8
交通の便がよく、暮らしやすい集落	19	41.3
若者の働く場所がある集落	9	19.6
自然を大切にする集落	9	19.6
農業に一生懸命な集落	6	13.0
外部の人との交流が盛んな集落	4	8.7
歴史や伝統を大切にする集落	2	4.3
自治活動が盛んな集落	1	2.2
観光が盛んな集落	0	—
その他	1	2.2
特にない	3	6.5
不明	2	4.3
サンプル数	46	100.0

このアンケート結果より、農産物のアピールを行いたいという意見や、農産物加工や直売活動を行いたいという意見、また農作業に一生懸命な集落といった意見や農家民泊、農業体験の受け入れを行いたいといった意見など、農業に関わる意見への回答数が多いことがわかる。このことから、住民の方の多くは、中台集落は農業中心の集落という意識があるのではないかと感じた。農業や伝統を重んじている一方で若者へ意識を向けていたり、外の地域との交流もしていきたいという意見もあり、閉鎖的ではなく、開かれた集落であるという印象を受けた。

4. Iターンについて

次に、聞き取り調査でIターンについてどのように思うかがあったところ、大多数の人が外部から新しい住民が来ることにに対して好意的であった。具体的には以下のような意見が聞かれた。

- ・「空き家が増えるより家に明かりがついていたほうが嬉しい」
- ・「新しく来る人には、自分と同じように、集落に骨を埋めるつもりで移住してほしい」
- ・「強制ということではなく、お互いで受け入れていく」
- ・「やりたいことがあれば（新しい住民の方に）自分の畑を使ってもらってもいい」
- ・「歓迎する。子どもの声が聞こえてきたら嬉しい」

また、以下のような意見も聞かれた。

- ・「努めて集落の行事に慣れてもらうことが大事」
- ・「昨年新しく越してきた人も集まりに出てきているのでいいと思う」
- ・「農業主体の村なので、用水路の掃除などそういったことに参加してほしい」

アンケート結果からも集落活性化のために、外の地域からの移住者の受け入れを行いたいと回答した方が 9 名と多く、また上記の回答からも、中台集落の住民の方は、外部からの新しい住民の受け入れに関して好意的であることがわかった。その場合、集落の行事への参加や、共同作業に関しては参加してほしいと考えている。

5. 「道の駅」構想について

聞き取り調査で道の駅の構想について意見を聞いたところ、応援したい、前向きに関わっていきたいという意見も得られたが、以下のような回答もあった。

- ・「今の生活で手一杯なのでお客さんとして行きたい」
- ・「体がついていかないこともあり関わろうとは思わない」
- ・「直売所で売るとはあまり考えていない」
- ・「自分では農作物をあまり出したくない。名前が出てしまうのが嫌だ」
- ・「直売所での販売も大変」
- ・「自分は農産物の販売をするつもりはない」
- ・「参加はしたいが運搬が大変だろう」
- ・「生産量の問題もある」

中台集落の住民の方は、自分たちが販売する立場として道の駅に関わっていくのは難しいと考えているようだった。また、このような意見も目立った。

- ・「役場の人だけに商売やらせるのは畑違い」
- ・「意見を言う場があったが、住民の意見に対して役所からの返答がない」
- ・「既に計画がかなり進行してから住民の意見を形式的に聞いても全く意味がなく、このようなやり方は直した方がよい」
- ・「箱モノ行政は本腰を入れてやらないと成功しない」
- ・「世間がやろうとしていないことをやろうとしているので難しいだろう」

中台集落の住民の方の中には行政からの明確な情報の開示が必要と感じていたり、不安を感じたりしている方もいた。一方で、先述のように「集落活性化のために行いたいこと」というアンケートの項目では「農産物を外部にアピールする」「農産物加工や直売活動」と回答した人はそれぞれ10名、7名と多かった。このような意識を持った住民が多いので、道の駅を活かしていくことによって集落活性化のために積極的に動くことができるのではないか、と感じた。

6. 空き家や蔵の活用について

アンケート調査の「集落活性化のために行いたいこと」という項目で「空き家の活用」「農家民泊、農業体験の受け入れ」と回答した人はそれぞれ6名であった。それをふまえて、空き家や蔵の活用について意見をうかがったところ、以下のような具体案を提案される方もいらっしやった。

- ・「超短期の場合は目的を明らかにしてほしいし、役場を通しての方がいい」
- ・「知的障がい者に利用してもらったらどうか」
- ・「売るなら全部売る。それが当たり前。もしくは条件付きという形にして、条件付けて貸

し出しすれば？」

- ・「料理教室とかがあったらやってみたいと思う」
- ・「お年寄りの集まれるサロンがあれば」
- ・「介護施設」

しかし交通の面や民家ならではの家のづくり（仏壇など）の面、草むしりや維持費など管理の面から難色を示す方が多かった。空き家の活用に関して、関心のある方がいらっしゃるので、具体的な活用案や先進事例などを検討し、中台集落ならではの活用できる案を考えていくことが大切なのではないかと感じた。

7. 集落で将来まで守っていききたいもの

「集落で将来まで守っていききたいもの」という聞き取り調査の項目では、現在の生活を維持していききたいという回答の他に、具体的に以下のような回答が得られた。

- ・「百万遍は残るだろう」
- ・「昔からの助けあう“結”の気持ちを守って行って欲しい」
- ・「人と人との関係。みんな気持ちのいい人ばかり」
- ・「身の回りの自然、人付き合い」
- ・「人との交流。結いが復活してほしい」
- ・「地域の伝統行事、収穫祭、節々の祭り」
- ・「地域でお世話し合う関係は残していききたい」
- ・「みんなで話をする事」
- ・「昔からの年間行事は世代を超えて受け継いでほしい」
- ・「ものではない人づきあいとか目に見えないもの」
- ・「守りたいものがたくさんあるけどあげるのが難しい」
- ・「米作り、味自慢」
- ・「雰囲気」

伝統や集落の行事、また人と人との付き合いや雰囲気など、形のないものほど住民の方は大切にしたい、今後も守っていききたいと思っているのだと感じた。

8. その他の自由意見

聞き取り調査に協力していただいたみなさんから自由意見をうかがったところ、以下のような意見を頂くことができた。これらの意見をいくつかの項目に分けてみた。

まず生活面として、以下のような意見があった。

- ・「今の生活で手一杯でいろいろ考える」
- ・「自分のことで精いっぱい（集落の将来については）考えたこともない」

このような意見も見られたが、中台の将来に対してどのようになってほしいかという点で以下のように具体的な意見も多く聞かれた。

- ・「人口問題があり、具体的にどうすれば良いのかと考えてもアイデアが湧かないが、人が増えれば環境は良くなるはず」
- ・「若い人に戻ってきて欲しい」
- ・「雇用を拡大してほしい」
- ・「集落に子どもが増えてほしいと思う」
- ・「よそから人が入ってくれるとよい。グリーンツーリズムで大学生が入ってきたが、若い人がいることはやはり活性化につながっている」
- ・「仕事がないから、若者が外に出ていってしまうことが問題だと思う」
- ・「通いでもいいから若い人の出入りが必須」
- ・「若い人々が戻ってくればいい」

上記のように、今後の集落の人口の問題に関わって、若い人が集落に入ってくれることを望んでいる方が多くいるようだった。それに伴って若い人が入ってこられるように、雇用や働く場の確保や、グリーンツーリズムなど催しの開催について望んでいる方がいるようである。

また高齢化については以下のような意見もあった。

- ・「デイサービスセンターでは、口を出せば家族へのやつあたりになってしまうために、一切口を出さないという方もいる。センターでは唄を歌って楽しんでいる」
- ・「自分の母が介護が必要になった時に即入れられるような施設が欲しい」

デイサービスセンターの利用についての意見や介護施設についての要望など、将来高齢になったときのことを考えてのものであり、将来の高齢化についても、住民の方は気にしているように見られた。

次に、行政に対して以下のような意見や要望もあった。

- ・「今のことだけではなく、20年後、30年後見てどうなのかということを行政に考えても

raitai」

- ・「湯川の役場のいいところとして、動きが早い。ただお金がない」
- ・「農道の舗装など行政でやってほしい」
- ・「道普請をはじめ行政はいろんな行事をやろうとするが、そのたびに駆り出されるのは事業をやっている身としてはつらい。行事への参加はかなり負担になる場合がある」
- ・「行政がどういうことをしているのかわからない」
- ・「生活にかかわるから行政には除雪してほしい」

農道の舗装や除雪など直接的に生活に関わる要望や、情報の開示が必要といった声もあり、行政を頼りにしていると感じた。また、集落の方がみな同じ生活をしている訳ではない。農業主体の方もいれば、自営業や会社勤めをしている方もいて、生活スタイルはさまざまである。そのため行政の行事に参加することを負担に感じる方もいるのだと感じた。

農業と放射能問題についての意見もあった。

- ・「放射能問題について、農家は黙っているけれどとても心配。はっきりさせてほしい。農業問題が解決しないと自分たちもよくなるらない」

放射能に関する問題は個人で解決することが難しいため、こちらも行政などの対応が求められているのではないかと感じた。

また、農薬などによって少なくなった虫を嘆いている方もいた。農薬などの登場で便利になる反面、虫など野生の生き物や自然が減ってしまうのは残念なことだが、農薬を全く使わない農業を行うのは、作業が負担になって難しいことなのかもしれないと感じた。

集落の活性化について、以下のような意見を聞くことができた。

- ・「自分も貢献できることがあるならば貢献していきたい。現状維持+ α がほしい」
- ・「何とかしなくてはならないと思うが何をしたいかわからない。村としてまとまりたい。集落だけじゃどうにもならない」

集落の活性化のために何かしたいと考えている住民の方もいるが、自分自身では何ができるかわからないと感じているようである。そのような思いが活性化のためにとっても重要なのではないだろうか。その思いを活かすためにも環境を整える必要があると思った。

「人を大切に育てることが大切」と、意見を言ってくくださった方もいる。この地域を元気にしたいという思いを持った地元を誇れる人が育っていくということは、集落の活性化に最も必要なことではないかと感じた。

そして、活性化のためのアイデアとして具体的な意見を話してくださる方もいた。

- ・「農業に魅力があればいい。若い人が2,3人でグループを作り、農業をすればよいのではないか」
- ・「若い人が戻ってくると何か特典があればよい。分譲地をゆずるのはどうか、譲る代わりに住んでもらう」

若者や私たち学生に伝えたいこととして、以下のような意見を頂いた。

- ・「人生の先輩の言うことはちゃんと聞きなさい」
- ・「自分の力を信じていき抜けば壁にぶつかっても大丈夫！乗り越えていける！」
- ・「『いったい何が活性化なのか』学生さんには考えてほしい。そのうえで提案はどんどんして行ってほしい」

若い人に集落に入ってほしいと感じている住民の方が多いということは、普段若い人と接する機会があまりないということなのだろうか。

また集落内で最高齢の住民の方からは以下のような意見があった。

- ・「この年になると、さとりの中にいるようなものだ」

長い時間をこの中台集落で暮らしてきた方は、集落の変化を自身の目で見続けていたからこそ、現在までの集落の変化を客観的に見ていらっしやるのだろうかと感じた。

以下は、アンケート調査の自由記入欄にいただいたご意見である。

- ・「県立病院（河東町）完成時に巡回バスが欲しい。」
- ・「食品の移動販売車が来てくれれば良い。独居老人の日常安否確認システムが必要。」
- ・「中台集落も今後益々少子高齢化が進行すると思われる。地域の絆を継続し、助け合いながら、生活していきたい。」
- ・「高齢者が増えており、集落を活性化させるための事業を早急に考えていかないと10年後が心配である。」
- ・「自然や環境が農業に一生懸命な集落を形成するのに適していると思われるので、そんな方向に進んでいければ一番いいのではないかと考えている。」
- ・「現在は勤めているのでいいが、高齢になった時の不安は大です。高齢者世帯が増え、運転もできなくなったとき、自分はどうか対応するだろうと思うが、予測できない。老老介護が当たり前。どう地域みんなで対応するか今からでも考えていかなくてはと思うが、一世

帯ではどうにもならないです。行政と連携し、住みやすい中台区になって欲しいと思います。」

・「中台での話し合いの際には、良いアイデアが浮かばず、会話も助けていただき、大学生の皆さんには感謝しています。自分の子供くらいの人と話ができて、若い人もこんなに地域を良くしようと考えているんだなと思い、安心しました。楽しい時間でした。ありがとうございました。地域がもっと住みよくなるよう、自分たちも協力していくよう思っています。このアンケートで少しでもいい結果が出せるよう、学生さんとともに歩みたいです。」

・「地区を継続していくためには、これ以上の人口減は止めなくてはならないと思いますが現状では無理な様です。高校迄は居るが大学や就職となると集落から離れてしまうのが現実です。」

・「中台は外部の人が住むようになってきた。集落の行事や、活動にも積極的に参加してもらえるようにしないといけない。(受け入れる体制作り等)」

・「交通の便が良ければ外部から入ってくるので活性化につながるのではないかな。そうすれば農家に民泊しながら農業体験ができる。」

・「若い人が戻ってこれるような環境の整備を行って行きたいので、ご協力よろしくお願ひします。」

・「年長いた両親は村の人たちみんなに助けていただいています。本当に感謝しています。息子がおりますが、何か仕事があったらあるいは息子を引き付ける何かがあったらいいなあ、と思います。帰ってきたくても仕事が見つかりません。」

・「地区を継続していくためには、これ以上の人口減は止めなくてはならないと思いますが現状では無理な様です。高校迄は居るが大学や就職となると集落から離れてしまうのが現実です。」

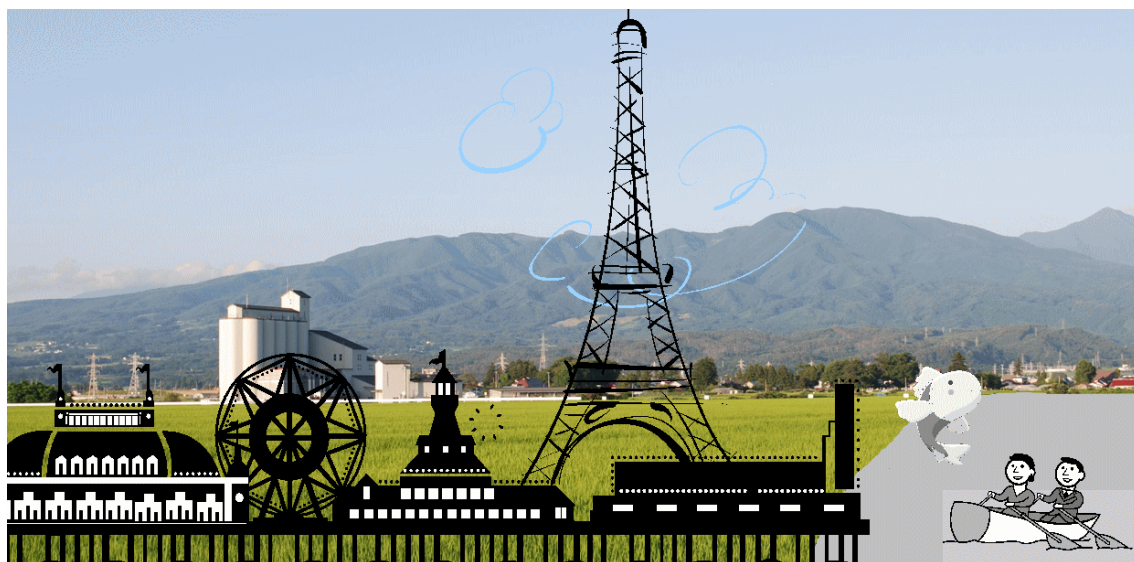
・「男の子が不足して、今後農業を行っていけないので、田畑をやってくれる団体があれば、荒らすことなく自然を活かせるのではないかな。」

・「米どころなので、農業を大きくやっている農家民泊や農業体験の受け入れで村が活性化するのではないかな。」

・「甘酒や塩麴、漬物、農産物にしんの酢漬けなどを外部にアピールしていく。(干し柿・たくわん・キムチ・チソジュース・切干大根・ゴーヤ料理)」

・「除雪も不十分なので、近所の人とも助け合いながら冬も乗り切る。」

・「やはり高齢化が進んでおります。若者の力が必要になっています。会津盆地の中心部が素晴らしい田園風景ですがこれからの若い人たちが農地を大切にしながらも色々な視点を考え何でもありの皆々様が集まってくるよう考えます。たとえば、このすばらしい景観を生かすこと。いろいろ動植物が集まるボートを池に浮かべ、湯川物産館、展望風呂、展望台を備えた湯川タワーを建設し、遊園地も併設して、たくさんの人にきてもらう。」



<湯川タワー>イメージ図

ここでもやはり高齢化と集落の維持を課題として考えている方々が多いことがわかった。一方で、具体的なアイデアや提案もたくさん書いていただいた。

お忙しい中、貴重なお時間を作っていただき、調査に協力してくださった中台集落のみなさんには、大変お世話になった。今後も地域の魅力を活かした活性化とは何か考え、集落に関わっていきたいと感じた。

第4章 まとめと考察

齋藤 佑樹

第1節 全体を通じて

第2節 活性化の方向性について

第3節 空き家、耕作放棄地について

第4節 道の駅について

第5節 おわりに



第1節 全体を通じて

現在、地域コミュニティが脆弱化しているといわれている。都市化が進行することによって、通勤や、通学、娯楽など様々な活動の範囲が拡大し、人々の生活は多様化している。こうした結果、地域社会が果たしていた役割が変化したこと、農業を軸に住民が相互に協力するという状況が崩れてきたことによって農村のつながりが弱まった。個人の生活は多様化することで、近隣との関係が希薄化し、近所に住む人であっても会話を一度もしたことがないということも少なくない。こうした地域コミュニティの脆弱化によって、これまでは親族や友人、地域住民との相互扶助ネットワークで維持できていた地域の問題解決能力が弱まっているといわれている。

しかしながら、調査の中で明らかになったように中台集落では、住民の方同士が支え合い、関わり合いながら生活している。住民同士の交流頻度では、全体的に高い傾向であり、住民同士の交流が盛んな集落であるといえる。実際に収穫祭では、多くの住民の方々が参加し、玄関も履物であふれるほどであった。また、各世帯から原則1名参加する集落での共同作業があるが、自身が作業に出ることができない高齢者のみの世帯では、他出している家族のサポートがあるなど、人々が協力し合っていることがわかる。



【収穫祭の写真。玄関も履物であふれるほど多くの方々が参加する】

こうした中台集落について、住民の方々はどのように感じているのだろうか。住民の方々が感じる中台集落の好きなところは大きく三つに分かれる。それは、住民性、愛着、農業の三つの面である。みんなが知り合いであり、住民同士の交流が深いため、世代を超えた助け合いが生まれる。それによって、住民の輪が生まれ、集落の雰囲気自体が穏やかなものになっているのではないだろうか。そして、中台集落に対して住み慣れた暮らしやすさを感じており、自然が豊かであることなど他の地域に誇れる魅力が中台にある。おいしいお米や野菜があり、農業が集落の方々の暮らしの一部となっており、農業と共に人々が生きている。

一方で、中台集落の方々は暮らしにいくつかの不安も感じているということが明らかになった。第一に、高齢化の問題である。一人暮らしになった場合、自立した生活を送って

いけるのか、集落機能を維持していけるのかという不安を感じている住民の方がいた。自然に恵まれた中台集落であるが、反面、夏は草取り、冬には雪かきが負担となる。農業の面でも農地の管理への不安があり、実際に耕作放棄地も増加している。第二に、交通の面での不安である。高齢化に伴い、将来自分で運転ができなくなったらどうなるのかという不安の声が多く聞かれた。

こうした不安があるものの、中台集落で生活することができるのは住民同士のつながりがあるためである。では、これからも住民同士のつながりを維持し、不安を少なくするためにどのようなことができるだろうか。中台集落には、調査結果から分かったように高齢化、交通問題、耕作放棄地など課題があるが、一方で、地域資源マップの中にあるようにお宝もたくさんある。こうした高齢化や耕作放棄地の問題などの「弱み」と、集落にあるお宝、つまり集落の「強み」を掛け合わせることでできれば、中台集落の不安を解消することが可能になるだろう。以下の節では、特に空き家、耕作放棄地、道の駅を取り上げ、調査結果から分かった集落の「弱み」と「強み」を掛け合わせることでこれからの中台集落のためにできることを提案していきたい。

第2節 活性化の方向性について

これまで、地域における活性化策というものはその多くにおいて、国や専門家、行政の役割が大きく、行政側が作成した計画に住民が従うことによってなされてきた。こうしたことによって、実際の現状、問題点から離れたところで活性化策が行われることがある。しかしながら、実際に地域のことをよく知っているのはそこに住んでいる住民の方々であり、その地域には様々なお宝や魅力がある。調査によってわかった集落の住民の方々が感じる不安や問題点という「弱み」とお宝や集落の魅力といった「強み」を掛け合わせることによって「弱み」を「強み」に変え、「強み」をさらなる「強み」にできるような活性化策を考えていきたい。

調査結果で分かったように、集落内には、「積極的に集落を活性化していきたい」という考えの方が多く、住民の方々が考える理想の中台像というものは、①高齢化しても安心した生活ができる集落、②農作物のアピールをして農業を盛り上げたい、③新しい住民の増加で耕作放棄地や空き家を解消したい、というものである。こうした活性化において、新しく中台で生活を行う人たちとも、集落の行事や運営を行いたいという声もあり、Iターンについても好意的な意見が多かった。こうしたことを踏まえつつ活性化策を考えていく。

具体的に活性化を考えるにあたって、私たちは調査によってわかったことを大きく集落内外の環境、プラス面とマイナス面に分けた。そして、集落内の環境におけるプラス面を「強み (Strengths)」、マイナス面を「弱み (Weakness)」、集落外の環境におけるプラス面を「機会 (Opportunities)」、マイナス面を「脅威 (Threats)」とした。このことによって、それぞれを掛け合わせ、「強み」をさらなる「強み」にする、「弱み」を克服する、「機

会」を活かす、「脅威」を取り除くためにはどうすればよいのかを考えることができるようになる（図表 4-2-1）。

図表 4-2-1 集落活性化のための分析

	集落内の環境	集落外の環境
プラス面	<p>S 強み</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が I ターン・農家民泊に好意的 ・集落活性化に対する関心が高い ・豊富なお宝 ・集落のつながりの深さ ・おいしいお米、野菜 ・活発な集落行事 ・多少の不便さがあっても住みたい所 ・支え合える集落 ・集落での生活についての満足度が高い 	<p>O 機会</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅 ・自然景観が素晴らしい ・田舎に住みたいという人が増加している ・福島県への関心の高まり
マイナス面	<p>W 弱み</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家 ・高齢化 ・農業の担い手不足 ・耕作放棄地 ・雪かきの負担 ・職場が少ない ・仕事と集落作業の両立の難しさ ・道の駅に対する住民の方々の不安 	<p>T 脅威</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅についての行政からの情報不足 ・交通問題 ・放射性物質の問題 ・風評被害

第3節 空き家、耕作放棄地について

○【空き家×耕作放棄地×Iターン・農家民泊】

(なお、×の記号は表で明らかになった要素同士を掛け合わせたことを示す。以下同)

中台集落には、高齢化や後継者問題などによる空き家、耕作放棄地という集落の弱みがある一方で、住民の方々がIターンや農家民泊に好意的であるという集落の強みがある。この二つを掛け合わせることによって、移住に向けた拠点となるのではないだろうか。「田舎でのんびりとくらしたい」、「自分で作ったお米で料理をしたい!食べたい!」、「第二の故郷がほしい」と思っている人は多い。実際に、日本経済新聞電子版と婚礼施設情報サイト「みんなのウェディング」が共同で実施した調査によれば、若者(20代から30代)575人のうち、田舎で暮らしたいという割合は、約半数の47.3%であった。

(日本経済新聞電子版 http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK23032_X20C12A3000000/ 2012年3月30日)

だが、田舎暮らしをしたいからといってすぐに移住を決心したり、畑を借りたりすることへの不安というものは少なからずある。空き家を活用することが、このような人々が中台集落の素晴らしさを知り、移住につながるきっかけとなるのである。具体的には、「プレ移住」として空き家を拠点として集落の中で生活してみる。集落の農業者はアドバイザーとして移住者と共に農業を行うことで、交流を深める。耕作放棄地はこの取り組みの中で体験者が耕す畑とすれば放棄地の解消につなげることができる。すでに中台集落には集落からの磐梯山の美しさが気に入り、中台へ来た移住者がおり、この方のように、移住先として中台集落を選んでもらうためには中台の魅力をプレ移住のなかで知ってもらうことが大切である。

具体的に、農家民泊の先進事例として、茨城県常陸太田市にある「荒蒔邸」の事例を紹介する。荒蒔邸では、空き家となった民家を借り受け、会員制の貸別荘方式で運営している。希望があれば、そば体験やわら細工体験ができる。また、会員制としていることでリピーターが多く、定住化につながる可能性もあるということだ。この取り組みを参考にし、中台集落独自の特色をだしつつ、空き家の宿泊施設化ができないだろうか。体験内容としては、そば打ち体験や、中台集落の片桐利永さんによるほうきづくり体験、餅つき体験、収穫祭などの集落行事の参加などがあげられる。

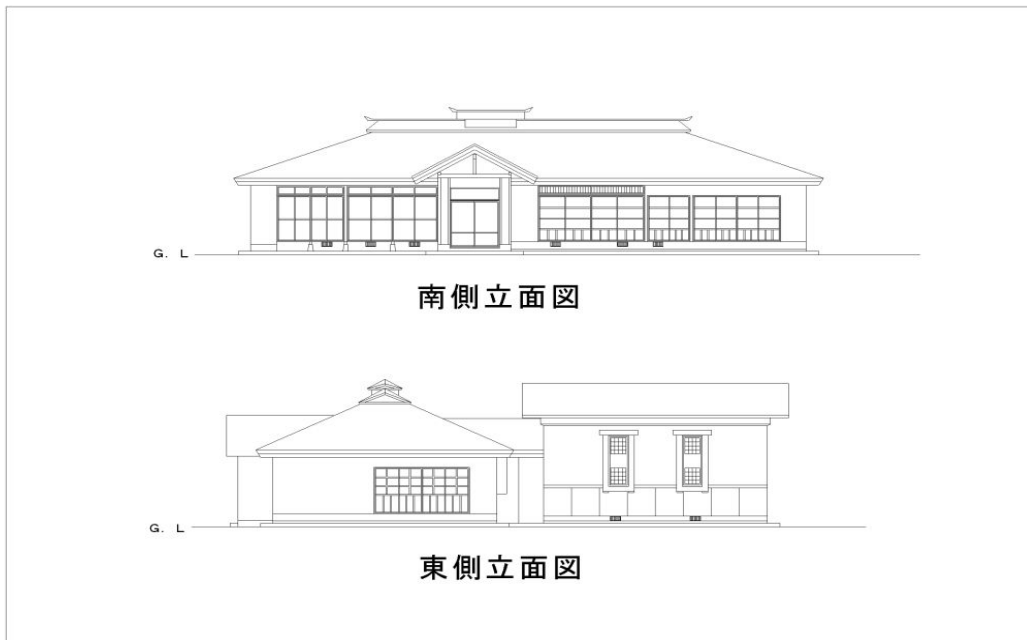


【餅つき体験の写真】

○【高齢化×空き家×集落のつながり】

集落の外の人に対して中台の良さを感じてもらおうというほかに、中台にあるお宝を集落に住む方々自身に感じてもらうような取り組みはできないだろうか。たとえば、宮城県旧宮崎町は湯川村と同じように農業を基盤とした町であるが、この町では「食の文化祭」という取り組みが行われていた。地域・家庭に独自に伝わる多彩な食のありかたに気づき、町から持ち出せない「いいもの」「おいしいもの」を見直すために、まずは、「我が家の味・家庭料理を持ち寄ってみよう」ということで食の文化祭は開催され、我が家の自慢の料理が一堂に集められ、展示された。

高齢化、空き家という集落の弱みと集落の人々の深いつながりという強みをいかして中台集落でも宮崎町のような取り組みができないだろうか。宮崎町のように、我が家の自慢の一品を一堂に集めて展示し、それらをみんなで食べることによって新たなコミュニケーションの場として空き家を活用することができる。さらに、「集落にあるおいしさ」を見つめ直すことができたあとは、中台集落でとれるお米や野菜を使って「新しい中台の味」を作ることできる。例えば、米粉パン、米粉スイーツ、お漬物などがあげられる。新たなおいしさの発見は集落の新たな強みにもなる。そして、これらの取り組みを通じて、集落に新しくお嫁に来た若い女性や、進学、就職で集落を出ている女性が中台の味を受け継ぐことにもつながる。



図表 4-2-2 岩澤邸立面図



図表 4-2-3 岩澤邸平面図



写真 実測のようす

第4節 道の駅について

○【道の駅×農業×行政】

調査で分かったように、集落の住民からは道の駅へ中台の産品を出荷するにはいくつかの疑問があがった。「一人でやるには負担ではないだろうか」、「出荷したいけれど車がないから道の駅まで行くことができない」、「いつも家で食べているようなものでも売れるのだろうか」、といったことである。道の駅は中台集落のお宝を集落の外で多くの方に知ってもらうために活用できるのだが、こうした疑問や不安が解決されなければ道の駅への集落住民の参加はうまくいかない。まずは、道の駅を運営する行政の側が、住民に対して道の駅についての詳細な説明を行い、集落の人の声に耳を傾ける必要がある。

また、出荷に関しても、道の駅を運営する行政の協力が不可欠である。道の駅に集落の方々が参加できるようなシステムとしては次のようなものが考えられる。まず、出荷したいものを住民の拠点へ集める。次に、その拠点へ道の駅スタッフが回収に来る。この出荷システムによって、集落の方々の負担が軽減し、道の駅への参加がより気軽にできるようになるのである。さらに、道の駅には湯川にある道の駅だからこそ出品できる商品を並べることができるというのも大きな利点である。こうすることによって、今までになかった「中台ブランド」が誕生し、商品を売ることを通じて、「湯川村」や「中台集落」といった地域をPRすることにつながる。道の駅で商品を買った人が地域に興味を持ち、再び農家

民泊をするために集落に入ってくるという可能性もある。自分で作った野菜やお漬物、お菓子が身近な場所で売られることになれば、そのことが新たな生きがいとなり、生活がより豊かになる。

こうしたことのほかにも、道の駅では、空き家での取り組みを生かし、各家庭の郷土料理や加工食品の出品、料理教室の開催、ほうきづくり名人片桐利永さんのつくるほうきの販売、漆器や、岩沢正平さんのとった写真などの中台のお宝を展示する場としても利用することができる。

第5節 おわりに

これまでの地域づくりは効率性や経済性というものが重視されてきた。そして、都市型の暮らしというものが理想であり、目指すべきものであると考えられてきたように見える。しかし、こうした価値観から地域を見るのは、たくさんある見方のうちのひとつにしか過ぎず、必ずしも都市型の暮らしというものがよいとは限らない。湯川村、中台集落には高齢化などの問題はあるが、たくさんのお宝があり、人々のつながりがある。こうした価値観から素晴らしいものを組み合わせていけば、今以上に活気のある素晴らしい集落になるのではないだろうか。

第5章 中台集落調査の感想文



3年 阿部 夏希

約半年の調査から報告までを振り返ってみると、大変だったなと思います。報告書の作成やパワーポイントなど資料作りでは、何度もメンバーで集まってどうしたらいいかどうすべきか話し合いました。何度も何度も直していたときは本当に終わるのかなと不安になったこともありました。

大変だったと思うこともたくさんありましたが、この中台集落での集落復興支援事業を行って、よかったと思うことの方が多様な気がします。合宿を通してゼミのメンバーがより仲良くなったり、国宝の仏像を見ることができたり、楽しかったこともたくさんありました。ですがやはり集落の方々とお話をして直接生活の様子や思いを知ることができ、自分の考え方が広がり新たにたくさんすることに気づけたことが1番よかったと思えることです。調査の内容をまとめていく中で、ネガティブなことばかりに目が向きがちですが、すぐ目に止まってしまうようなネガティブな面だけではなく、強みと言えるものに目を向けそれらを活かしていけるよう考える「あるもの探し」の考え方は、素直にすごいと感じました。そして同時にわたしたちは普段、その考え方を忘れがちなんだなと気付かされました。

そして今回の調査では区長さんをはじめとする中台集落の方々に大変お世話になったと感じました。貴重なお時間を割いてわたしたちをお宅に招いてくださり、たくさんお話を聞かせていただきました。それだけではなく、訪問したお宅では飲みものとお菓子や野菜、果物をごちそうになり、歓迎してくださいました。11月22日の湯川村活性化フォーラムで、発表をした際も、夜だったにも関わらず中台から見に来てくださった方もいて、発表内容にも喜んでいただき、とても嬉しかったです。中台集落に調査に入って報告や発表資料作りを一生懸命やって、本当によかったなと感じました。収穫祭など集落の行事に参加できなかったことがとても残念でしたが、来年もぜひ中台に来てほしいと言っていただき、わたしたちの調査活動が中台集落の方にも喜んでいただけたのかなと嬉しかったです。

今回の調査では、新たな集落の魅力や強みを発見したり、活性化のための可能性を検討したり出来ただけでなく、住民の方との新たなつながりが生まれたことも大きな成果ではないかと思いました。今後中台集落がどのように変わっていくのか見ていきたいです。今年度だけで終わりではなく、来年度以降も中台集落との交流が続けばいいなと思いました。

3年 遠藤 美穂

はじめて中台集落に入った印象は、とてもどかな場所だというものだ。私が、これまでにお世話になった地域の多くが中山間地など山間の集落であった。だからこそ、湯川村中台集落のような平地の地域はとても新鮮な印象を受けた。中台集落には、昔ながらの家

屋や蔵などが多く、小道のわきには水路が続いていた。本調査が行われた夏には、広大な田畑が青々と光り、水路の水がきらきらと輝く。小学生が走ってきそうなドラマのような景色だった。

本調査では、中台集落の多くの住民の方に調査にご協力していただいた。貴重なお時間を私たちのために割いていただけたことに本当に感謝している。私が、伺えたのは3軒のお宅のみだったが、さまざまなお話を聞くことができた。集落への思いを住民のみなさんから直接聞くこととはなかなか体験できるものではない。自分たちが住む場所にどのような考えを持っているのかを知ることは、地域づくりをしていく上で非常に大切なことだ。調査を通じて、私たちの学ぶ「地元学」を実践できたことは私にとって大きな意味をもつ。片桐利永さんにお話を伺った際には、聞き取り調査だけでなく、貴重なものづくりの体験をさせていただいた。片桐さんは、伝統的な縄づくりの技術をお持ちで、私たちに丁寧に縄の作り方を教えてくれた。片桐さん宅の蔵には、ご自身が制作したさまざまな工芸品が並んでいた。豊富な種類の籠や、川で魚を捕るための昔ながらの道具、手作りのほうきなど実に多くの作品をお作りになられている。特に、巨大なしめ縄は圧巻であった。片桐さんのような技術者は集落の大切な宝物である。中台には、片桐さんのほかにも多くの技術者がいることが調査全体を通して明らかとなり、集落の活性化のために彼らの力を生かしていけるのではないかと感じた。

調査に入った2日間は大変暑く、体力のいるものだったという印象を持っている。そんな私たちに、集落のみなさんは大変親切に接して下さった。多くのお宅から、夏の作物の収穫をおすそ分けをいただいたりもした。現地に入って住民の方の生の声を聞く、そしてみなさんの生活に触れさせてもらうことができた。中台集落がどんな集落なのか、まだまだほんの一部ではあるだろうが知ることができたと思う。中台で営まれる人々の暮らしの中には、本当に多くの失ってはならない宝物があった。それは、道に植えられた花々であったり、住民の方が作る野菜であったりと、一見なんでもないようなことこそが宝ものなのだと、大震災を経てそのことを強く感じるようになった。近年、少子高齢化や人口の減少によって地域機能が弱体化している状況は中台集落に限ったことではない。中台で学ばせてもらったことを中台に還元しつつ、ほかの多くの地域でも活かしていきたいと思う。

3年 大越 麻由

私が調査に伺ったどのご家庭でも私たちを温かく迎え頂き、たくさんのお話をしていただいた。タイムテーブルを渡されたときに90分もお話しできるのだろうかと不安であったが、実際に調査を行うと90分では全く足りず、深くうかがうことのできなかつた話題もあり残念であった。「高齢化」や「過疎」という言葉は講義の中でもよく聞くし、少子高齢化をどのようにして食い止めるのかについての意見を述べることも今までにあった。し

かし、実際にそのような状況にある人々の生の声を聞く機会は今までなかった。今回の調査の中で集落の抱える諸問題、とりわけ高齢化についての不安の声を聞き、今まで思っていた以上の困難が集落にあることを知った。集落の現状は実際に集落に行かなければ分からないし、集落住民にしか分からない。小さな集落であっても、その声が行政や集落外に伝わるような仕組みの必要性を感じた。

調査では高齢化などの深刻な問題についての声だけでなく、集落の魅力も多く発見することが出来た。私は、初めて中台集落に行き予備調査をした際、道沿いに植えてある花や畑の野菜、澄んだ青空にとっても感動した。本調査では更に多くの集落の自然景観を見ることが出来たのだが、これらの自然を含めたお宝は集落の住民にとっては日常に過ぎず、実際に集落の方に感動を伝えても「こんなの全然すごいものではないよ」と言われてしまったこともあった。作成した地域資源マップを見て集落の方々に魅力を再認識してもらえたらいいなと思う。

中台集落の方々は集落を良くしたいという気持ちや集落に対する誇りがとても強い。このことは一番の強みだと思う。よそものである私たちや行政が「活性化のためになにかしたい」と思っても、集落内の活性化に対する意欲がなければ集落がよくなることはないと思う。来年度の実証実験では集落の方々の活性化に対する思いと私たちの提言が形になるよう積極的に取り組んでいきたい。

調査の準備から実施、まとめ、全ての段階を通して初めての取り組みばかりで大変なことも多かった。そのためゼミ外の時間で何度も集まり、資料作成の話し合いを繰り返した。多くの苦労があったが、プレゼン用のパワーポイントやこの報告書のように一年間の取り組みを形に残せてとても嬉しく思う。湯川班のみなさん、おつかれさまでした！！

3年 尾形 優太

私は集落の調査と聞いてはじめは勝手なイメージですが車で何時間もかけて山の中で調査を行うのだろうと想像していました。しかし、実際に行ってみると磐越自動車道会津若松 IC から約 10 分で到着。まわりは一面水田が広がっていて、遠くには磐梯山を一望することができました。自然に囲まれたところだという印象と同時に、交通面ではハブ機能を持っており都会的な印象を受けました。

私たちは集落の集会所を拠点として調査を行いました。調査が始まるとたくさんの住民の方に差し入れをいただきました。収穫のお手伝いもさせていただきましたが、印象に残っているのはエンドウ豆が蔦についた状態を初めて見たことです。住民の方は「見たことないだろうと思って、蔦についたまま持ってきた。」と言っていました。私たちは自分たちの手でエンドウを蔦からとり調理しました。とったばかりの農作物は想像以上においしく非常に魅力を感じました。また、実際にお宅で話を伺った際も多くの方々が集落の

今後について考えていて活性化に前向きであると感じました。農家の方が「農業は生活の一部だ。」と話してくださいました。仕事と生活が一体となっている暮らしは、私には新鮮で住民の方の生活をさらに豊かにするには農業は一つのカギになると感じました。現在湯川村と会津坂下町が共同で建設している道の駅についても、住民の方の意見は様々でした。集落の農産物を外部にアピールできる機会なので多くの住民の方が参加を前向きに考えていると思っていましたが、道の駅の住民参加へは課題もあることがわかりました。

調査を通して同じ集落でも外から見た中台と住民の語る中台には違いがあると感じました。直接住民の方の声を聞き、直接集落を見ることが改めて大切だとわかりました。来年度は新たに加わる3年生とともに今年度の調査をもとにした実証実験を行い、中台集落がさらに魅力的な集落になるよう活動していきたいと思います。

3年 開山 貴史

はじめに、この報告書を作成するにあたって、聞き取り調査やアンケート調査にご協力いただいた湯川村、及び中台集落の皆さまに心から感謝いたします。完成することができた今、皆さまのご協力あつてのものであると改めて実感しております。

思い返せば、私たちが「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の話をいただいたのが昨年の春頃なので、あれからもう1年近く経過しているのだということに驚きを隠せません。本当に昨日の日のように感じており、中台集落のことを考えてきたこの1年がいかに濃密なものであったかを表しているのではないかと思います。この事業に参加することが決して楽なことではなく、参加するからには本気で取り組まなければ、依頼していただいた中台集落の方々に失礼であるということは、ゼミのメンバー全員が理解していました。そのため、参加すべきかどうか、その段階から慎重に議論したことを覚えています。そして、あの時に参加を選択したことで、本当に素晴らしい経験ができたと感じています。

6月に予備調査で初めて湯川村を訪れた時には、自然豊かな土地という印象を受けました。全く傾斜の無い地形で、福島県で最も面積の小さな自治体ということから、村の端から端まで見渡せるのではないかと思う程でした。また、村長直々にお話しをいただき、この事業への期待を実感するとともに、より一層気が引き締まる思いでした。予備調査から戻った後は、聞き取り調査票とアンケート調査票の作成にあたりましたが、こういったものをゼロから作成することは初めてでしたので、一体どんな質問項目を載せるべきなのか等大いに苦悩しました。

8月の本調査で訪れた際には、猛暑の中だったのですが、心なしかサラッとした風が吹いており、福島市よりも過ごしやすい印象を受けました。聞き取り調査は中台集落の方のお宅を訪問するというので、失礼があつてはいけないと緊張していましたが、実際に訪問するとみなさん快く迎え入れてくださり、とても質問しやすい環境でした。また、行く先々

で美味しい料理やお菓子をごちそうになり、こんなにおもてなしをしていただいていたのかと思うほどでした。集落の方々にお話をうかがっていると、プラス面マイナス面様々ありましたが、なによりも集落のことが好きなのだということが伝わってきました。そしてそれを聞いた私たちも、どうにかこの中台集落活性化の力になりたいと感じました。

本調査が終了してからは、結果の集計から考察を行い、フォーラムでの発表資料、そしてこの報告書の作成と本当に盛りだくさんであり、毎日中台集落のことを考えていたと言っても過言ではないような日々でした。しかし、楽ではないということは参加を決めた時からわかっていたことであり、悩むだけ悩んで出た結果を中台集落の方々に見ていただきたいという一心で尽力しました。

報告書の良し悪しは私たちが判断することではありませんが、中台集落の方々がこの報告書に目を通して大学生の視点や集落内部の意見を共有していただければと思います。また、報告書の完成が最終目標ではなく、活性化につなげることが目標なので、これに満足せず、今後もなんらかの形で中台集落に関わっていければいいなと思います。

3年 鎌田 洋平

まず私たち大学生を温かく受け入れて下さった中台集落の方々、湯川村の方々に感謝申し上げます。「調査」という形で集落に入ったのですが、時にそれを忘れて会話を楽しんだり、普段の生活ではできない経験をさせていただいたり、そして、季節ならではの美味しいものを沢山頂いたりなどなど、思い返すと思わず顔が綻ぶような記憶ばかりです。今回は、本当にありがとうございました。

初めて湯川村に伺った時には、天気も穏やかで会津を見降ろす青い山々がとても印象的だったのを覚えています。調査に入る「集落」というと、どうしても山間奥深い地域を思い浮かべていたのですが、会津平野の田園に囲まれた中台の姿はそれとは対極的なものでした。果たして住民の方々がどんな課題に直面しているのか。外側から集落を眺めただけでは検討もつかず、中台の穏やかで心安らぐ雰囲気感動するばかりでした。

初めての長時間に及ぶ面談調査ということもあって、当初は不安も少なからずありました。しかし集落の方々には、まるで親戚であるかのように優しく接していただき、その調査も無事に終えることができました。

調査を通じて印象に残ったのは、社会の変化に伴う、人と人との関係の変化という課題でした。集落内には繋がりを大切に思う人が多い一方、集落の現在置かれた状況はその維持が難しくなっているということでした。仕事や家族のあり方は時代とともに変化し、都市部に比べれば住民間の繋がりが強いといえる中台においてもそれは同じで、むしろ強いからこそ課題が顕在化したのでしょう。残念ながら私の住んでいるアパートでは、住民間の繋がりとという言葉は意識の内に間違っても出てきません。平常の中に失ってしまった価

値観は、その環境に置かれている限り、おそらく取り戻すことはできないのだと思います。それだけに、会津で培われてきた中台の心は、一度でも途切れさせてはならないと強く感じました。中台で過ごした時間は短いものでしたが、一人暮らしの私にとっては、まるで実家に帰ったように温かく、安らげる一時でした。集落の外に暮らす私ですが、来年度の活動の中でも積極的に関わりを持っていきたいと思っています。

大学に入り福島で生活し始め、福島の人と触れ合い、自然や言葉、受け継がれてきた味などなど、「福島」に触れることで、以前の生活の「当たり前」がとても価値あるものを感じられるようになり、故郷を見つめ直すことができました。私の場合、特に味覚を通して郷愁の思いを感じる(故郷のものを食べたくなる)ことが多いのですが、調査時に頂いた「にしんの山椒漬け」の味は今でも強く覚えています。私は吞兵衛のため、焼酎に漬けられていたことに反応しているのかもしれませんが。とても美味しかったため、不躰ですが是非また中台を伺った際には頂いてみたいなど思っております。

まもなく二月、故郷では牡蠣が美味しい季節となりました。

3年 齋藤 佑樹

私は、中台集落に実際に調査に行くまでは、どんな方がいて、どのような集落なのだろうと非常に不安でした。しかしながら、実際に集落内の方々とお話をしていくなかで、集落の方々がよくそ者である私たち大学生をととてもあたたかく迎えてくださり、そうした不安はすぐにはなくなりました。実際に湯川村、中台集落で活動を行う中で感じたことは、一つ目が、実際に調査してみると集落内には本当にたくさんのお宝が眠っているのだという驚きでした。歴史のある漆器やおいしい食べ物があり、ほうきづくり名人の方や素晴らしい写真家の方がいらっしゃったりするなど、中台集落には、多くの魅力がありました。そして、こうした魅力に対する驚きに加え、もう一つ驚きだったことは、人々のつながりの深さでした。収穫祭に参加させていただく中で、住民の方々の多くが参加し、とても楽しそうに集落の方々と過ごしている様子が非常に印象に残っています。

「現在、地域のコミュニティが脆弱化している」という言葉を大学の講義をはじめ、様々な場面でよく耳にします。そして、近所の方々と関わりというものが少なくなることによって、これまでは存在していた相互の支え合いによるセーフティーネットが機能しなくなっていると聞きます。しかしながら、中台集落は、確かに高齢化問題や交通面での問題がありますが、集落行事へのたくさんの方々の参加に見られるように、人々のつながりがあり、支え合いというものが残っています。社会のなかで生きていくためには、自分以外の他者の存在が必ず必要です。一人で生まれることもなければ、生活をするためにも他者の生産物が必要であり、社会の中での自分自身の役割や存在を確認するためにも他者との関わりが大切であると思います。こうした他者との関わり合いが少なくなっているといわれる

現在、中台集落での人々の支え合い、人々のあたたかさというものはとても大切なことであり、素晴らしいものであると感じました。

調査によって、中台集落の様々な魅力や、お宝が見つかりました。こうしたことをもとに、私たち学生の視点からいくつか活性化策を考えました。今回の調査で分かったことをもとにしながら、素晴らしい中台集落をもっとより良い集落にしていくためにはどうすればよいのかについてこれからもさらに探っていきたいと思います。最後に、中台集落で活動するにあたっては、様々な方々にお忙しい中ご協力いただきました。本当にありがとうございました。

3年 高信 明宏

集落活性化事業ということで、中台集落は耕作放棄地の増加や集落機能の維持、後継者不足といった住民の高齢化や若者の流出によって引き起こされる問題が懸念されていると事前に知らされていたが、そういった問題をものともしないくらいに住民の方々が元気だったことが、とても印象的だった。実際の問題として高齢化や若者の流出が集落には存在し、それらは今後継続して考えていかなければならない問題であるが、聞き取り調査やアンケート調査、地域資源マップの作成を通して中台集落は非常に魅力的な集落であると感じた。

中台集落の調査を通じて最も印象的だったのが、中台集落はとても人のつながりが深く、仲が良いことである。聞き取り調査においては多くの方々から「仲が良い」や「つながり深い」といった意見を聞くことができた。聞き取り調査においても快くご協力をいただいただけでなく、たくさんごちそうまでしていただき、本当に中台集落の方々にはあたたかいと感じた。私は参加することが叶わなかったが、収穫祭において集会所の玄関いっばいに履物が並べられていたのが中台集落のつながりの深さを表していたと思う。中台集落では昔は現在よりも多くの行事がされていたという話もあったが、それでも行事は多い地域であると思う。道普請などの共同作業の参加率も他出した方の協力もあって 100 パーセントとなっていて、集落の機能を維持していこうとする姿勢も集落全体にみられた。こうした中台集落の人のつながりの強さは集落にとって大きな強みであると思う。

地域資源マップを作成するために中台集落を散策し、色々なものを発見することが出来た。湯川村の中心に位置する中台集落は景色がとてもよく、特に磐梯山はとても雄大だった。磐梯山は季節によって変化があるので、磐梯山を見に来るだけでも価値があると感じた。風景以外にもほうき名人の片桐さんや多くの人で賑わう収穫祭などの行事、そして活用を考えている空き家も由緒ある立派なお宅であり、その蔵のふすまには立派な絵が描かれているなど中台集落は地域資源が豊かである印象を受けた。こうした地域資源の豊かさは活性化において大きな強みになると思う。

中台集落における本調査は2泊3日の日程であったが、多くのことを知ることができ、非

常に有意義なものになったと思う。来年度から実際に行動に移していくことになるので、今回の調査が活かせるように頑張っていきたい。

3年 高橋 ひかる

3日間の聞き取り調査は、とても体力のいることだった。話が脱線したらどのように戻すか、書き取りながら次の質問を考えるのは予想よりも難しかった。それに、農業の専門用語がたまに出てきて、あまり理解できないまま話が進んでいくこともしばしばだった。また、真夏だったこともあり、余計に体力が奪われていくような気がした。片桐利永さんのお宅を訪問した際には外で約3時間という長丁場の調査を行ったため、終わるときに意識が朦朧としていたことを覚えている。それでも3日間耐えていけたのは、中台集落の方たちが私たちが歓迎してくださったことが励みになっていたからだと思う。それぞれのお宅を訪問するたびに、畑で収穫されてすぐの野菜や果物、手作りのお菓子が食べきれないほど出てきた。調査を開始する前は、集落の方たちに受け入れてもらえないかもしれないと考えていた。よそ者が集落に入り込むことに抵抗を感じている人は少なからずいると思っていたからである。実際はその逆だったこともあり、リラックスして調査を行うことができた。「I ターンや外部からの受け入れについてどう思うか」のアンケートの質問項目でも前向きに捉える人が多かったので、結果的にそのように感じることもできたのだろう。

調査を行っていて、集落の一人ひとりが意見をしっかり持っている印象が強かった。若者の流出や道の駅についての質問で消極的な意見は多かったが、具体的な解決策も考えているようだった。予想していたことではあったが、「行政はもっと集落の人の意見を聞くべきだ」と言う人もいた。中台だけでなく、私たちもそれは日々感じていることだ。特に農家はそのように考える人が多いかもしれない。

私は村役場の方たちと接するとき初めは構えていたのだが、とてもざっくばらんに話しをすることができた。村をもっとよくしたいという想いがあるのに、それが住民とすれ違っているのがはっきり見て取れ、残念に思った。ここに限ったことではなく、どこでも同じ課題を抱えてしまうのだなと改めて気づかされた。

ところで、しめ縄作りを体験したことも思い出のひとつだ。利永さんの作るしめ縄は機械で作られたようにしっかりしていた。作れる人がもつといて、ビジネスを展開していけばいいのに、と岩崎先生も絶賛だったが、その通りだと思う。小さな集落であるが、たくさんのお宝が眠っていたことに驚くばかりだった。あるもの探しをすることで、不便な場所かもしれないけれど、素晴らしいところのほうが多いということに気付くことが大切だ。それは中台に限らず、自分の住む地域にも当てはまることかもしれない。人のあたたかさや、あるもの探しは活性化をするうえでとても重要な要素なのだ改めて感じさせられた。

3年 千島 かなえ

調査合宿では住民のみなさんの感激っぷりがうれしかったです。

フォーラムでは、終わった後にほうき名人の片桐利栄さんが「みんなでうちに泊まりに来てっていえばいいじゃない」と娘さんにいわれてもじもじしていた姿が印象的でした。これを執筆している現在、私は報告書作成の真っ最中ですが、その中で合宿のことをいろいろ思い出しています。例えば片桐区長と一緒に農作業したこと。いつも大量のすいかに囲まれていたこと。お宅訪問すると、何かしらご馳走させていただけたこと。ビールを飲みながら、住民の方と語り合ったこと。若いころの話、色々聞かせてもらいました。

個人的には今年のゼミは試練の連続だったなと思っています。調査票作成に始まり、調査本番、調査のまとめ作業、フォーラムのパワポ作成や報告書作成…これで終わり、ということがなく、つらいときもありました。

だれか知っといてくれればいいなと思ってあえてここに個人的なことを書かせてください。私は現在レポートラッシュで、課題研究も興味に任せて2つも取ってしまったので、その論文の作成とドキュメンタリーの作成にも追われています。また、個人的に取り組んでいる取材のプロジェクトというのもありまして…。あと、バイトも2つやっているのでもほんとに時間がないんです。

これは裏話ですが、一時期しばらくゼミに参加しなかったことがありました。(誓ってサボりではありませんが。) そしたら友人が叱ってくれました。「自分ばかりが忙しくて辛いんじゃない。みんな一緒。」って気づかせてくれました。言葉や態度にしないまでも、それぞれ抱えているものってあるんですよね。私が今まで自分事に精一杯でそれを見てこなかっただけで。

進路だってまだどうなるか分かりません。自分が何をしたいのかも分からないし。今まで自分何やってきたんだろうなって泣きたくなります。ですが、きっと乗り越えられるんだと思います。実際報告書だって形になってるし。(ほんとここまで読んでくれる人なんて少数だと思うので安心して思いの丈をつづっております。先生だって見てないですよ、ここまで。未来の自分が見たら恥ずかしいだろうなあ。苦笑) 自分の分担箇所仕上げられたのは私にとって大きな自信になりました。だって今までろくに勉強してこなくて、レポートだっていつも適当だったんですもん。5000字なんてかけると思いませんでした。

字数過ぎたので、そろそろ失礼します。結論としてはえっと、あきらめずに夢をみること、小さなハードルをこつこつ乗り越えていくことができれば、私は何かを成し遂げることができると思います。なのでがんばります。中台の皆さんもがんばってください。大好きです。

3年 中山 拓大

今回私たちは、集落復興支援事業に参加し、湯川村の中台集落をサポートする形で調査を行ってきた。最初に中台集落にお邪魔したのは予備調査の時であったが、その時に私が持った印象は、地域資源がたくさんある集落だということだった。米や自然景観など、すぐに見える範囲でも多くの地域資源があり、中台集落に非常に興味が湧いた。そして、本調査では実際に聞き取り調査をして、集落の多くの方々と関わる中で私は感じるがあった。それは集落の人の温かさである。聞き取り調査で私たち大学生が訪問するとなると、正直、迷惑だと感じる人もいるのではないかと思っていた。しかし、誰もが温かく迎え入れてくれて、いろいろな話をしてくださり、非常に親切だと思った。また、この人の親切さは私たちに対してだけでなく、集落の人の間でも共通していた。調査の際、お邪魔させていただいた家の中には、おばあちゃんが遊びに来ていて、とても楽しそうにしている所も見ることができ、このような人のつながりは中台集落の人の人柄からできているものだった。そして、この中台集落に見られる深いつながりも、この地域の非常に大切なものであり、これからも無くてはならないものだった。

本調査後も私たちは、収穫祭に参加させていただいたり、調査したことについて発表をしたりと、長期間にわたって中台集落の調査を行ってきた。これほど長期にわたって調査をし、その地域について考えたことは私にとって初めてのことであった。短期の調査では分からないことが、長期間調査することで見えてくることもあり、非常に良い経験ができた。長期間の調査をすることで、集落の良い部分だけでなく、集落の住民が不安に思う点も把握できた。根本的な問題は、高齢化によるものであるように感じたが、中台集落にはそれをカバーできるだけのプラスの面があるように私は感じた。中台集落の深いつながりによって助け合うこともでき、不安も解消されることがあるように思った。人とのつながりが希薄になってきている都市で暮らす人々にとっては、中台集落のようなコミュニティは魅力的だと感じることも考えられる。このように考えれば、中台集落は素晴らしい集落であり、今以上に活気のある集落になることができるのではないだろうか。

中台集落の調査を通して、以上のように私は感じた。今回の中台集落の調査はこれで終わったが、今後も何らかの形で中台集落に関わりたいと思った。

3年 野口 奈央子

これは中台集落の事前調査のときに話したことだが、私にとって湯川村は「お米とソフトボールの村」だった。地元・会津若松のお隣で、お米が美味しく、中学校の部活の試合で使わせてもらったグラウンドがある場所という認識だった。あるいは車ですぐ通り過ぎてしまう村でしかなかった。

そんな湯川村の中台集落に実際入ってみて、自分の知らない湯川が次々に顔を見せてきた。あのサービス精神はぜひ見習いたいと思ったし、何よりご近所付き合いの本来あるべ

き姿を見た気がした。お年寄りのみの世帯を民生委員が定期的に回るだとか、今日はだれが見に行く当番だとかわざわざ決めなくても、しばらく顔が見えないときは自宅を訪問することが当たり前に行われている。これこそ現代の大きな問題である孤独死解決の糸口ではないだろうか。また、収穫祭にお邪魔した際、自分の家の子どもでなくても遊んであげている光景が集落というよりもひとつの家族のように見えた。地域が子どもを育てている地縁の文化が中台集落にはまだ息づいているのだなという印象を受けた。自分の子どもを育てるなら中台集落のような環境で育てたいと思った。

来年度も引き続き中台集落に携わることができるので、私たちの活動が少しでも中台集落の方々に還元できればいいと思う。プレゼン、報告書お疲れ様でした。

3年 星 浩太

以前から過疎中山間地域に興味を持ち、今回こうして実際にその土地に入って調査をする事が出来ましたが、実に有意義な時間を過ごす事が出来ました。これまで福島県内で他に過疎中山間地域に入った経験とえば、親戚が暮らす田島町（現南会津町）や福島市内の飯坂町がありましたが、いずれもその日限りの滞在であり、また住民の方々からの声を聞くという機会もありませんでした。そのため、今回の機会は非常に貴重なものであったと言えます。

私が 2012 年度に実際に湯川村に伺ったのは 3 回、その最初は 6 月 29 日の集落予備調査でした。これまで所属したゼミでもフィールドワークの経験がありましたが、役場の方や住民の方を交えた、深い調査は無かったため新鮮でした。空き家の所有者である岩沢さんは、私達岩崎ゼミの大勢の訪問にもかかわらず、非常に親身にお話や蔵の案内をしてくださって感謝しています。この予備調査での経験が、この先の本調査に向けての大きなモチベーションとなりました。

8 月 19 日から 21 日の 3 日間に渡って行われた集落本調査は、今度は少人数で集落の住民の方に聞き取り調査を行うため大変緊張しながら臨みました。しかし聞き取り調査に協力していただいた方々は私達の質問に親身に回答していただき、さらには集落の美味しい野菜や料理を振る舞っていただき、非常に申し訳なく感じると同時に嬉しくもありました。あまりにも行く先々で食べ物をいただいたので、2 日目の夜の親睦会において感想を求められた際にそのことを話したところ、想いのほか周りからの受けがよかったので記憶に印象深く残っています。

聞き取り調査で最も印象に残ったのは、私の班が初日に伺った片桐正信さんのお宅でした。片桐さんはかつて多くの弟子を抱える書道家だったそうで、庭に建てられた石碑から、その素晴らしさがうかがえました。93 歳という高齢ながら意思のしっかりとした方で、またそれだけ長く生きてきた分、長年過ごしてきた中台集落のこれまでと現状について深く

語っていただきました。非常に充実した 3 日間でしたが、個人的な反省点としては聞き取り調査等で積極性が足りなかった事です。今回に限らずこれは私の前々からの欠点であるため、必ず改めたいと思います。

昨年の活動で最後に湯川村へ訪れたのは、11 月 22 日に行われた湯川村活性化フォーラムへの参加でした。私は予定では特に発表の役割を任されていなかったのですが、他の人の都合がつかなくなり、急遽担当を任されることとなりました。いつ任されてもいのように心構えをしていたつもりでしたが、いざ会場の前に立つと、当初の想像以上に集まった住民の方々の大きな期待感に気押されそうでありました。ほぼぶっつけ本番でありましたが、まずは無事に終える事が出来て安心しました。

3年 村田 莉華

今回、中台集落に三日間滞在し、調査を行わせていただいたことがとても勉強になりました。地元学において、私たちには第三者の目線で住民にはあってあたりまえの「宝物」を見つけることが求められています。実際に中台集落に入らせていただくと「宝物」がたくさん見つかりました。もちろん目に見えるような伝統料理や行事、建築物もそうですが、それぞれの人も宝物に感じました。ほうき作りの名人であったり、私が話を聞かせていただいた人の中には戦争中の経験から今では考えられないような強い気持ちを持っている人もいました。私たちにいただいたメッセージは今でも心に残っています。今回の調査では、そういった宝物を実際にみつけていく過程で中台集落の良さを実感できたこと。それを踏まえての提案が出来たことが良い経験になりました。

4年 斎藤 知秋

私は就職活動や卒業研究などがあって、実際に湯川村に行けたのは予備調査の日と集落調査の 1 日目だけでしたが、これらの機会を通し、考えさせられたことはたくさんありました。

ヒアリング調査でお邪魔させていただいたお家では、ブルーベリー入りのパウンドケーキをいただきました。ご自分の畑で育てたブルーベリーだそうです。作物を育て、実がなったばかりの新鮮なものを自分で調理して食べる。私も、実家暮らしをしていた頃は普通に行っていたことです。毎日の水やりの際、野菜の少しずつ成長する姿を見て楽しんでいた自分を思い出しました。現在のアパート暮らしでは、当然のことながら庭は無く、ベランダも狭くて日当たりも悪いため、プランター栽培さえできません。人にもよりますが、自分で育てたものを収穫し料理して食べるということは、大きな楽しみだと思いま

す。私もこのようなことが日常的に行えるようなところに住んでみたいと感じました。しかし、若い人が引越しを考える際に最もネックとなるのは職場があるかどうかということだと思います。行政側は工場を誘致するなどして雇用創出を図っているようですが、単にお金が稼げれば良いというだけではなく、その仕事をするによって自己実現をしたいと考える人が多いのも現実です。こうした現状を考えると、人口を増やすには様々な種類の職場があるであろう会津若松市の「住みやすいベッドタウン」として若い人を呼び込むことや、「田舎暮らし」や「自給自足生活」に憧れる退職直後の世代をIターンとして呼び込むことが適しているのではないかと思います。

また、こうしたゆったりとした暮らし方だけでなく、人と人の繋がりも私にとっては魅力的でした。私の実家は平成初期に造成された新興住宅団地の中にあります。私が子どもの頃は、子どもを通して近所付き合いがあったのですが、だんだん大きくなってくると自由な時間も変わってきて同じ学年、同じクラスの友達としか遊ばなくなり、中学卒業後は会うことすらなくなったことから、近所との交流もほとんどなくなってしまいました。今でも芋煮会などの自治会行事はありますが、年々参加者が少なくなってきており、廃止の案も出てきているようです。しかし、中台集落では子どもを通してというより、個人としての付き合いが存在し、行事があればみんな集まって来るし、もしも連絡なしに来ない人がいた場合にはおそらくみんなで心配することになるだろうという、ゆるやかな繋がりが形成されていました。お互いが無関心なわけでもなく、かと言って干渉し合うわけでもなく、安心して暮らせるまちなのだと羨ましく思いました。

さらに住民の方々が、行政に頼りきりになるのではなく、自分の持っているモノやチカラをまちのために活かすことができるのであればできる限り協力したいと考えていらっしやることに驚きました。私はこれまでずっと、住民の声に耳を傾け、要望をできるだけ実現させることこそが行政の役割だと思っていました。しかし、単に住民の声を聴く機会を設け、要望を反映させることが住民参加なのではなく、住民も行政もそれぞれが持っているチカラを合わせてともにまちをつくっていくことが住民参加なのではないだろうかと中台集落の住民の方々を見ていて感じました。住民のチカラを引き出して、それをまちづくりに活かすことができたなら、まちは住民からもっと愛されるようになるのではないだろうかと思いました。本当に短い時間でしたが、ありがとうございました。

<付表>

聞き取り調査結果一覧表

○調査実施日：2012年8月19日（日）～21日（火）

○調査方法：調査員の戸別訪問による聞き取り調査

○インフォーマント：中台集落の皆さん

○調査員：行政政策学類岩崎ゼミ3年 16名

ゼミ担当教員 岩崎由美子



農業経営・経営農地の承継について		
農業を何歳まで続けたいか	5年後の営農の見通し	世代交代した時の農地の状況
① やれるまでやる、代々続いてきたので。機具がダメになったらやめるかもしれない	現在のまま	わからない
③ 来年もつくりたいが、高齢ということもあり不安である	わからない。借りてくれる人がいるかどうか。周りも70～80歳の人やっているから。昔から集落内で、持ちつ持たれつ、損得勘定はなくやってきた。その助け合いは世代を越えてぐるぐる回るもの。しかし、今は作る方も、どうしても自分本位になってしまっている。自分のことに精一杯。将来にわたっても今のような状態では、農地は強制的に売ることになるのではないかと。選択の余地はない。所有者と管理者の利益は必ずしも一致するものではないから。 ・集落営農について、3つくらいの集落でやっているが、みな高齢。20年位前からやっているところは、3人で機械を導入してやっている。広範囲でやっているが、果たして子供が継ぐかどうか。	農業委員会を通して、こちらからお願いする形だろう。もし貸すのなら集落内の人がいいが、もう精一杯。 どこも深刻な後継者不足。花を作っている家では、子供3人がお手伝いしているが。
④ 生きている限り、丈夫でいられるまで続ける。農地があるから農業をやるのであって、なければやらないだろう、楽しくはない。	未定。全面委託や貸付を考えてはいる。	わからない。息子さんはおそらく65歳ぐらいまで働くので帰っては来ないだろう。
⑤	現在のまま、あるいは、全面委託・貸付をする。今の時点ではいけない	農地を貸し付けたり、農作業委託をするだろう。若者の負担になり、土地はあるが使えない、税金だけ払うことになる。農業ができないのにあると手入れが大変。
⑥ 80歳くらいまで(動けるうちは続けたい)。農地を荒らしたくないという気持ちからしているのではなく、実がなって収穫するのが楽しいから。自分で作ったものを食べたいから(店で買ったものは新鮮でないのにおいしくない)。	現在のままである。	「やりたい」という人がいてやってくれるのが一番だが、交通の便も悪く、日帰りで通って農業をやる人はいないだろうし、機械を置くところ、トイレ、休憩所などが無いため環境が悪い。こうしたところを改善すれば、借りる人は出てくるのかもしれない。結局は、行政側でやっていくべきことだ。
⑦ やれるまで	現在のまま。やれていればいい。やれなくなったら息子へ。あとは息子の判断	未定
⑧ 元気な限り続けたい。理由は、放って荒らすわけにはいかないから。また、勤めに出ていた時から、仕事のかたわら農業に関わっていたため、身近であったから。	現在のままである。	後継者が後を継いでやるだろう。
⑨ 65歳まで。60歳で辞めてセカンドライフ楽しみたいが子供たちが一人前になるまで(30代くらいかな)はやめられない。	希望としては現在のままがいいが、きっと拡大するだろう。	自分の会社に農地を貸し付けて、そのまま継続するだろう。
⑩ 80歳くらいまで。身体が続くうちは農業を続けたい。できれば息子について欲しいが息子でなければ第三者に任せたい	現在のまま	後継者がいれば継いでもらって、そうでなければ農地貸付や委託をする。地域への恩返しとして。

農業経営・経営農地の承継について		
農業を何歳まで続けたいか	5年後の営農の見通し	世代交代した時の農地の状況
⑪ 元気なうちはずっと続けたい。昔からやっていて、作ることが楽しいから。	現在のままである。	後継者が後をついで農業をやる。(息子が定年退職)
⑫	現在のままである。(体を無理してまで拡大はしない)	わからない。経営は今の世代までで、息子たちには後はお任せ(自由)にする。
⑬ 続けられるまで続ける。	砂地(川から流れてきた砂で、果物に適している)の特性を生かした農業をやりたい。委託している人ができなくなることが不安。	貸付にする。
⑭ 85歳くらいまで。子供のころからやっていて生活の一部だから。	畑は自家で栽培、水田は委託(他の部落)。	農地を貸し付けたり、農業作業委託をするだろう (条件などは役場にすべて任せる)
⑮ 体が続く限り(80歳くらいまで)	現在のままである	農地貸付や作業委託するだろう それでもダメなら農地は売却
⑯ 動けるまでやりたい。少しでも社会に貢献したい。収穫の楽しみ、やりがいもある。	現在のままである。しかし、後継者がいなければ、貸すことも考える。	農地を貸し付けたり、農作業委託をするだろう。
⑰ 体が動くうちはやりたい。作る喜びがある。作ることが当たり前のように感じているから。	現在のままである。 75歳くらいまではやりたい。	息子が継いでくれればいいけど、農地を一生懸命手入れしてくれる人に貸したい。自分の畑はきれいにしてもらいたいの、きれいに使ってくれる人をお願いしたい。
⑱ 動けるまで!	田は大丈夫だけど、畑は・・・	
⑲ 続けない		放っておく。男手がないから。

日頃の中台集落での暮らし			
	日頃の交通手段	生活で不便なこと、困っていること	今後の生活への不安
①	自家用車	特にない	長期的に見たらたくさんあるが、その都度なるようにしかならないと考えている
②	自家用車を自分で運転している	交通の便が悪い。大根一本買うのにも車が必要なのは不便。	跡継ぎ問題に不安を感じている。昔はお見合いでもなんでもして結婚していたし、結婚しなければならないと若者たちは考えていたが、最近の若者は結婚に対して真剣に考えていない。
③	会津若松に住む長女が運転。主に行先は若松市内である。タクシーも利用するが、4000～5000円ほどかかってしまう。	<p>・交通の便が悪いこと</p> <p>S40年ごろ、自分が区長を務めていた時に、集落のそばにバスを通してもらった。20年ぐらい続いていたが、今はそれも無くなってしまった。</p> <p>国道が村の端のほうを通っているため、バスの本数は少ない。交通費の負担が大きく、移動手段がないのが不安。村内に建設中の医療センターがオープンすれば、少しではあるが、負担が軽減される。</p>	<p>・やはり後継者、若い人がいないという問題。たとえば、雪の問題。おととしに一晩で腰が埋まる程の雪が降り、落ちた雪も重なり、屋根の上まで積もってしまった。家の中が真っ暗になってしまったことがあった。役場や区長さんのおかげで何とか解決できたが、とても時間がかかった。集落の中に若い人がいれば…。</p>
④	奥さんの車	交通の便、買い物、医療施設。今後が心配、タクシーで買い物に行く、バスは利用者が少ないため走っていない。	車を運転できなくなっからの交通手段。

日頃の中台集落での暮らし			
	日頃の交通手段	生活で不便なこと、困っていること	今後の生活への不安
⑤	車 自転車 子供が高校生の時は近くの高校まで長男は自転車で、長女は車で送り迎えをしていた。こうした交通の大変さを知る経験をする事で戻ってきたくなくなる。職場もないので。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の便。車がないと動けない。 ・雪が多い。庭の雪かき。運転と雪かきができなくなればおわり。 ・農業の行事に非農家の方が参加しなければならぬ雰囲気。 ・医者がいない。 ・教育環境が非常に悪い。高校が遠すぎる。 	自立してやれるうちはいいが、自立できなくなると住めない。運転ができなくなったら大変。
⑥	自家用車(1台/1人)	特になし(県立病院もできるのだ)。	車を運転できなくなったら、どこにも行けなくなるので困る。移動販売車(生協の家庭班やヨシケイなど)が来てくれたりすれば良い。タクシーを使うことも出てくるだろうが、高すぎて困る。また、自分たちが農業を行えなくなった際の農地の管理についても不安である。
⑦	自家用車	特にはない(奥さまいわく、スーパーが近くにあればいい)	特に不安は感じていない。なるようにしかならない。
⑧	自家用車(4台ある)	交通の便は、今のところ問題なし。教育環境は、孫が高校にあがってからが心配。(バス停、駅が遠いから自転車で通うか、車で送迎か)	今後の交通手段
⑨	軽トラ含め車7台	特になし。車があるうちは大丈夫。	子供が周りにいるため大丈夫
⑩	自家用車	買い物、娯楽施設、医療施設	老老介護が大変。福祉施設はすぐに満室になってしまう。

日頃の中台集落での暮らし			
	日頃の交通手段	生活で不便なこと、困っていること	今後の生活への不安
⑪	息子が帰ってきたときに買い物してきてくれる。若松に住む娘さんに車で乗せて行ってもらう。	交通の便。病院だけでも行きつけが違うため、目的地がばらばらである。その中で、バスの利用状況もあまりよくない。マイクロバスや集合タクシーなどを予約して利用すればよいのではないか。	冬の雪かき。息子が帰ってこないときは大変であるから。
⑫		・娯楽施設。昔、村内へのイオン進出が頓挫。できていれば、人の流れが変わったかもしれない。映画を見に行くには米沢までいかなければならない。 ・働く場所 ・農地維持は大切だが、農家の現状はやはり厳しい。	
⑬	車	交通の便が悪い。近くのスーパー(塩川コープ)まで3キロ	介護:施設の余裕がないらしい。 交通:道がわかりにくい。
⑭	自家用車	車があるので特に感じない	とくにない
⑮	車	生活は車があれば大丈夫 除雪が大変	農地をどうするか。後継者がいない
⑯	自家用車、奥さんはバイク	交通の便、医療施設・・・バス停までが遠い	家庭の状態次第(介護の必要が出てくれば)
⑰	自家用車(3台) 妻→軽自動車 本人→普通車 父→軽トラック	子どもたちがいないから今は特にない。	・車の運転ができなくなった時が不安。 ・介護の問題(人数の制限) ・農地管理に関して不安はない。将来できなくなればやらなくなるだけ。
⑱		買い物	車が運転できなくなった時が不安
⑲	車	交通の便が悪い。国道に出るまで時間がかかる。目的地までバス走らない。移動に時間がかかる。	高齢化

日頃の中台集落での暮らし				
	近所の人とのつきあいの程度	中台集落の伝統芸能	郷土料理について	中台集落の好きなところ
①	行事での交流程度	百万遍	こづゆ	交通の便がいいところ、景色(鏡磐梯、田んぼのじゅうたん、かつこうとアジサイ、花火が夏場はよく見える＝高台にあるので)
②	家に足りない野菜のおすそ分けを近所の人に頂く。川さらい、無尽、農業を専門にやっているわけでないから、集落の人から畑仕事のアドバイスをもらうことがある。	百万遍念仏	こづゆ(ざくに)、ニシンの山椒漬け、饅頭の天ぷら、するめの天ぷら、ぼうたら	<ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然:風通しがいい、上昇気流のおかげでいつも青空、車で集落の外から帰ってくるときに、どんなに他で雨が降っていても集落に帰ってくるといつも青空。雨が薄い、磐梯山が富士山のように。 ・住民のあたたかさ:集落の人たちがまとまっている
③	持ちつ、持たれつ	<ul style="list-style-type: none"> ・昔、集落内で6月19日にお祭りがあった。戦後、勝常寺薬師堂のお祭りに統一され、4月28日に変更となった。その後、農作業に合わせて9月9日に変更された。しかし、少しずつ廃れていってしまった。若い人がいなければ、維持も難しい。 ・青年会長をつとめていたころ(戦後10年ほどまで)、運動会や映画上映(校庭、お宮、講堂にて)、演劇(やくざもの、特に清水の次郎長が人気)、楽団など、様々な娯楽を提供していた。見る側もやる側も楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鯉のうま煮 ・こづゆ…めでたい時はいつでも。手もかからない。 ・ニシンの酢漬け ・ぼうたら ・いかにんじん 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民のあたたかさ:世代を越えて助け合う心、都会では考えられない人情があった。困ったことがあれば、すぐにかけてくれる。そういうことが、お金でもなく、絵に描いた餅でもなく、当たり前のようにあった。
④	あまり出歩かないのであいさつ程度。人が亡くなったら手伝いに行く。	勝常寺のお祭り、あまり参加しない	こづゆ(めでたい時や法事などで出された。里芋、貝柱、ニンジンなどを入れて作る。作らなくても買える)	<ul style="list-style-type: none"> ・嫁に来たからいるだけ。静かなところがいい。昔はたくさん蛍が見られたが、農薬などによって少なくなってしまった。

日頃の中台集落での暮らし				
	近所の人とのつきあいの程度	中台集落の伝統芸能	郷土料理について	中台集落の好きなところ
⑤	必要があれば。職業や年齢が違うからお茶のみにいたりしない。あいさつ程度	百万遍(それぞれ重箱を持ち込んでやる、中身は何でも)勝常寺だと小学生巻き込んだ行事 8月30日におこもりという行事→収穫が無事にできるようにというお祈り	会津のこづゆは家庭ごとにいろいろな具がある。お彼岸や結婚式で出す	・住民があたたかい:人が煩わしいわけではなく、負担が大変。 ・磐梯山:磐梯山を見ると天気がわかる。村の中でも端っこだと全部が見渡せる。 ・花火も見える→この家の近くに人が集まる ・鳥や蝉の鳴き声がすれば嵐がやむのがわかる ・ホテルが見える(川、竹藪、中学校のやぶ)
⑥	趣味で家にいないことが多いので、会ったら話す程度。定期的な行事の際にも話す。	百万遍(全員参加)、11月3日、餅・豚汁・蕎麦を食べる、天気が良い時は外でブルーシートを敷いて食事、食事ができると集会所にあるスピーカーで放送が流れる。みんなとお話できる良い機会なので参加している。出ないときは連絡する。そうしないと、みんなに心配される。	こづゆ、ニシンの山椒漬	みんな知り合いなので、ざっくばらんに付き合えるところ。飯豊山・磐梯山が見える。環境が良いところにしか来ない鳥であるカッコウが来る(ただし、最近は鳴き方が悪い)
⑦	ヨガサークルでの交流。行事ごと	百万遍 秋の収穫祭	こづゆ	交流が深い
⑧	村親戚との付き合いのほうが多い	百万遍(毎年参加)、収穫祭(25年近く続いている)…そば打ちなどできる人が集落のみんなに教える。	こづゆ…魚を入れる。各家庭ごとに違う。	若松出身なので、中台集落の自然の良さを感じた。また、中台で年に7、8回開催している飲み会は、住民同士のコミュニケーションの場になっているため、減らさないほうがいい。
⑨	困ったことがあったら助ける。例えば今まで空いてる農地を紹介したりした。(今まで紹介したのは何百人もいる。)	百万遍には参加してない。	こづゆ、鳥のたたきフライ(鶏の骨を砕いて団子にする。今は途絶えた会津に伝わる料理)	小国山がとにかく好き。

日頃の中台集落での暮らし				
	近所の人とのつきあいの程度	中台集落の伝統芸能	郷土料理について	中台集落の好きなところ
⑩	密接、毎日挨拶のやりとりがある。姿が見えないときは訪問したりする	昔は映画観賞会などがあった	こづゆ、ニシンのポータラ、鯉の旨煮	恵まれた自然 住民の暖かさ ご近所の交流
⑪	しばらく顔が見えないときは見に行ってみる。一人暮らしの家などは特に気にかける。助け合いの精神が強い。	百万遍念仏：集落のほぼ全員集まってやっている。後で行われる懇親会を、お年寄りには楽しみにしている。 収穫祭：餅とそばは絶対食べる。これはめでたい時に作るもの。	こづゆ にしんの山椒漬け ぼうたら	住民のあたたかさ：人間が穏やか。昔はお酒を飲むと取っ組み合いになる人もいたが、まとまっていっていい部落である。
⑫			天ぶら饅頭、ニシンの山椒漬け、こづゆ	生活がしやすい。生まれてよかった。
⑬	たまに野菜を譲る程度。	百万遍、村民運動会	こづゆ、にしん	静かな雰囲気、平和なところ
⑭	困った時に助け合う程度	百万遍、収穫祭	こづゆ、にしんの山椒漬け(山椒の木がある)	お米がおいしい (自然がありすぎる)
⑮	毎日あったら野菜交換する 祖父母の代はお茶をしていたらしい	百万遍 おこもり 収穫祭	こづゆ ざくざく	恵まれた自然
⑯	あったら話す、話しかける。畑に行けば会う。わざわざお茶を飲みに行くほどでもない。	百万遍、収穫祭、火の神様に火事がないことを祈願(古峯神社) 行事に参加するのは楽しみであり、時間があれば行きたい。昔は農事組合でみなで一緒に研修旅行などに行っていたが、今は同世代の人や仲のいい人で行くことが多い。(皆で、というのはなくなった)	こづゆ、にしんのさんしょう漬け	住民のあたたかさ・・・みんな輪をとっている、人のあたたかさがある(時代や教育によって変わっていくけれど)
⑰	仕事をしているため、会う回数は年2、3回程度 本人の代くらいで伊勢参りは終わり	百万遍 秋の収穫祭 会社に勤めていると時間がとられるため参加が難しい(行事全般に関して)	こづゆ、ぜんまい煮、セロリ漬け、さんしょうづけ。人が集まる機会に出す	のどか、静かなところ けんかがない、やかましい人がいない。部落がまとまっている →規約があるため。新年会で決めている。昔はもっと細かった。

日頃の中台集落での暮らし				
	近所の人とのつきあいの程度	中台集落の伝統芸能	郷土料理について	中台集落の好きなところ
⑱	お互いに食べ物をあげたりする。昔よりは遠のいた気がするが。	百万遍、二百十日(雑談して終わる)		静かな雰囲気。激しい人がいなく、穏やか。
⑲	母が主。観音講や老人会に所属	二百十日のおこもり	こづゆ、にしん、えご(海草を煮詰めて酢味にして食べる。羊羹のようなもの)	おだやか、人柄がいい

集落の役割と課題				
	集落の共同作業について	集落の地域行事やサークル活動について	中台集落の問題点、今後取り組むべきこと	今後の居住意向
①	正月、春会議、さいのかみ、春の水路工事 春、百万遍、道ぶしん夏、水路掃除、二百十日のおこもり、村民運動会、収穫祭 年末、総会	ヨガクラブ、観音講、子供会(ラジオ体操、七夕、クリスマス、親子遠足会) 村ではよさこい、生け花、お茶	高齢化による後継者不足。農業自体の問題	今後も住み続ける
②	年三回の江払いには積極的に参加している	老人クラブに誘われるけど、お店が忙しく、なかなか参加できない。仕事を辞めたら隣のおじいちゃんとゆっくりお茶のみがしたい。	近所の子供に注意できなくなった。集落の問題というよりは時代のせい。	今後も住みつづけたい
③	参加するのは当然のことであるが、さすがに90歳を迎えてからは、免除してもらっている。	これまでは積極的に参加してきたが、今は歩くのが不自由になったため、参加していない。	・願いはあるが、現状に合わず難しい。やはり人手が足りない。 ・句「俄百姓 学問として草むしり」 草むしりを協力してくれるだけでも、大変な力になるし、それが学問にもなる。	今後も住み続けたい。死ぬまで出る気はない
④	部落で年に何回か。1件から1人参加する。勝常寺の百万遍など集落の行事にも出る。	ゲートボールは比較的若い男性がやっている。自分自身は参加していない。	バスは利用者が少なく続かなかった。冬は雪が多く雪払いなどが大変である。	今後も住み続けるだろう。

集落の役割と課題			
集落の共同作業について	集落の地域行事やサークル活動について	中台集落の問題点、今後取り組むべきこと	今後の居住意向
⑤ <p>・川ざらいをやっている。農業をやっていないのに農家の仕事をみんなでやるのは面倒。農家でない人は平日働いて、土日にこうした作業があるのは厳しい。 ・仕事をしていない時には参加しておらず、出不足金を払っていたが、退職した後は参加。 出不足金については、「お金で済むことではない。共同でやることに意味がある」という人もいる。どんな人も自分の所属している世界しかみえていない。</p>	<p>参加していない ソフトボール大会などがある。子供たちは小学校ごとに。</p>	<p>・湯川村の財政の問題 どう発展させていくかがトップ層にあるか。 コメだけではやっていけない。農業だけでやっていくなら農業人口を増やすこと。 ・高速道路 ・イオンの誘致の問題</p>	
⑥ <p>水路・側溝の清掃(春・夏、1人／1世帯参加必須、参加しないと積立金から日当分引かれる。負担には感じていないが高齢者が出られなくなってきている)、ゴミ拾い・草刈(春先3回)</p>	<p>・妻がヨガサークルに参加。月2回、やっている人の話を聞いて参加。メンバーは以前は6人だったが現在は4人。</p>	<p>車を運転できなくなったらどうになってしまうのか。農地を管理できなくなったらどうになってしまうのか。どんな政策を行ってくれるのか明らかにしてほしい。</p>	<p>今後も住み続けたい。ただし、片方が動けなくなったりしたら、家の管理も大変だし、近所にも迷惑がかかるので施設に入るために引越すかもしれない。</p>
⑦ <p>共同作業は時間にして1時間から2時間程度なので、負担ではない。皆時間通りに来る。</p>	<p>サークルに奥さまが参加している。おしゃべりでもいい</p>	<p>後継者問題や若者の減少。なるようになる</p>	
⑧ <p>水路掃除(年2回)、農道の砂利敷き、排水路掃除、8月の道路愛護月間に道路の草刈など。高齢の方以外は参加する。出不足金あり。参加者は男性が多い。文句を言う人はいない。</p>	<p>本人は、グランドゴルフのクラブに参加。奥さんは、短歌の会とボランティアで読み聞かせ(公民館経由で幼稚園、小学校、月に1,2回ユースピアで読み聞かせ)。</p>	<p>冬の除雪</p>	<p>今後も住み続けたい</p>
⑨ <p>道普請はじめ、みんな参加しなくてはならないため、だいたい参加している。</p>	<p>収穫祭など。だいたい参加している。</p>	<p>他の人からみれば問題だと思うことでも自分には問題に思えないことがある。難しいと思う。</p>	<p>画家だった父の別荘が田島にあるので、別荘を歩き来して暮らしたい。墓参りが3箇所あり大変。</p>

集落の役割と課題				
	集落の共同作業について	集落の地域行事やサークル活動について	中台集落の問題点、今後取り組むべきこと	今後の居住意向
⑩	参加率100%	ビッグフェアなど。めずらしいものでないと売れない	高齢化が進んでいる。60歳過ぎてから田んぼは広げられない。夏の草取りが大変。	今後も住み続ける
⑪	水路掃除:米作りには大切な作業であり、ほとんどの人が参加しているため、今後も維持できると思う。大きな水路をみんなで、個人の水路は個人である。	おかのこクラブ:3人 ヨガクラブ:4人 同じ年代のグループで、年1回旅行したりしている。	個人の家に車が何台もあるから、乗り合いタクシーのようなものがあつた方が助かると思う。(バスは朝夕に高校生が乗るくらいだから)	今後も住み続けたいと思う。
⑫			年を取った人が集まっても、決まりきった答えしか出てこない。	
⑬	役員の仕事を負担に感じる。自分の田んぼは地区の外のあつのに役員だから地区の水路の掃除に参加しなければならない。	参加なし。今度から参加しようと思つてる。	高齢化	今後も住み続けたい。
⑭	ほぼ毎回参加している(年7~8回)(一回朝5時から4時間ほど)出不足金一日6,000円で出席した人に時間で割って配分。	老人クラブ(体力測定、フロアカーリング、グラウンドゴルフ、交通安全教室など) 11月3日収穫祭	冬の除雪作業	今後も住み続けたい。
⑮	大江払い(水路掃除) ゴミ拾い 道路愛護 草刈り	老人クラブ 観音こうヨガ	若者がいない 職場がない 空き家は危険!	
⑯	環境整備、草刈、用水路掃除、缶拾い...老人クラブで参加。前向きに参加している。面倒ではない。	奥さんが琴をやっている。老人クラブでは行事がたくさんあるが、忙しいからいけない。	仕事がないから子供が出ていく。	今後も住み続けたい。しかし、生まれ変わったらわからない。時代の流れもあるから。

集落の役割と課題				
	集落の共同作業について	集落の地域行事やサークル活動について	中台集落の問題点、今後取り組むべきこと	今後の居住意向
①7	<p>全員参加している(各世帯から一人ずつ)。負担には感じていない。高齢者は危ないので出なくてもいいように規約で変更されている。今後、共同作業を維持するのは難しいかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部落主催の行事は参加している。名前が嫌なため、老人クラブには入っていない。 ・運動会と収穫祭に、関係のある人々も呼べるようになるとうい。 ・昔は公民館主催で昔は色々な活動をやってきた。花火、カラオケ、花見、盆踊りなど。年配になり徐々にやらなくなった。昔は行事を通して地域の子も達を知った。 	<p>過疎化、高齢化。限界集落に近い感じ。子供がいるのは4世帯くらいしかない。 職場がない。これから人を呼び込んでいきたい。 集落機能を維持していくことが大変。 娘の子(孫)は田舎暮らしをしてみたいという。小学校に入ったら夏休みを利用して集落の生活を体験させたい。</p>	<p>住まなきゃいけない(義務感)。仏様、畑、家を守っていかなければならない。ここに住んでいるため、「ここが一番である。息子、娘の所にいると実感した。自分一人になったら転居するかどうかわからない。</p>
①9	<p>できる範囲でやる。休みを取らなければならぬので急な集まりは参加できない。</p>	<p>落ち着いてから。</p>	<p>雇用がない、職場がない。交通の便が悪い。</p>	<p>特に考えてない。</p>

	集落の活性化について 道の駅構想について	空き家や蔵の活用について	Iターンについて
①	成功してほしい。楽しみ、期待している。今の生活で手一杯なのでお客さんとしていきたい。	無理だと思う。駐車場がないから人が来るか不安	うれしい。空家が増えるより家に明かりがついていたほうがうれしい。Iターンしてきた人には村の行事には参加してほしい
②			新しく来る人には、自分と同じように、集落に骨を埋めるつもりで移住してほしい。
③			・大いに歓迎。溶け込むのに時間がかかるとは思いますが…。努めて集落の行事に慣れてもらうことが大事。そのあとの懇談会で仲良くなるし。強制ということではなく、お互いで受け入れていく。 ・集落内の市民農園について やはり今は買った方が楽だし、安いから、あまりやろうとする人もいないのではないだろうか。
④	体がついていかないこともありかわらうとは思わない。(道の駅で集落が元気になるような)期待はあまりしていない。	わからない。自宅の蔵は小さいので貸すようなものではない。地震によって壁が崩れてしまっている。	若い人が集落に入ってくることはいいことだと思う(集落には若い人が少ないので)。このままでは集落がさびれてしまう。
⑤	・よくわからない建物。人口増は見込めないし、不便な所に立っていて発展が見込めない。 ・自分自身は買い物は若松だが、道の駅ができれば生鮮食品は買いに行くかも ・会津の中心にあって、磐梯山もあって景色がきれいだけど不便。新しい道路が必要 。道の駅が川の下にあって決壊が心配。	通り沿いがないからレストランなどにするのは大変ではないか 宅地が広すぎて草むしりだけでも大変 家の中の仏壇などが置いたままだと借りにくいし、貸したくない 体験学習などについては、体験するのはいいが、後始末、講師の問題	「どんどん人が入ってきて、考え方が変わるから」不安に思わない
⑥	意見を言う場があったが、住民の意見に対して役所側からの返答がない。「こういうものができます。どう思いますか」というように、既に計画がかなり進行してから住民の意見を形式的に聞いても全く意味がなく、このようなやり方は直したほうが良い。村長との対話というのも年に数回あるが、義務的に行われているような感じが出した意見も村長止まりになっているような印象を受けている。	超短期の場合は、目的を明らかにしてほしいし、役場を通してのほうがいい。会津美里町で殺人事件もあったので物騒に思う気持ちもある。「どんな人が来たんだ？」とじろじろ見るようなことはない。	特に何も思わない。実際、昨年新しく越してきた人も集まりに出ているので良いと思う。

集落の活性化について			
	道の駅構想について	空き家や蔵の活用について	Iターンについて
⑦	細かい売り方をしたことがないので、直売所で売ることあまり考えていない。	大賛成。若い人の柔軟な発想に期待	うれしい。
⑧	最初はお客さんが来ると思うが、結果的に赤字になるのではないかと不安。(ドライブに来た人が米や魚を買うのかという心配)	物置	特に不安はない。空き家があれば新規参入が増えてくれればいいと思う。今度中台に来る人とは交流がある。
⑨	いいんじゃないかと思う。ビジョンがはっきりしていないという人もいるが、自分は最初からビジョンがはっきりしている事業なんてないと思う。道の駅構想にはアドバイザー的な立場に関わりたい。役場の人だけに商売やらせるのは畑違い。	知的障害者に利用してもらったらどうか。墓がある、仏壇があるとの他住民の声には「売るなら全部売る。それが当たり前。もしくは貸し出しという形にして、条件付けて貸し出しすれば？」	Iターンには、抵抗も不安もなし。
⑩	湯川と坂下のかけはしみそ米粉のシフォンケーキなどが有名だが、米なども出していきたい イベント、ミニライブがしたい 人を引き付けるような特色のあるもの 温泉施設など 子供が集まる場所	有効利用したい。	うれしい
⑪	若い人がやった方がいいと思う。自分では農作物をあまり出したいくない。名前が出てしまうのが嫌だ。	料理教室とかがあったらやってみたいと思う。もし、やるとなれば協力したい。	あまり不安には思わない。
⑫	箱モノ行政は本腰を入れてやらないと成功しない。直売所での販売も大変。(だんだんと売れる人が決まってしまうし、若い人が直売に対応できるかどうか。また高齢化が進んで馬力はない。)	誰が入ってきてもいいが、慣習的なルールは守れる人に入ってほしい。お年寄りの集まれるサロンがあれば。	入ってくることはOK。しかしみんなで決めたこと、中台の約束事は守ってほしい。 農業主体の村なので、用水路の掃除など、そういった事に参加してほしい。
⑬	多少は売ってみたいと思うけど運営が大変だと思う。赤字になるのでは。頑張してほしい。	参加はしなくていい。	外からあまり入ってきてほしくない。どういう人が来るかわからない、うまくいくかわからないから。

集落の活性化について			
	道の駅構想について	空き家や蔵の活用について	Iターンについて
⑭	あまり期待していない。自分は農産物の販売もするつもりはない。	農家の家は施設に利用するならリフォームが必要なので、難しいのではないか。	入ってくるのはいいけど不便なのであまり入ってこないのではないか。やりたいことがあれば自分の畑を使ってもらってもいい。
⑮	反対。売るものがない(米を売ってもだれが買うんだ？ 野菜は大変で作る人が少ない) 財源的に自立しなきゃダメ 行政にビジョンがない	定住率50%程度…除雪などの負担が大きい 空き家は維持にお金がかかり、誰も住んでいないと傷んで危険。	大歓迎
⑯	距離が遠い。参加はしたいが、運搬が大変だろう。防災の役割には期待している。	介護施設という案。商売は難しいのではないか。いろんな体験をしてもらえればいい。	抵抗はない。新しい人が入ってきた情報は近所から入ってくる。ただし、挨拶に来ないと警戒する。
⑰	・国が補助して自発的につくっているが、村が必要としていない。 ・湯川の特産品はない。世間がやろうとしていないことをやろうとしているので難しいだろう。 ・あまり野菜を出そうとは思わない。言われれば考えるが生産量の問題もある。	・宿泊するだけなら難しい→湯川は中途半端に山村(色々な場所に接しているので便利な場所) ・自宅の蔵はいらない(壊したいがお金がかかる)	人による。不安はないが、自分から声をかけるなどして交流はしていきたい。
⑱	余る野菜を出せれば。工作、ほうきなども。		ありがたい
⑲	いいものがあれば利用する。	小学生が来てくれてもいい。	歓迎する。子供の声が聞こえてきたらうれしい。

集落の活性化について	
集落で将来まで守っていききたいもの	その他自由意見
① 今の生活を継続していきたい	今の生活で手一杯でいろいろ考える
②	<ul style="list-style-type: none"> ・放射能問題について:農家は黙っているけれどとても心配。はっきりさせてほしい。農業問題が解決しないと自分たちもよくなるらない。 ・若者に対して:人生の先輩のいうことはちゃんと聞きなさい
③ 昔からの助け合う“結いの気持ち”を守ってほしい。実際は自分の事で精一杯で難しいが。	<ul style="list-style-type: none"> ・福島師範学校の卒業(S14年卒)。卒業後、勝常尋常高等小学校の教師になるも、S16～21年まで戦争により、中国の第一線で第13師団通信隊に配属。終戦後、帰国するが、教師を辞め家の農業を継いだ。 ・昔、教師をしていたということで、習字の指導を行ってほしいとのお願いがあり、その指導を始めた。85歳まで指導していたが、その後教え子により筆塚を贈られる。「書を以て心の糧とすべし」 ・デイサービスセンターには、口を出せば家族へのやつあたりになってしまうために、一切口を出さないという方もいる。センターでは、唄を歌って楽しんでいるとのこと。 ・この年になると、さとりの中にいるようなものだ。
④ 百万遍は残るだろう。	自分のことで精いっぱい考えたこともない。
⑤ 人と人との関係 「みんな気持ちのいい人ばかり」 トラブルを防いで「いかに協力的に生きるかをかんがえなくてはならない」 自分の主張は通そうとしても通せない	<ul style="list-style-type: none"> ・今のことだけではなく、20年後、30年後見てどうなのかということを行行政に考えてもらいたい ・ただし、湯川の役場のいいところとして、動きがはやい(ただお金がない)
⑥ 身の周りの自然、人付き合い。	人を大切に育てることが大切。湯川に住みたいと思えるようにしたい。人口問題があり、具体的にどうすれば良いのかと考えてもアイデアが湧かないが、人が増えれば環境は良くなるはず(江戸時代は60世帯くらいあった)。自分も貢献できることがあるならば、積極的に貢献していきたい。現状維持+αがほしい。
⑦ 人との交流。結いが復活してほしい。人間らしい気持ち(お互い思いやりで)	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人に戻ってきてほしい。 ・自分の力を信じて生き抜けば壁にぶつかっても大丈夫！乗り越えていける！ ・若者への言葉→私は力だ。力の結晶だ。何者にも打ち勝つ力の結晶だ。挫折を如何に乗り越えるか。何者にも負けないのだ。
⑧ 昔からいるとわからない	農道の舗装など、行政でやってほしい

集落の活性化について		
	集落で将来まで守っていききたいもの	その他自由意見
⑨	現状維持で構わない。地域でお世話しあう関係は残していきたい。	<p>・道普請はじめ行政は色々な行事をやらうとするが、そのたびに駆り出されるのはつらい。今一番ほしいものは「ゆっくり休める時間」、自分の母が介護が必要になった時に即入れられるような施設がほしい。行政がどうことをしているのかわからない。仕事に専念できない。行事への参加はかなり負担になる場合がある。自分たちの仕事に専念できる環境があることが理想。</p> <p>・学生へのメッセージ:「いったい何が活性化なのか」学生さんには考えてほしい。そのうえで提案はどんどんしてほしい。</p> <p>・30年前に妻と二人で野菜の苗づくりからスタート。土地は村会議員の人から譲り受けた。現在では新潟に2社、郡山に1社、埼玉に1社。デルモンテのトマトケチャップ用のトマト苗を出荷している。取引先の種屋さんとは30年来の付き合い。書類だけのやり取りはしない。一つ一つの取引先を大事に今までやってきた。「やってることは非常に泥臭いが、お客さんと一緒に伸びなきゃいけない。」</p>
⑩	地域の伝統行事 収穫祭 節々の祭りを大切にしたい	少子高齢化、雇用を拡大してほしい コールセンターなど
⑪	みんなで話をする。しゃべるのは、体のためにもいいと思うから。また、人付き合いとしても大切だと思う。	集落に子供が増えてほしいと思う。仕事がないから、若者が外に出て行ってしまうことが問題だと思う。
⑫	昔からの年間行事は世代を超えて受け継いで欲しい。	よそから人が入ってくるとよい。グリーンツーリズムで大学生が入ってきたが、若い人がいることはやはり活性化に繋がる。
⑬	「もの」ではない。人付き合いとか目に見えないもの。農業をやっているとつながりが深くなる。	何とかしなくてはならないと思うが何をしたいかわからない。村としてまとまりたい。集落だけじゃどうにもならない。
⑭	特にない	自分たちの年代と若い年代の人たちとの生活や考え方が違うので、伝えたいことといわれても難しい
⑮	伝統行事。祭りが少なくなっているから廃れさせたくない。	
⑯	墓は誰が管理するのか。行事は続いてほしい。	若い人の出入りが必要(通いでもいいから)。農業などに魅力があればいい。(採算よりも先に)若い人が2、3人でグループを作り、農業をすればよいのではないか。(1人だと大変だから)
⑰	このままでいけばよい(現状維持) 守りたいものがたくさんあるけど挙げるのが難しい。	若い人々が戻ってくればよい。人口が減っているため、若い人が戻ってくると何か特典があればよい。交通の便を活用して、分譲地を譲るのはどうか。譲る代わりに住んでもらう。
⑱	米作り、味自慢	
⑲	雰囲気。みんなの見守る眼。父親が亡くなってからは鍵をかけるようになったが、以前は家に鍵をかけなかったほど。	生活にかかわるから行政には除雪してほしい

2012年度
岩崎専門演習
中台集落調査
フォトアルバム
作成者：岩崎由美子

緊張気味の初顔合わせ



福大の大先輩です



暑さで朦朧としている



暑さのあまり



集会所で調査票の整理



暑い中お疲れ様です



ねぎ畑で



涼しい表情ですが実は暑い



ブルーベリーだ♪



ひやくまんべん体験



収穫祭のお手伝い



お手伝いします



浅漬けと美女たち



肉だ 肉だ



緊張している？



中台集落のプレゼン



おわったおわった！



プレゼンテーション資料



福島大学「地域社会連携事業」

中台集落調査報告会

2013年3月24日
福島大学行政政策学類
岩崎ゼミナール

湯川村の概要

【地理】

会津盆地の中央に位置し会津若松市、喜多方市、会津坂下町、に接している。福島県内で最も面積が小さい。

【人口】

約3600人、世帯数900世帯

【産業】

稲作を中心に、野菜、畜産などを組み合わせた
複合経営型の農業総面積の60%が水田

【文化】

勝常寺

薬師堂に収められている木造薬師如来坐像、
日光・月光菩薩立像は国宝に指定されている



画像は湯川村 公式 web サイト <http://www.vill.yuzawa.fukushima.jp/soumu/access.html> による

中台集落概要

人口80人
(男性39人・女性41人)
世帯数21世帯
高齢化率36.3%

戸数22戸中農家19戸



活動の目的

中台集落はどんな集落？
いいところはなんだろう？
これからどんなことができるか？

どんな活性化ができるか考えていきたい！

これまでの活動

日時	内容
2012年 6月29日	集落予備調査・湯川村役場訪問
2012年 8月19日～21日	集落調査
2012年 11月3日	中台集落収穫祭参加

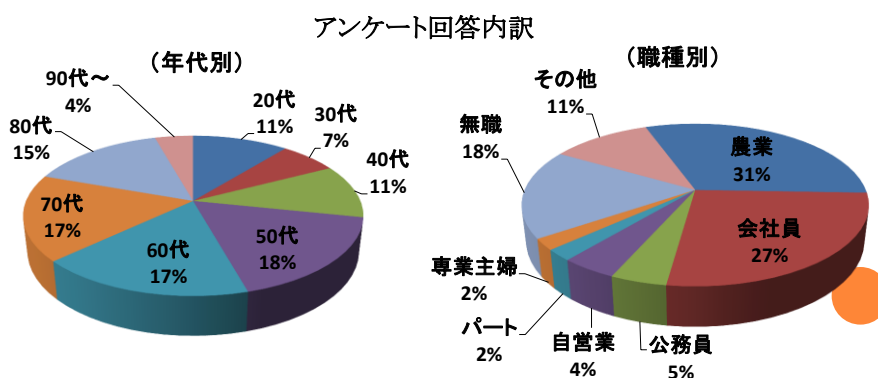


調査内容

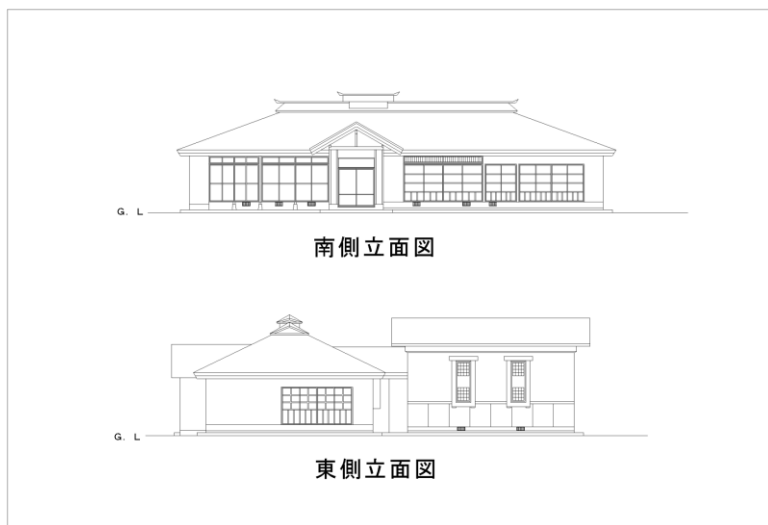
- 集落での生活・営農状況及び集落活性化に対する意識調査
 - ➡ 戸別聞き取り調査(22戸中19戸が回答)、アンケート調査(80名中46名が回答)を実施
- 集落の魅力の発見
 - ➡ 集落内のフィールドワークを元に『地域資源マップ』を作成
- 空き家や蔵の活用法の検討
 - ➡ 空き家・蔵の実測、平面・立面図を作成

○なぜ2種類の調査方法を使ったのか

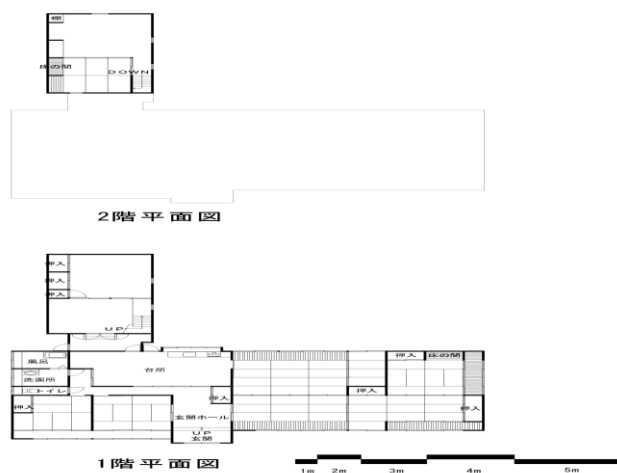
- ➡ 聞き取りだけでは生の声が聞けるものの、世帯主の方だけの意見が中心になってしまう。
- ➡ 聞き取りだけでは把握ができない若者・女性・不在の家族の方々の意向を知るため



立面图



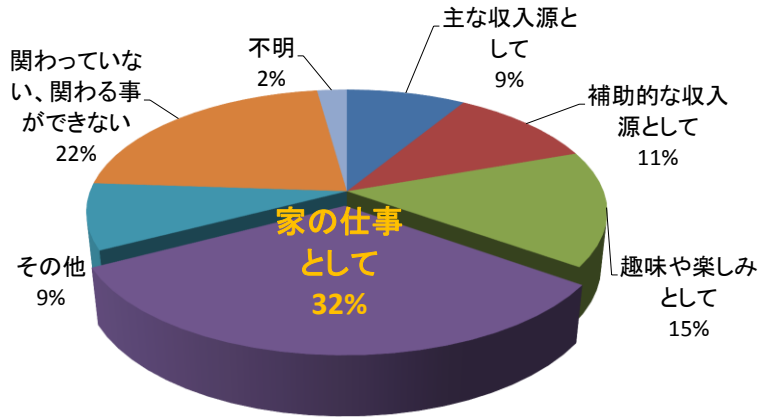
平面图



【調査結果】農業

あなたは、農業に従事していますか。また、従事されている場合、農業にはどのような姿勢で取り組んでいますか。(主なもの一つだけに○)

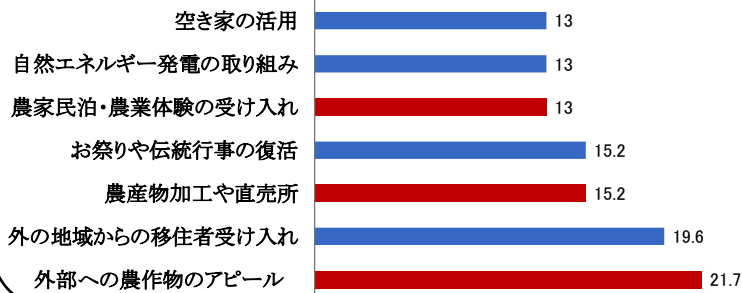
「家の仕事」と捉える人が一番多い
(全体の32%の人が回答)
→生活の一部となっているといえるのではないかな



【調査結果】農業

集落活性化のために「外部への農作物のアピール」「農産物加工や直売所」「農家民泊・農業体験」を考える人が多い。(全体の49.9%が回答)

「集落活性化のためにやりたいこと」(複数回答 単位:%)

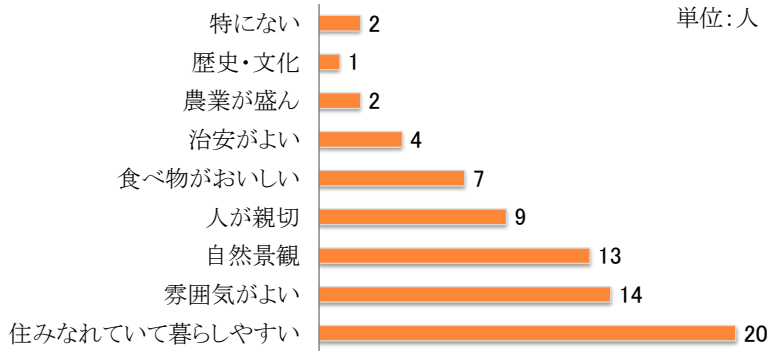


実際にそれらを頂いた私たちは、農産物に十分な魅力と強みを感じた。

→ これらの活動をする事による負担が大きくなる事が懸念されているが、実際にアピールしてみればよい結果が得られるのではないかな

【調査結果】中台の好きなおところ

中台集落の好きなおところを教えてください(二つまで○)



「集落の雰囲気がよい」「住みなれていて暮らしやすい」

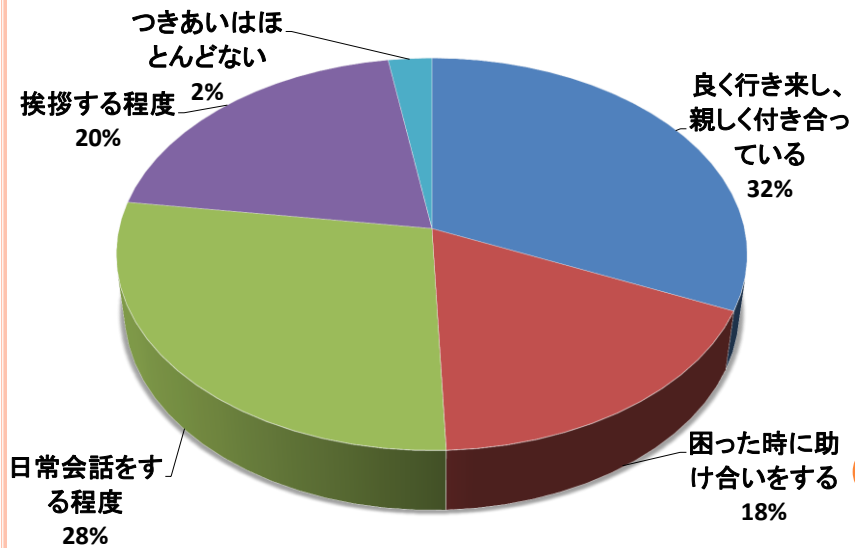
➡ 年齢の高い人(50代以上)、農業をしている人

「自然・景観」「人が親切」

➡ 年齢の低い人(20~30代)、「会社員」

【調査結果】近所との交流頻度

ご近所の方との交流の度合い(頻度)を教えてください。(主なもの一つだけに○)



【調査結果】近所との交流頻度

- アンケート結果について
多いと回答

・年齢層の高い人
・農業をしている人



- あまり多くないと回答

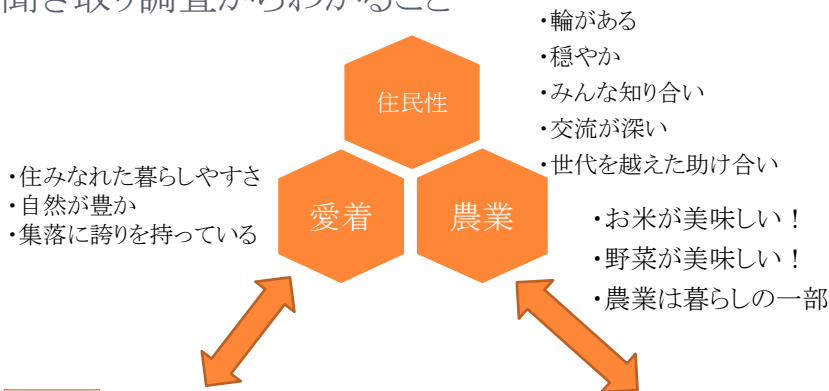
・年齢層の低い人
・「会社員」

- 聞き取り調査について

- ・「あいさつする程度」や「行事ごとに交流する」といった回答から、「野菜を度々交換する」や「密接に付き合う」という回答まで様々であったが、「交流がない」という回答は一切なかった。
- ・水路掃除など共同作業は参加率が集落の努力の結果、現在100%(各世帯から1名)
→高齢者のみの世帯では他出している家族のサポートがある
- ・百万遍、収穫祭が集落行事としてあり、多くの人が参加する。

➡ 個人差はあっても、住民同士の交流が盛んな集落であるといえるのではないだろうか

聞き取り調査からわかること



高齢化

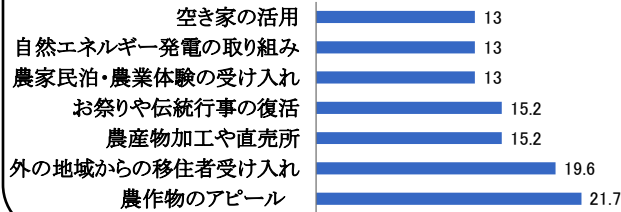
- 「一人暮らしになった時に自立した生活ができるだろうか」
- 「集落機能を維持していくことが大変」
- 「夏は草取り、冬の雪かきが大変」
- 「農地管理ができなくなったらどうしよう」
- 「60歳過ぎて田んぼを広げるのは苦勞」

交通

- 「将来、運転が出来なくなった時が心配」
- 「昔は集落のそばにバスが通っていた」(20年ぐらい続いたけれど・・・)
- 「移動販売車があればいい」
- 「乗り合いタクシーがあったらいい」

アンケート調査結果からわかること

『集落活性化のために行いたいこと』



住民が考える理想の中台像

- 高齢化しても安心した生活ができる集落
- 農作物のアピールをして農業を盛り上げたい
- Iターンの増加で耕作放棄地や空き家の解消

聞き取りからわかること

*Iターン

- 「空き家が増えるより家に明かりがついていた方が嬉しい」
- 「若い人が集落に入ってきてくれることはいいこと」
- 「抵抗も不安もないけれど決まりを守ってほしい」
- 「行事には積極的に参加してほしい」
- 「子供の声が聞こえてきたら嬉しい」
- ◎「どういう人が来るか分からないから不安」

好意的な意見が多数！

*道の駅構想

- 「成功してほしい」
- 「道の駅が出来たら買い物に行きたい」
- 「会津の中心にあって磐梯山も綺麗だけれど不便な場所なので心配」
- 「いいと思う アドバイザー的に関わりたい」
- 「湯川と坂下のかけはし」
- ◎「住民の意見をもっときいてほしい」
- ◎「若い人がやった方がいいと思う」
- ◎「農作物をだして名前が出てしまうのが嫌」

道の駅に関する情報提示が足りないのでは？
参加したい！参加できる！と思えるようなしくみを

地域資源マップ

○集会所…百万遍や収穫祭が行われる。



水路…この水路には、蛍の幼虫のエサとなるカワニナが生息している。蛍が見れる。



岩澤美和子さん宅の窓…こちらの窓からは、雄大な磐梯山を望むことができ、夏には花火を見ることもできる。



ほうき名人…こちらに住む片桐利永さんは、ほうき作りの名人である。「第10回全国編み組工芸品展」で奨励賞を受賞した。



片桐健一さんの畑と倉庫…農作業体験をさせていただいた。また、片桐さんのお宅の倉庫では木製の農具もを見せて頂いた。



筆塚…書道の先生であった片桐正伸さんへの感謝の印として、教え子たちが建立した塚。実際に片桐正伸さんのお話もきかせていただいた。



春日神社…400年ほど前に集落が誕生すると同時に設立した。



岩澤マツさんの蔵…活用法を考えている蔵。岩澤邸には立派な絵が描かれたふすまが保存されていた。



収穫祭①…もちつきとそば打ちが毎年恒例で行われる。



収穫祭②…にぎやかな収穫祭の様子。片桐利永さんの手作りのかかしが、私たちを歓迎してくれた。



写真家…磐梯山などの自然を写真に撮っている岩澤正平さん。「尾瀬」という山歩きガイドを出版している。



岩沢秀一さん宅の漆器…会津若松城で官軍から持ち出したと言われている、歴史ある漆器。



中台集落の今



たくさんの人との関わり合い、つながりがあるから
集落での生活を維持していける



←収穫祭には集落中の人が集まる

これから先はこのような不安も…

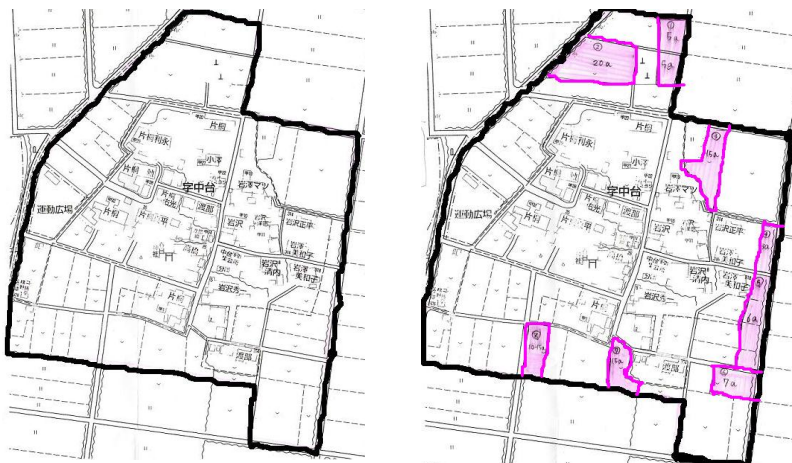
- これまでは集落の「つながり」で維持できていた
集落内の親戚の稲刈り
畑や田んぼの作業委託
車の運転・送迎
など

維持できなくなってしまうかもしれない…

- 実際に耕作放棄地も増えている…

耕作放棄地について①

本調査最終日に片桐区長と調査を実施したところ、
86~91アールの耕作放棄地を確認



これ以外にも、農作業できない人の畑の管理を片桐区長が引き受けている現状がある。

耕作放棄地について②

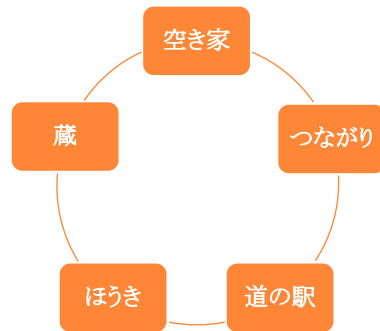
- 更に聞き取り調査からは以下の様なことが聞かれた。
 - ・子供がいないので、継ぐ見通しはない。
 - ・家は継いで欲しいが、農業を継ぐ、帰って来る見通し無し。
 - ・来年も作りたいが、高齢ということもあり不安である。
- Etc...
- 高齢化や後継者問題などの影響で、耕作放棄地問題は徐々に深刻になりつつあると言えるのではないかと。

これからの中台集落のためにできること

「強み」=魅力



「弱み」=不安



集落の抱える「弱み」=不安 を「強み」=魅力と掛け合わせて・・・

① 空き家×耕作放棄地×Iターン・農家民泊

「田舎でのんびり暮らしてみたい！」
「自分で作った野菜・お米で料理したい！ 食べたい！」
「第二の故郷がほしい！」

でも・・・すぐに移住するのはちょっと不安！
どんな集落なんだろう？

○空き家を農業体験・田舎暮らし体験に来た人たちの拠点に
まずは「プレ移住」をしてもらい、徐々に「移住」へとつなげていく！
・・・実際に埼玉県からの移住者あり！！

○プレ移住者は耕作放棄地を耕し、自分の畑へと変えていく
集落住民はアドバイザーとして、農業を教える

空き家や蔵での体験交流 茨城県・荒蒔邸を例として

茨城県にある荒蒔邸(あらまきてい)では、空き家となった農家民家を借り受け、会員制の貸別荘形式での運営

基本的には利用者が自炊
希望があればそば打ち体験や、わら細工体験

会員制なのでリピーターが多い
定住化にもつながる可能性がある



画像 NPO法人遊楽 <http://www.yuu-group.co.jp/kominka/> による

参考 空き家活用事例について

<http://www.mlit.go.jp/singikai/kokudosin/keikaku/lifestyle/9/06.pdf>



こうしたことが中台集落の独自の特色をだしつつできないか？

- ・空き家・蔵を用いた宿泊施設
- ・そば打ち体験、ほうきづくり体験、もちつき体験、農作業体験、収穫祭等の地域行事への参加
- ・集落の方々と一緒に体験するスペースとして



中台にはたくさんいいものがある



②高齡化×空き家×集落のつながり

事例:宮城県宮崎町「食の文化祭」
町から持ち出せない美味しいものがどれだけあるだろう?
町内の人々に呼びかけ、各家庭の「家庭の味」を出品、展覧

中台でもできないだろうか・・・?

○我が家の自慢の一品を一堂に集めて展示、みんなで一緒に食べることで
新たなコミュニケーションの場に!

集落にある
美味しさを見つめ直す

○集落でとれるお米・野菜を使って新しい「中台の味」を作ってみる
—例えば米粉パン、米粉スイーツ、お漬物

新たな美味しさの
発見

○お嫁さんや、集落の外に出た若い女性が集落の味を受け継ぐ場に!

③道の駅×農業×行政

集落のお宝
中台にある美味しいお米・野菜・お漬物
中台に咲く綺麗な花
中台にいる素晴らしい職人



道の駅に出荷して
もっと多くの人々に知ってほしい!!!

集落住民の疑問

「1人でやるには大きな負担では?」

「車がなければ出荷できない!!!」

「いつも家で食べているようなものでも売れるの?」

道の駅への住民参加システム

出荷したいものを集落住民の拠点に集める



道の駅スタッフが住民の拠点まで回収に来る



道の駅に出荷

集落住民の負担が軽減！！
道の駅に並ぶ商品が増える！！

- 今までになかった新しい「**中台ブランド**」の誕生
- 新たな生きがい**が生まれる
- 商品売ることを通じて**集落をアピール**できる ●

道の駅で実際にはこんなことができる！

集落の盛んな交流を利用して
郷土料理や加工食品を各家庭で出し合ったり
料理教室、料理講習会などを開催
ほうきの販売
中台のお宝の展示(漆器や、写真、水墨画など)



ご清聴ありがとうございました

